

# 弥生から奈良時代の歴史年表

人物の墓誌は井上越夫氏<sup>31)</sup>、及び池田仁三氏<sup>59)</sup>のデータによるが没年干支から西暦年への比定は修正したものもある。国外のデータは中西正和氏の歴史データベース<sup>64)</sup>を多く引用している。

BC/AD	西暦	干支	和年号	時代	大王・天皇(年齢)	中国	国内及び中国/韓半島諸国の主な記録と注釈 (月日は陰暦 及び西暦年を附記)	
BC	263	戊戌		弥 生 前 期			この年、 <b>ローマ</b> がシチリア島のシラクサを占領する(第1次ポエニ戦争の発端)。ゼノン(Zenon,Kypros)没。72歳(ギリシャの哲学者でストア派の祖) <sup>64)</sup> 。	
BC	262	己亥					紀元前5世紀からイタリア南部・ナポリ湾湾岸の <b>古代都市・ポンペイ</b> が栄える。ポンペイ(ラテン語:Pompeii、イタリア語:Pompei)は、1世紀までナポリ近郊にあった都市国家 <sup>64)</sup> 。	
BC	261	庚子						
BC	260	辛丑						[秦の(昭王)47年]この年、秦の將軍・ <b>白起</b> が、趙(ちよう)の趙括軍を破る。 <b>40万の趙括の士卒</b> が降伏するが白起はことごとく <b>生き埋め</b> にして殺す <sup>64)</sup> 。
BC	259	壬寅						[秦の(昭王)48年1月]この月、趙政(後に <b>秦の始皇帝</b> となる <b>嬴政</b> )が趙の都の邯鄲で子楚夫人の子として誕生 <sup>64)</sup> 。
BC	258	癸卯						
BC	257	甲辰						[秦の(昭王)50年11月]、秦の <b>白起</b> が邯鄲攻撃を諫めたため昭王に <b>自害</b> させられる <sup>64)</sup> 。
BC	256	乙巳						
BC	255	丙午						
BC	254	丁未						
BC	253	戊申						
BC	252	己酉						
BC	251	庚戌						[秦の(昭王)56年]この年、秦の昭王が没し、 <b>孝文王</b> が即位する <sup>64)</sup> 。
BC	250	辛亥						[秦の(孝文王)2年]この年、孝文王が没し、 <b>子楚(莊襄王)</b> が即位する <sup>64)</sup> 。
BC	249	壬子						
BC	248	癸丑						
BC	247	甲寅					(参考) 秦	[秦の(孝文王)4年]莊襄王が、韓・趙・魏・楚・燕・斉の六国を滅ぼし <b>秦を建国</b> 。この年、秦で莊襄王が没し <b>嬴政</b> が王となる <sup>64)</sup> 。
BC	246	乙卯					徐福	
BC	245	丙辰					1歳	<b>徐福、誕生</b> (墓誌から推算)。秦徐福の先祖は炎帝・神農氏(諱・農作日子=謚・高皇産霊神)の一男・有熊氏の四男・忠顕氏から始まる。周国王朝時代の神農氏(諱・農作日子=謚・高皇産霊神)の二男・朝天氏を一代とし、二代に陽清氏・・・四代に新羅記氏を生む <sup>100)</sup> 。
BC	244	丁巳					2歳	<b>徐福</b> は古代中国の名門出身で <b>孔子の高弟/子路</b> の七代め <sup>100)</sup> 。
BC	243	戊午					3歳	
BC	242	己未					4歳	
BC	241	庚申					5歳	
BC	240	辛酉					6歳	この年、第1次ポエニ戦争が終り、 <b>シチリア島がローマ領</b> となる <sup>64)</sup> 。
BC	239	壬戌					7歳	
BC	238	癸亥				8歳	[秦の嬴政王9年4月]、この月、秦のロウアイ(長信侯)が反乱を起こすが失敗し <b>車裂きの刑</b> に処される。この年、 <b>彗星</b> が出現し時には天空全体を覆う(史記)。ハレ一彗星と推定されている <sup>64)</sup> 。	
BC	237	甲子				9歳		
BC	236	乙丑				10歳		
BC	235	丙寅				11歳		
BC	234	丁卯				12歳		
BC	233	戊辰				13歳		
BC	232	己巳				14歳		
BC	231	庚午				15歳		
BC	230	辛未				16歳	[秦の嬴政王17年]、この年、秦により <b>韓が滅亡</b> する <sup>64)</sup> 。	
BC	229	壬申				17歳		
BC	228	癸酉				18歳	[秦の嬴政王19年]、この年、秦により <b>趙が滅亡</b> する <sup>64)</sup> 。大気津比売命没、癸酉(228)年4月17日	
BC	227	甲戌				19歳		
BC	226	乙亥				20歳	<b>徐福</b> 、成人して勉強し本朝の国学を広く学び、 <b>中天竺(インド)に留学</b> <sup>100)</sup> 。	
BC	225	丙子				21歳	[秦の嬴政王22年]、この年、秦により <b>魏が滅亡</b> する <sup>64)</sup> 。	
BC	224	丁丑				22歳		
BC	223	戊寅				23歳	[秦の嬴政王24年]、この年、秦により <b>楚が滅亡</b> する <sup>64)</sup> 。	
BC	222	己卯				24歳	[秦の嬴政王25年]、この年、秦により <b>燕が滅亡</b> する <sup>64)</sup> 。	
BC	221	庚辰				25歳	[秦の26年]この年、秦王朝 <b>嬴政</b> 、 <b>韓・趙・魏・楚・燕・斉</b> の統合を完成し統一王朝を形成 <sup>16)</sup> 。秦王/嬴政が中国を統一して <b>始皇帝</b> を名乗る <sup>64)</sup> (38歳)。徐福の故郷・ <b>斉</b> が秦に滅ぼされて滅亡、秦に併合される(徐福:25歳 墓誌から推算)。	
BC	220	辛巳				26歳	[秦の始皇帝2年]、この年、始皇帝が渭水上流域へ第1回の天下巡行を行う <sup>64)</sup> 。	
BC	219	壬午				27歳	[秦の始皇帝3年]、この年、始皇帝が山東半島へ第2回天下巡行。齊人 <b>徐市(徐福)</b> ら上書し、海中に三神山ありと言う。名を蓬萊・方丈・瀛洲といい、仙人ここに居す。身を清めて童男女と共にこれを求めんことを請う。始皇は、徐市と童男女数千人を海に出し仙人を求めさせた(徐福、第1回め出航)。(史記・始皇帝本紀第六)。徐福は東海の島・日本列島に仙薬を求めると偽り、一族五百数十名を引き連れて集団移住した <sup>100)</sup> 。	
BC	218	癸未				28歳	始皇帝が山東半島へ第3回天下巡行を行う <sup>125)</sup> 。徐福、第2回め出航(徐福:二十八歳 墓誌から)	
BC	217	甲申				29歳		
BC	216	乙酉				30歳		
BC	215	丙戌				31歳	この頃、須佐之男尊の父/布都命 誕生(須佐之男尊の子の墓誌から推算)。	
BC	214	丁亥				32歳	[秦の33年]、この年、秦の <b>始皇帝</b> が <b>長城建設</b> に着手する <sup>64)</sup> 。	
BC	213	戊子				33歳	この年、秦の始皇帝が李斯の提言により、批判する者を抑えるために詩経、尚書、百家の語を対象にした <b>焚書令</b> を発する( <b>焚書事件</b> ) <sup>64)</sup> 。	
BC	212	己丑				34歳	[齊人 <b>徐市</b> ら巨万の費用を費やすも、ついに仙薬を得ず <sup>125)</sup> 。始皇帝:四七歳 徐福:三十四歳。[秦の始皇帝35年]この年、 <b>秦始皇帝</b> が盧生らが皇帝を誹謗したのをきっかけに咸陽で人民を惑わした者、 <b>460名を穴埋め</b> にする( <b>坑儒事件</b> ) <sup>125)</sup> 。	
BC	211	庚寅				35歳		

BC	210	辛卯			36歳		始皇は徐福に命じ、神の持つ珍品を求めさせたが帰り偽って云う。…『神は、お前の秦王の供物が少ないので見せることはよいが与えるわけにはいかない』と。…『どんな供物を献げたらよろしいのでしょうか』と尋ねる。海神は答えて『良家の童男・童女および百工を献ずれば望みが叶えられよう』と言いました。始皇、おおいに悦び童男女三千人、これに五穀の種と百工を加えて派遣した。しかし徐福は平原広沢を得て王として止まり来たらず。秦の民はこのため嘆き悲しみ、乱を起こそうという反始皇帝勢力が十軒のうち六軒にも増えた。(史記・淮南衡山列伝伍被の証言)。徐福は童男女三千人・百工・五穀の種を携えて中国大陸を最終船出(36歳)。この年、徐福の出航を見送った始皇帝は、宮都・咸陽へ帰る途上、千童城から百キロほどの平原津で発病。その年の夏7月、帰らぬ人となる(176)。中国陝西省の秦始皇帝陵墓に葬られる。始皇帝瀦政49歳、没)。
BC	209	壬辰			37歳		[秦の二世皇帝1年]、この年、趙高が郎中令となる(64)。
BC	208	癸巳			38歳		[秦の二世皇帝2年7月]、この月、李斯(Li Si)が次男とともに趙高によって腰斬の刑に処せられる。日本列島各地の海岸線近辺に、「徐福は中国大陸から不老長寿の薬草を求めて当地に渡来した」という伝説がある。九州から中四国、紀伊半島、富士山周辺、北は青森、それに東海の離島・八丈島や韓国の済州島にも息づいている。それは「徐福は大陸から不老長寿の仙薬を探し求めてこの地に来た」と云うのが共通している。確かな伝承として残っているものだけでも全国で三十七カ所 <sup>176)</sup> にのぼる。
BC	207	甲午	弥		39歳	秦	徐福一族と数千人の集団渡来は、長江流域の進んだ稲の品種や水田稲作、機織り等、弥生文明を日本列島にもたらした。[漢の(高祖)1年2月]この月、項羽が諸侯を立てて王とする。7月、劉邦が関中侵攻を開始(楚漢戦争が始まる)。8月、義帝(Yi-di)が、項羽の命を受けた黥布に暗殺される(64)。
BC	206	乙未			40歳	漢	漢の(高祖)2年4月、劉邦が彭城に入城するが、項羽が油断をつけてこれを大破。劉邦は滎陽に退く(彭城の戦い)。8月、韓信が楚に寝返った魏を平定する。9月、韓信が、背水の陣を用いて趙軍を破る。11月、項羽が滎陽への本格的な侵攻を始める(滎陽の戦い) <sup>64)</sup> 。
BC	205	丙申	生		41歳		[漢の(高祖)3年10月1日]、漢の韓信軍10万と楚の龍且軍20万が濰水を挟んで対峙する(64)。
BC	204	丁酉			42歳		[漢の(高祖)4年11月]、この月、漢の韓信が垓下で楚の項羽の軍を破る。項羽(Xiang Yu)は敗走の途中、烏江で自刎(自分で自分の首をはねて死ぬこと)して果てる(29歳) <sup>64)</sup> 。
BC	203	戊戌	前		43歳		[漢の(高祖)5年1月4日]、劉邦が洛陽で皇帝に即位し漢を建国する(前漢を建国。秦の崩壊後、劉邦(高祖)が建てた統一王朝(前202~後8年)。首都は長安。東の洛陽を都とした後漢(東漢)に対して、西漢とも呼ばれる。秦の制度を継承しつつ独自の支配体制を確立、以後二千年の中央集権政治の骨格を形成すると同時に漢字・漢文によって代表される漢民族の文化の母胎となった。14代・210年で王莽に篡奪されて滅亡、25年に後漢として復活) <sup>64)</sup> 。
BC	202	己亥			44歳	漢	[漢の(高祖)7年4月]、この月、漢の都が長安に移される(64)。
BC	201	庚子	期		45歳		
BC	200	辛丑			46歳		
BC	199	壬寅			47歳		
BC	198	癸卯			48歳		
BC	197	甲辰			49歳		
BC	196	乙巳			50歳		
BC	195	丙午			51歳	漢	[漢の(高祖)12年4月]、劉邦(Liu Bang)が長楽宮で病没。61歳(漢の高祖。太子盈があとを継いで帝位につく(恵帝)。この年、衛満が古朝鮮の王となる。衛氏朝鮮が始まる(64)。
BC	194	丁未			52歳		
BC	193	戊申			53歳		
BC	192	己酉			54歳		
BC	191	庚戌			55歳		
BC	190	辛亥			56歳		
BC	189	壬子		(推定)	57歳		
BC	188	癸丑		すまのお 須佐之男尊	58歳	漢	[漢の(恵帝)7年7月13日]、恵帝が死去し少帝恭が帝位に就くが幼弱なため呂太后が後見として実権を握る(64)。この頃、須佐之男尊誕生(娘・都麻津比賣、大屋津比賣命の生存年代から推定)。須佐之男尊はもと沸流国王・布都の子として出雲で誕生。平田市塩津町の石上神社・祭神/布都魂命 <sup>2)</sup> 。天理市石上神宮の祭神/布都斯御魂大神(スサノオ)の父。
BC	187	甲寅	弥	2歳	59歳		
BC	186	乙卯	生	3歳	60歳		櫛稲田姫、誕生(御子の生存年代から推測。須佐之男尊の正妻)。
BC	185	丙辰		4歳	61歳		
BC	184	丁巳		5歳	62歳		
BC	183	戊午	前	6歳	63歳		
BC	182	己未		7歳	64歳		徐福の孫・福萬が誕生(徐福:六十四歳 墓誌から推算)。
BC	181	庚申	期	8歳	65歳		[漢の(高后)7年1月]、呂后が悪口を言ったといわれる趙王友を呼びつけて謹慎、餓死させる(64)。
BC	180	辛酉			66歳	漢	徐福、没。墓碑「辛酉年二月十七日 年六十六」(八女童男山1号古墳石室及び陵前石碑)。八女童男山古墳群は吉野ヶ里遺跡に近い。[漢の(高后)8年3月]、呂后が脇の下の病にかかる。7月、呂后(Lue hou)が死去。9月、呂氏の反乱を抑えて文帝が即位する(64)。
BC	179	壬戌		10歳			
BC	178	癸亥		11歳			
BC	177	甲子		12歳			
BC	176	乙丑		13歳			
BC	175	丙寅		14歳			
BC	174	丁卯		15歳			
BC	173	戊辰		16歳			
BC	172	己巳		17歳			
BC	171	庚午		18歳			この年、須佐之男尊、櫛稲田姫と結婚(御子の生存年代から推算)。
BC	170	辛未		19歳			須佐之男尊長男/八島野尊、誕生。
BC	169	壬申	弥	20歳			
BC	168	癸酉	生	21歳			須佐之男尊次男/五十猛尊、誕生。
BC	167	甲戌		22歳			
BC	166	乙亥	前	23歳			この年、須佐之男尊長女/都萬津比賣命、誕生。[漢の(文帝)14年]、単于が14万騎を率いて漢に侵入し、多くの住民を捕虜にして大量の家畜を奪う。文帝は反撃するが単于はあっさり引き揚
BC	165	丙子	期	24歳			げ
BC	164	丁丑		25歳			
BC	163	戊寅		26歳			
BC	162	己卯		27歳			向津毘売尊、誕生/伊耶那岐尊の娘
BC	161	庚辰		28歳			
BC	160	辛巳		29歳			この頃、須佐之男尊、出雲国を建国、推されて国王となる。
BC	159	壬午		30歳			
BC	158	癸未		31歳			須佐之男尊二女/大屋津比賣命、誕生。
BC	157	甲申		32歳			

BC	156	乙酉			33歳				
BC	155	丙戌			34歳				
BC	154	丁亥	連	和	和国王須佐之男尊				須佐之男尊、出雲から隠岐・越・加賀・能登等の諸豪族を連合して和国を建国。大阪湾岸地方にも遠征したが河内族の統合に失敗。次男の五十猛命等連れて木国=紀国を統合2)。
BC	153	戊子	合		2年	36歳			「樂浪海中有倭人、分爲百餘國、歲時來獻見云」(倭人は樂浪海の島に在り百余國をなし、歲時を以て來たり獻見すと云う(漢書地理志)。日本列島各地の豪族が支配する国々の連合体とみられる。その後の中国はこれを倭国と呼んだ(漢書等)60)。
BC	152	己丑			3年	37歳			
BC	151	庚寅	和		4年	38歳			
BC	150	辛卯			5年	39歳			
BC	149	壬辰	国		6年	40歳			
BC	148	癸巳			7年	41歳			
BC	147	甲午			8年	42歳			
BC	146	乙未			9年	43歳			須佐之男尊の第5子・三男・大歳尊、誕生。後に饒速日に改名。
BC	145	丙申			10年	44歳			
BC	144	丁酉	連		11年	45歳			須佐之男尊三女・須世理姫、誕生。須佐之男尊の末子。
BC	143	戊戌	合		12年	46歳		後元	
BC	142	己亥			13年	47歳			この頃、須佐之男尊、二男・五十猛命を連れて朝鮮半島新羅(斯盧)の曾尸茂梨へ資源・技術探索(神代紀上)。
BC	141	庚子	和		14年	48歳		漢	[漢の後元3年1月]、景帝(Jing-di)が死去。(48歳、前漢の5代皇帝)。武帝が即位する。
BC	140	辛丑			15年	49歳			
BC	139	壬寅	国		16年	50歳			
BC	138	癸卯			17年	51歳			
BC	137	甲辰			18年	52歳			
BC	136	乙巳			19年	53歳			須佐之男尊はこの頃、50歳過ぎに本格的に九州遠征を開始、筑紫・豊・日向を連合し和国を拡大。筑紫日向の豪族/伊弉諾尊を平定、娘・向津姫(記紀のアマテラス)を現地妻に。伊弉諾尊を淡路島に流す(淡路の伊弉諾神宮縁起)。向津姫の別名は大市比売(宮下文書)/大日靈女貴尊・天照大神(紀)/諡号・撞賀木敷御魂天疎向津毘売尊(武内文書)。大市比売は須佐之男尊の妃(記紀)。
BC	135	丙午	連		20年	54歳			須佐之男尊と向津姫の間に多紀理姫、誕生。(後に大己貴尊の日向妻となる43)。
BC	134	丁未	合		21年	55歳			
BC	133	戊申			22年	56歳			須佐之男尊と向津姫の間に熊野楠日尊、誕生(磐余彦=神武天皇の父)43)。
BC	132	己酉	和		23年	57歳			
BC	131	庚戌			24年	58歳			須佐之男尊と向津姫の間に市杵島姫命、誕生43)(弁財天神)。
BC	130	辛亥	国		25年	59歳			
BC	129	壬子			26年	60歳			須佐之男尊と向津姫の間に多岐都姫、誕生43)。
BC	128	癸丑			27年	61歳			
BC	127	甲寅			28年	62歳			
BC	126	乙卯			29年	63歳			
BC	125	丙辰			30年	64歳			須佐之男尊、筑紫(九州)から出雲に帰還。
BC	124	丁巳			31年	65歳没			須佐之男尊、崩御65歳。御神陵は八雲村大字熊野(現・松江市八雲町熊野)にある元出雲国一の宮・熊野大社の元宮の磐座。熊野大社の祭神名諡号「加夫呂伎熊野大神櫛御氣野命」、「熊野大神櫛御氣野命」。高皇産靈神は神留伎命(カムルギ)と曰ふ(古語拾遺)。熊野山の神陵と熊野大社の祭祀はスサノオの末裔・出雲氏に継承され現在に到る。大己貴尊(紀)/大穴牟遲命(記)は須佐之男尊の和国王二代目を継ぎ大国王と。石上神宮では布都斯御魂大神として祀られる。[漢の元朔5年]年、武帝が大規模な匈奴討伐を決意し車騎將軍・衛青に出撃命令を下す。衛青は大勝利を納めるが、この年の秋に匈奴は再び代郡に侵入する64)。
BC	123	戊午				大歳尊			大歳尊は、須佐之男尊の和国建国に活躍した後、須佐之男尊の没前後、筑紫から讃岐、播磨を経て河内、大和をめざして東遷を開始。
BC	122	己未				25歳			大物主神(大歳尊)、讃岐の象頭山(金刀比羅宮)に行宮を構え瀬戸内地方の豪族を統治(金刀比羅宮縁起)。BC2世紀初頭頃から出雲の加茂岩倉遺跡・荒神谷遺跡で銅鐸・銅矛(スサノオ)祭祀が始まる(同遺跡発掘調査報告書)。
BC	121	庚申				26歳			
BC	120	辛酉	前			27歳			
BC	119	壬戌				28歳			天道根命、誕生(紀国造家(日前・國懸神宮を祭祀)の祖。天御食持命の兄。神皇産靈尊五世孫(旧事本紀)。
BC	118	癸亥	大			29歳			
BC	117	甲子				30歳			五十猛命は木(紀)国の始祖王(伊太祁曾神社の主祭神)。伊太祁曾神社はもと日前・國懸神宮の地にあったが、後に社地を譲って山東に遷宮した89)。
BC	116	乙丑	和			31歳	元鼎		五瀬命、誕生(伊波礼昆古命(神武天皇)の兄(記紀))。この頃、大歳尊の率いる一団は播磨に移動(大歳神社縁起)。「兵庫」の地名は大歳尊一団の食糧、武器庫の名残で、「神戸」の地名は多くの大歳神社に奉仕する神戸(じんこ)のことである。
BC	115	丙寅				32歳		2年	
BC	114	丁卯	時			33歳		3年	
BC	113	戊辰				34歳		4年	
BC	112	己巳	代			35歳		5年	
BC	111	庚午				36歳		6年	この年、ローマで農地法が成立する。公有地専有制限がほぼ撤廃される。[漢の元鼎6年]、漢の武帝が朝鮮に楽浪郡など4郡をおく64)。
BC	110	辛未				37歳	元封		太田・黒田遺跡(和歌山市太田・黒田)はBC2世紀頃から古墳時代までの弥生遺跡(同遺跡発掘調査報告書)。初期遺構は五十猛命一族が居住したとみられる。
BC	109	壬申				38歳		2年	
BC	108	癸酉				39歳		3年	この年、前漢の武帝が衛氏朝鮮を滅ぼし古朝鮮時代が終焉を告げる。その地に楽浪・臨屯・玄菟・真番の4郡を設置64)。
BC	107	甲戌				40歳			狭野命誕生/熊野楠日尊の第4子(後の磐余彦尊=神武天皇)。母は玉依姫43)。
BC	106	乙亥	前	おおとし、にぎはやひ大歳、饒速日に改名			漢		大歳尊の率いる部隊は播磨・摂津辺りに駐屯し河内・大和の豪族らと連合交渉をすすめた。この頃、大歳尊は饒速日に改名(各地神社の祭神名、旧事紀、若狭国彌和神社縁起・桜井市大神神社祭神から大物主大神・大歳尊・饒速日尊は同神であることを検証)。
BC	105	丙子				42歳			饒速日尊一団、播磨から摂津・河内へ東遷23)。
BC	104	丁丑	大			43歳		太初元年	[漢の太初1年]、関東にイナゴが大量発生し西方の敦煌まで飛んで行く64)。

BC	103	戊寅					ひのもめくに 日本国 建国			饒速日命、天磐船に乗りて太虚をめぐりてこの郷に天降り給うに至り、故因りて名付けて虚空見つ日本国と曰ふ(神代紀・神武紀・旧事紀)。饒速日尊、大和に東遷、登美の豪族・登美毘古(長髓彦)と連合成り、長髓彦の妹・御炊屋姫を娶る(神武紀・神武紀・旧事紀)。饒速日尊の長男天香語山命以下、豪族44人の率いる25軍団、船方6人が饒速日尊の大和東遷に随行(旧事紀)。大屋津比賣命 墓碑「戊寅九月二十一日 年五十六」(岩橋前山B53号/將軍塚石室)、都麻津比賣命 墓碑「戊寅七月五日 年六十四」(岩橋前山A46号石室) <sup>59)</sup> 伊太祁曾神社に当初は五十猛命・都麻津姫命・大屋津姫命の三神が祀られていたが、その後朝廷の指示で分祀され、伊太祁曾神社に五十猛命、和歌山市吉礼の都麻津姫神社(都麻津比賣命)、和歌山市和佐の高積神社(大屋津比賣命)に祀られる <sup>89)</sup> 。
BC	102	己卯	和	2年	45歳				饒速日尊(大歳尊)は天神(スサノオ)より天璽瑞宝を授けられ、三十二人の従者と二十五部の物部(軍団)その他を従えて大和に天降られた(先代旧事本紀・天神本紀)。饒速日尊、三輪山麓(桜井市出雲付近)に政庁を置き日本国を建国 <sup>33),62)</sup> (唐子・鍵遺跡)。	
BC	101	庚辰		3年	46歳				饒速日尊、御炊屋姫を娶り宇摩志麻治尊、誕生 <sup>62)</sup> (次男)。	
BC	100	辛巳	時	4年	47歳			天漢元年		
BC	99	壬午		5年	48歳				[漢の天漢2年]、司馬遷が李陵を弁護して宮刑に <sup>64)</sup> 。	
BC	98	癸未	代	6年	49歳				饒速日尊、摂津・河内の国々に稲作等、農耕技術を指導。三島湍咋の娘/勢夜陀多良比売(伊須氣余理比賣命の母)を娶る(神武記)。	
BC	97	甲申		7年	50歳				饒速日尊、東海・関東の諸国、諸豪族を統合に成功。[漢の天漢3年]、この頃、司馬遷が歴史書「史記」全130巻を完成させる <sup>16),64)</sup> 。	
BC	96	乙酉		8年	51歳					
BC	95	丙戌		9年	52歳					
BC	94	丁亥		10年	53歳				この頃、饒速日尊、飽田(秋田)まで遠征、日ノ宮を造営、古い葉草・稲作を指導して大和に帰られた(秋田唐松神社縁起)。地蔵田遺跡(秋田市南東部、御所野台地の南端)から弥生時代の遠賀川系土器が多数出土(同遺跡発掘調査報告)。遠賀川系土器を持ち込んだか土器職人が同伴して伝えたものか。	
BC	93	戊子		11年	54歳					
BC	92	己丑		12年	55歳					
BC	91	庚寅		13年	56歳					
BC	90	辛卯	前	14年	57歳			征和元年	饒速日尊、この頃に飽田(秋田)から大和に帰還、王都の建設。	
BC	89	壬辰		15年	58歳				饒速日尊、「山辺の道」、「海柘榴市」、「初瀬川・大和川の水路」を開鑿。	
BC	88	癸巳	大	16年	59歳					
BC	87	甲午		17年	60歳				[漢の征和4年1月1日]、武帝(Wu-di)没、69歳(漢の皇帝)。1月2日、皇太子・弗陵が即位し昭帝となる <sup>64)</sup> 。	
BC	86	乙未	和	18年	61歳				熊野楠日尊(諡号・彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊 磐余彦尊=神武天皇の父)没。47歳(従兄弟・長男五瀬尊の墓誌から推算)	
BC	85	丙申		19年	62歳					
BC	84	丁酉	時	20年	63歳					
BC	83	戊戌		21年	64歳					
BC	82	己亥	代	22年	65歳				伊須氣余理比賣命誕生(墓誌から推算)。媛蹈鞰五十鈴媛(紀)/御歳姫/饒速日尊と三島湍咋の娘(勢夜多々良比売)の末子(記)	
BC	81	庚子		23年	66歳没			漢	饒速日尊、66歳頃、没(末子伊須氣余理比賣命の墓誌から推算)三輪山頂の奥津磐座に葬られる。諡号天照国照彦天火明櫛玉饒速日尊 <sup>62)</sup> 。	
BC	80	辛丑		1年	うまし まし 宇摩志麻治尊			元鳳元年	[漢の元鳳1年9月18日]、司馬遷(Si-ma Qian)没。66歳(史記の著者) <sup>64)</sup> 。この年から饒速日尊の御子・宇摩志麻治尊は饒速日大王の相続人・伊須氣余理比賣(御歳姫)命の成婚まで大王代理を務めた。古代は末子相続が慣わし <sup>43)</sup> 。	
BC	79	壬寅		2年	23歳			2年		
BC	78	癸卯		3年	24歳			3年		
BC	77	甲辰		4年	25歳			4年		
BC	76	乙巳	前	5年	26歳			5年		
BC	75	丙午		6年	27歳			6年		
BC	74	丁未	大	7年	28歳			元平元年	[漢の元平1年4月]、昭帝(Zao-di)が死去。(前漢の第6代皇帝)。6月、昌邑王・劉賀が即位するが廃され、7月、宣帝が即位する <sup>64)</sup> 。この頃、向津毘売尊没。(記紀の天照大神=大日靈女貴尊)諡/撞賢木殿御魂天疎向津毘売尊(武内文書)。	
BC	73	戊申		8年	29歳					
BC	72	己酉	和	9年	30歳					
BC	71	庚戌		10年	31歳					
BC	70	辛亥	時	11年	32歳					
BC	69	壬子		12年	33歳					
BC	68	癸丑	代	13年	34歳				この頃、和国と日本国の合併話が台頭、亡き和国王須佐之男尊の孫狹野(磐余彦)尊は亡き日本(大和)国王饒速日尊の末娘/伊須氣余理比賣命に婿入りが決まり相互の従兄弟らが奔走 <sup>2)</sup> 。	
BC	67	甲寅		14年	35歳				磐余彦尊(狹野命)、是年、太歳甲寅。冬十月丁巳の朔辛酉に親ら諸皇子を率いて西の宮より発つ <sup>33),62)</sup> 。 「雍熙元年、日本國の僧尙然、其の徒五、六人と海に浮かんで至り、銅器十事並びに本國職員令・壬年代紀各一卷を獻す。第一に天御中主…第十八代には素戔嗚尊(須佐之男尊)、また「彦瀲尊まで凡そ二十三世、並びに筑紫日向宮に都す。彦瀲(熊野楠日尊)の第四子を神武天皇と号す。筑紫の宮より入りて大和州橿原宮に居す」(宋史日本伝)。	
BC	66	乙卯		15年	36歳					
BC	65	丙辰		16年	37歳					
BC	64	丁巳		17年	38歳					
BC	63	戊午		18年	39歳				倭伊波礼毘古命の東遷、紀伊国名草邑に至る。名草戸畔を誅す。五月八日、兄・五瀬尊は長髓彦に撃たれ紀伊龜山で死亡 <sup>33)</sup> (龜山神社御陵)。墓誌「五瀬命 戊午六月三日 年五十四」 <sup>59)</sup> 。	
BC	62	己未		19年	40歳			漢	この頃、磐余彦尊、熊野邑に坐す時、逆らう者蜂の如く起り未だ伏す。中州の豪雄・長髓彦、兵を勤へて相距ぐ、戦ひて戯つこと能わず。(中略)高倉下(天香語山命=饒速日尊の子)、劍節靈を獻る。天孫(磐余彦尊)、剣を得て云々。天香語山命、御祖天孫尊(饒速日尊)に従いて天降り、紀伊国熊野邑に坐す。己未年の春三月の辛卯の朔庚辰に道臣命、軍兵を率いて逆賊を撥ひ伏さしむ云々 <sup>62)</sup> 。熊野の荒坂津で丹敷戸畔を誅す。熊野村に至りしとき疲果えて、熊野の高倉下(天香語山命)から太刀(布都御魂)を授かる。八咫鳥(阿遲鋌高日子根尊)の道案内で吉野河の川尻に至る <sup>33)</sup> 。天香語山命や阿遲鋌高日子根尊らが出迎えた史実を消す為に記紀が創作した。	

BC	61	庚申			20年	41歳		神爵元年	庚申年九月二十四日、倭伊波礼昆古命、三輪の大物主神(饒速日尊)の娘/伊須氣余理比賣命(三嶋湟咋の娘・勢夜陀多良比売の子)を后とする <sup>33),44)</sup> (諱・彦火火出見=神武天皇)、事代主神(饒速日尊)が三嶋溝咋耳神の女玉櫛媛に娶いて生むる尻/媛踏躰五十鈴媛(伊須氣余理比賣命)をめしれ正妃と為たまふ <sup>33)</sup> 。饒速日尊が大和東遷に随行した32人の豪族の中に三嶋県主等の祖/天神玉命 <sup>62)</sup> がみられ三嶋湟咋耳はその後裔か。
BC	60	辛酉		① じんむ 神武		い はれ ひこ 伊波礼昆古命		2年	石上神宮(奈良県天理市布留町)は布留魂大神(饒速日尊)を祭神として祀る。「創祀は神武天皇即位元年、宮中に奉祀せらる。崇神天皇七年、宮中より現在地・石上布留の高庭に移し鎮め祀る」(同神宮縁起)。饒速日大王代理の宇摩志麻治尊は重臣らの見守るなか <b>橿原宮</b> で <b>天璽十種瑞宝</b> を安置し神櫛をたてて奉齋、 <b>伊波礼昆古命は大和国王を継承した</b> 。ときに <b>辛酉年春正月庚辰の朔</b> <sup>33),62)</sup> (陽暦換算二月二十一日)。「宇摩志麻治尊、足尼となす。足尼の号は此より始まる」 <sup>33),44),62)</sup> 。「 <b>天道根命</b> を以て <b>紀国造</b> と定める。即ち紀河瀬直の祖なり」 <sup>62),89)</sup> 。「物部連の祖/宇摩志麻治命と大神君の祖/天日方奇日方命、並に拝みて食国の政を申す大夫となる。天日方奇日方命(饒速日尊と活玉依昆売の子・櫛御方命 <sup>33)</sup> /櫛玉命は皇后の兄なり。橿原宮に御宇天皇(神武)、宇摩志麻治命は始めに足尼となり次ぎに食国の政を申す大夫となり大神(饒速日尊)を齋き奉る」 <sup>62)</sup> 。
BC	59	壬戌			2年	49歳		3年	二年の春二月二日、珍彦を倭国造とする。黒速を磯城県主、剣根を葛城国造とする。又、頭八咫鳥(武角身尊=阿遲鎧高日子根尊)に賞を給う。その後裔は葛野主殿屋主部(山城国葛野郡葛野郷)ら是なり(神武紀)。宇摩志麻治命・天日方奇日方命、食国の政を申す大夫となる。天日方奇日方命は皇后の兄、大神君の祖なり <sup>62)</sup> 。[漢の神爵3年4月8日]、松花江流域に天帝の子・解慕漱(ヘモス)が訖升骨城(コルスンコルソン)に天降り、王を名乗って国の号を <b>北扶餘</b> (プツヨ)と定める <sup>64)</sup> 。
BC	58	癸亥			3年	50歳		4年	
BC	57	甲子			4年	51歳		5年	
BC	56	乙丑			5年	52歳		6年	
BC	55	丙寅			6年	53歳		7年	
BC	54	丁卯			7年	54歳		8年	<b>天道根命没、66歳</b> 。紀国造荒河戸畔の祖 天道根命は日前・国懸神宮撰社(和歌山市)の <b>天道根命社</b> に祀られ、日前神宮の撰社には饒速日尊の大和東遷に随伴した天香語山命ら三十人が祀られている <sup>89)</sup> 。
BC	53	戊辰			8年	55歳		9年	
BC	52	己巳			9年	56歳		甘露元年	
BC	51	庚午			10年	57歳		2年	
BC	50	辛未			11年	58歳		3年	[漢の甘露3年12月12日]、 <b>宣帝</b> (Xuan-di)が病死する。43歳(前漢の第9代皇帝)。皇太子が <b>元帝</b> として即位する <sup>64)</sup> 。この年、 <b>倭人</b> らが兵を率いて始林(後の新羅)の辺境を犯さんと欲す。始祖の神徳あるを聞きて乃ち帰る(三国史記新羅本紀始祖赫居世西千八(BC50)年条)。
BC	49	壬申			12年	59歳		4年	
BC	48	癸酉			13年	60歳			
BC	47	甲戌			14年	61歳			
BC	46	乙亥			15年	62歳			
BC	45	丙子			16年	63歳没			<b>磐余彦尊</b> 崩 墓誌「神倭伊波禮昆古命 丙子三月十一日年六十三」(慈明禅寺/橿原宮跡。凡そこの <b>神倭伊波礼昆古天皇</b> の御年は壹百参拾漆歳ぞ。御陵は畝傍山の北の方の白檮尾の上に在り <sup>44)</sup> 。明治時代に橿原神宮を造営し神武天皇と皇后媛踏躰五十鈴媛(伊須氣余理比賣命)を祀る。ジュリアス・シーザー(ユリウス・カエサル)が <b>ユリウス暦</b> を採用。これで1年は365日と1/4とし、4年毎に2月に閏日を設けることになる。ユリウス暦は1582年にグレゴリウス13世が改正し今日に至る <sup>64)</sup> 。
BC	44	丁丑		② すいせい 綏靖		みぬながわみみ 神湟名川耳命			<b>神湟名川耳命(綏靖天皇)</b> は、神倭伊波礼昆古命(神武)が三輪の大物主神の子・伊須氣余理比賣命を后として生まれた三男 <sup>44)</sup> 。 <b>葛城の高岡宮</b> で天下治らしめき <sup>44)</sup> 。神湟名川耳(綏靖)天皇は神日本磐余彦(神武)天皇の第三子なり。母は媛踏躰五十鈴媛命と曰す、事代主神(饒速日尊)の太女なり <sup>33),62)</sup> 。 <b>天香語山命</b> 、尾張・美濃・越を開拓、弥彦神社(式内社(名神大)・越後国一宮・国幣中社・別表神社、新潟県西蒲原郡弥彦村)に祀る。ユリウス・カエサル(ジュリアス・シーザー)(Caesar,Gaius Julius)が共和政の伝統を守ろうとするカシウスやブルータスらによって殺害される。57歳。ジュリアス・シーザー(ユリウス・カエサル)の遺言状が公表され、姪の子オクタヴィアヌスが養子、相続人に指名され、ローマ市民ひとりひとりに金が贈られることが判明。民衆はシーザーの暗殺者を追い出す <sup>64)</sup> 。
BC	43	戊寅				16歳			
BC	42	己卯				17歳			神湟名川耳命の庶兄、手研耳命、行年已長いて久しく朝機を暦たり云云。二の弟を害はむことを図る。時に、太歳 <b>己卯(綏靖天皇紀・旧事紀)</b> 。
BC	41	庚辰			1年	18歳			元年の春正月八日に神湟名川耳命神湟名川耳尊、即位す。是年、太歳 <b>庚辰</b> 。春四月、 <b>神八井耳命(綏靖兄)</b> 、薨去。神八井耳命は多臣の始祖なり <sup>33)</sup> 。多氏はもと意富(臣)氏と書き出雲の熊野大社の中を流れる意富川(今は意宇川)の名をとっている。また多氏は後に太氏を名乗り太朝臣安麻呂は古事記編纂の総裁を掌った <sup>44)</sup> 。
BC	40	辛巳			2年	19歳			神湟名川耳(綏靖)天皇2年春正月、五十鈴依媛を立てて皇后と為したまふ。即ち天皇の姨(母の姉妹)なり <sup>33),62)</sup> 。
BC	39	壬午			3年	20歳			
BC	38	癸未			4年	21歳		建昭元年	
BC	37	甲申			5年	22歳			<b>高句麗始祖・東明王</b> が即位(三国史記)
BC	36	乙酉			6年	23歳			
BC	35	丙戌			7年	24歳			[漢の建昭4年6月27日]、漢で <b>成帝</b> が即位し皇太后の兄の <b>王鳳</b> が <b>実権</b> を握る <sup>64)</sup> 。
BC	34	丁亥			8年	25歳			
BC	33	戊子			9年	26歳			中国前漢の元帝の宮女。名は嬪(しよう)。昭君は字。紀元前33年、匈奴との和親のため呼韓邪単于に嫁しその地で没した <sup>16)</sup> 。謡曲「昭君」
BC	32	己丑			10年	27歳			
BC	31	庚寅			11年	28歳			
BC	30	辛卯			12年	29歳			
BC	29	壬辰			13年	30歳			
BC	28	癸巳			14年	31歳		漢	<b>伊須氣余理比賣、没</b> 。墓誌「伊須氣余理比賣命 癸巳六月十七日 年五十五」大和神社(天理市)に八千矛大神(須佐之男尊)・日本太国魂大神(饒速日尊)と並んで <b>御歳大神</b> として祀られている。また橿原神宮には神武天皇とともに <b>皇后・媛踏躰五十鈴媛</b> (伊須氣余理比賣命=御歳姫命)が祀られている。また、後に大神白堤命が佐井坐大神御子神社を創始し狭井大神(饒速日尊)と比売大神(伊須氣余理比賣命)を祀った <sup>43)</sup> 。
BC	27	甲午			15年	32歳			
BC	26	乙未			16年	33歳			
BC	25	丙申			17年	34歳			
BC	24	丁酉			18年	35歳			

BC	23	戊戌	代	19年	36歳				
BC	22	己亥		20年	37歳				
BC	21	庚子		21年	38歳				
BC	20	辛丑		22年	39歳				
BC	19	壬寅		23年	40歳				師木津日子玉手見命(安寧天皇)誕生(墓誌から推算)。
BC	18	癸卯		24年	41歳				百濟始祖王/温祚即位(三国史記)。河南慰禮城に百濟建国、東明廟の建立64)。
BC	17	甲辰		25年	42歳				二十五年春正月七日、磯城津彦玉手看尊を皇太子とする33)。玉手看尊は3歳。
BC	16	乙巳	大	26年	43歳				
BC	15	丙午	和	27年	44歳				
BC	14	丁未	時	28年	45歳				
BC	13	戊申	代	29年	46歳				
BC	12	己酉		30年	47歳				
BC	11	庚戌		31年	48歳				
BC	10	辛亥		32年	49歳				
BC	9	壬子		33年	50歳没				綏靖天皇 崩御 神渟名川耳命の享年は四十五歳44)。卅三年夏五月、天皇不豫。癸酉の日、崩りましぬ。時に年八十四33)。綏靖天皇 墓誌「神渟名川耳命 壬子五月十日年五十」(衝岡/新沢北端近傍)。
BC	8	癸丑		③	たまてみ 玉手見命	漢			師木津日子玉手見命(安寧)は、綏靖天皇が師木県主の先祖・河俣毘売を娶って生んだ御子。片塩の浮穴宮(大阪府中河内郡/大和高田市とも)に坐して天下治らしめしき44)。磯城津彦玉手看(安寧)天皇の母を五十鈴依媛命と曰す、事代主神の少女なり。神渟名川耳(綏靖)天皇卅三年秋七月癸亥朔乙丑、天皇即位す33)。元年の冬十月二十一日に神渟名川耳(綏靖)天皇を倭の桃花島田丘上陵に葬りまつる、皇后を尊びて皇太后と曰す。是年、太歳癸丑33)。62)。
BC	7	甲寅		2年	13歳				
BC	6	乙卯		3年	14歳				師木津日子玉手見(安寧)天皇三年春正月戊寅朔壬午、渟名底仲媛命を立てて皇后と為したま
BC	5	丙辰	大	4年	15歳				
BC	4	丁巳	和	5年	16歳				
BC	3	戊午	時	6年	17歳				
BC	2	己未	代	7年	18歳		元寿元年		
BC	1	庚申		8年	19歳		2年		[漢の元寿2年6月]、この月、袁帝(Ai-di)が死去(26歳、前漢の第12代皇帝)。王莽が大司馬に再任され[漢の元寿2年9月]、平帝が即位する。王莽が実権を握る64)。
AD	1	辛酉	時	9年	20歳		元始元年		
AD	2	壬戌	代	10年	21歳		2年		
AD	3	癸亥		11年	22歳		3年		
AD	4	甲子		12年	23歳		4年		
AD	5	乙丑		13年	24歳		5年		[漢の元始5年12月]、王莽が平帝を毒殺し、孺子嬰を擁して仮皇帝となる64)。
AD	6	丙寅		14年	25歳		6年		
AD	7	丁卯		15年	26歳		7年		
AD	8	戊辰	大	16年	27歳		新		この年、前漢が滅び王莽が「新」を建国。[漢の初始1年11月25日]、王莽が帝位に就き新を建国。前漢が滅亡64)。
AD	9	己巳	和	17年	28歳				
AD	10	庚午	時	18年	29歳				
AD	11	辛未	代	19年	30歳				
AD	12	壬申		20年	31歳				
AD	13	癸酉		21年	32歳				
AD	14	甲戌		22年	33歳				
AD	15	乙亥		23年	34歳				
AD	16	丙子		24年	35歳				
AD	17	丁丑		25年	36歳				
AD	18	戊寅		26年	37歳				
AD	19	己卯		27年	38歳				
AD	20	庚辰	大	28年	39歳				常根津日子命誕生(墓誌から推算)。安寧天皇の王子44)。
AD	21	辛巳	和	29年	40歳				
AD	22	壬午	時	30年	41歳				
AD	23	癸未		31年	42歳		更始元年		[漢の更始1年9月]、この月、王莽(Wang Mang)が、長安を陥落させた劉玄の軍により殺される(68歳)。(新が滅亡)64)。
AD	24	甲申		32年	43歳		2年		[漢の更始2年2月]、更始帝が長安に遷都する64)。
AD	25	乙酉	大	33年	44歳		後漢 建武		[漢の更始3年6月22日]・[後漢の建武1年6月22日]、劉秀が帝位に就き、漢朝を再興する(後漢の光武帝)。(後漢の建武1年8月]、赤眉が劉盆子を皇帝に擁立し更始帝を廃して長安を占領、後漢建国(後漢書)。
AD	26	丙戌	和	34年	45歳		2年		
AD	27	丁亥	時	35年	46歳		3年		
AD	28	戊子	代	36年	47歳		4年		
AD	29	己丑		37年	48歳		5年		
AD	30	庚寅		38年	49歳没				安寧天皇 崩 師木津日子玉手見命の享年は49歳である(安寧記)。安寧天皇卅八年冬十二月庚戌朔乙卯、天皇崩りましぬ。時に年五十七33)。安寧天皇墓誌「玉手見命 庚寅十二月六日年四十九」(片塩浮穴宮跡)。
AD	31	辛卯		④	すきとも 鋤友命	後漢			大倭日子鋤友命(安寧天皇)は輕(樺原市大輕町の地)の境崗宮に坐して天下治らしめしき。河俣毘売の兄、県主波延の娘・阿久斗比売を娶って生んだ御子は、常根津日子伊呂泥命、大倭日子鋤友命(懿徳天皇)、師木津日子命44)。大日本彦相友尊(懿徳天皇)は磯城津彦玉手看(安寧)天皇の第二子なり。母を渟名底仲媛命と曰す、事代主神(饒速日尊)の孫・鴨県主の女なり。元年の春二月四日に、皇太子、天皇即位す。九月の丙子の朔乙丑に皇后を尊びて皇太后と曰す。是年、太歳辛卯33)。
AD	32	壬辰	大	2年	33歳		8年		懿徳天皇二年正月五日に都を輕の地に遷す。是を曲峽宮と謂う。二月十一日、天豊津媛命を皇后とす33)。師木縣主の祖賦登麻和訶比売命、亦の名は飯日比売命を娶し、御子・御真津日子訶恵志泥命(孝昭)、多芸志比古命の二柱。多芸志比古命は血沼之別・多遲麻の竹別・葦井の稲置の祖44)。
AD	33	癸巳	和	3年	34歳		9年		
AD	34	甲午	時	4年	35歳		10年		
AD	35	乙未		5年	36歳		11年		
AD	36	丙申		6年	37歳		12年		[後漢の建武12年11月]、蜀に自立していた公孫述が滅ぼされ、後漢の統一が完成する64)。
AD	37	丁酉		7年	38歳		13年		

AD	38	戊戌	8年	39歳			14年	10月、ローマで火災が発生。これを機に火災による被害は全額国家が保証することが決まる <sup>64)</sup> 。
AD	39	己亥	9年	40歳			15年	[後漢の建武15年]、耕地、戸籍の調査が実施される <sup>64)</sup> 。
AD	40	庚子	10年	41歳			16年	
AD	41	辛丑	11年	42歳			17年	
AD	42	壬寅	12年	43歳			18年	金首露(キムスロ)が駕洛国(金官伽耶)を開く <sup>64)</sup> 。
AD	43	癸卯	13年	44歳			19年	
AD	44	甲辰	14年	45歳			20年	
AD	45	乙巳	15年	46歳			21年	
AD	46	丙午	16年	47歳			22年	
AD	47	丁未	17年	48歳			23年	
AD	48	戊申	18年	49歳			24年	
AD	49	己酉	19年	50歳			25年	
AD	50	庚戌	20年	51歳			26年	
AD	51	辛亥	21年	52歳			27年	元年辛亥の春正月の己酉の朔壬子に太子(相友尊)即天皇位す <sup>62)</sup> 。辛亥は辛卯の誤記。
AD	52	壬子	22年	53歳			28年	
AD	53	癸丑	23年	54歳			29年	
AD	54	甲寅	24年	55歳			30年	
AD	55	乙卯	25年	56歳			31年	
AD	56	丙辰	26年	57歳			建武中元	
AD	57	丁巳	27年	58歳			2年	[後漢の建武中元2年]、光武帝(Guang-wu-di)没。63歳(後漢朝を建国した) <sup>64)</sup> 。後漢(東漢)建武中元二(57)年、貢献した倭奴国の王に「漢委奴国王」と称して印綬を授ける(後漢書 東夷列傳)。金印を授けられたのは第三代・安寧天皇(師木津日子玉手見命)の皇子常根津日子命(38歳)だった(金印画像解析) <sup>59)</sup> 。AD57年、倭の多婆那国生まれの脱解、斯盧(新羅の前身)の4代王になる(三国史記)。脱解はもと多婆那国の所生なり。其の国、倭国の東北一千里に在り(新羅本紀・脱解尼師今即位前紀)。多婆那国とは丹波国か、或いは但馬国か。
AD	58	戊午	28年	59歳				
AD	59	己未	29年	60歳				夏5月、始林(後の新羅)は倭国と友好結び使者を交換(三国史記・新羅本紀 脱解尼師今三年五月条)。
AD	60	庚申	30年	61歳				
AD	61	辛酉	31年	62歳				
AD	62	壬戌	32年	63歳				
AD	63	癸亥	33年	64歳				
AD	64	甲子	34年	65歳没				懿徳天皇 崩。大倭日子組友命の享年は肆拾伍(45)歳、御陵は畝傍山の真名子谷の上にあり <sup>44)</sup> 。卅四年秋九月甲子朔辛未、天皇崩りましめ <sup>33)</sup> 。懿徳天皇 墓碑「組友命 甲子九月八日年六十五」(軽境岡宮跡)。
AD	65	乙丑	⑤ 孝昭	かえしに 詞惠志泥命			後漢	始林は国号を改め鷄林とする(三国史記)。新羅の脱解王が城の西方の始林に鷄の鳴くのを聞き「始林」を「鷄林」と名づけたという「三国史記」の故事から新羅の別名。転じて朝鮮の異称となる <sup>16)</sup> 。
AD	66	丙寅	1年	45歳				常根津日子命(安寧天皇王子)没。(57年に後漢朝に献使を送り、「漢委奴国王」の称号と金印紫綬を下賜される)。墓碑「丙寅三月十六日年四十七」(一貴山銚子塚近傍)。元年の春正月九日に皇太子、即天皇位す。秋七月に都を掖上に遷す。是を池心宮と謂ふ。是年、太歳丙寅(孝昭天皇紀)。御真津日子詞惠志泥命(孝昭天皇)は懿徳天皇の長子。葛城の掖上宮(書紀には池心宮とあり御所市池之内辺りか)(懿徳記)。
AD	67	丁卯	2年	46歳				
AD	68	戊辰	3年	47歳				
AD	69	己巳	4年	48歳				
AD	70	庚午	5年	49歳				
AD	71	辛未	6年	50歳				
AD	72	壬申	7年	51歳				
AD	73	癸酉	8年	52歳				
AD	74	甲戌	9年	53歳				
AD	75	乙亥	10年	54歳				
AD	76	丙子	11年	55歳				
AD	77	丁丑	12年	56歳				
AD	78	戊寅	13年	57歳				
AD	79	己卯	14年	58歳				イタリア南部・ナポリ湾湾岸の古代都市・ポンペイがベスピオ火山の噴火で埋没。(ベスピオ火山のふもとにあって、紀元前五世紀頃から栄えたが、紀元79年8月24日、ベスピオ火山の大爆発により火山礫・火山灰に埋没。その遺跡は18世紀に発掘され、城壁、神殿、円形劇場、壁画などが発見されギリシアの影響の強い都市の全容が明らかにされつつある <sup>16)</sup> 。(遺跡の住居跡には水道が敷かれパン工房跡もみられる)。
AD	80	庚辰	15年	59歳				この年、新羅の脱解王が死亡する(在位23年) <sup>64)</sup> 。
AD	81	辛巳	16年	60歳				
AD	82	壬午	17年	61歳				
AD	83	癸未	18年	62歳				
AD	84	甲申	19年	63歳				
AD	85	乙酉	20年	64歳				
AD	86	丙戌	21年	65歳				
AD	87	丁亥	22年	66歳				
AD	88	戊子	23年	67歳没				孝昭天皇 崩 御真津日子詞惠志泥命の没年は玖拾参(93)歳。御陵は掖上の博多山(御所市三室宇博多山)の上にあり <sup>44)</sup> 。孝昭天皇 墓碑「詞惠志泥命 戊子八月八日年六十七」。
AD	89	己丑	⑥ 孝安	くにおしひと 國押人命			後漢	大倭日子國押人命(孝安天皇)は御真津日子詞惠志泥命(孝昭天皇)の第二子。葛城の室の秋津島宮に坐して天下を治らしめしき <sup>44)</sup> 。元年の春正月二十七日に皇太子、即天皇位す。秋八月の辛巳の朔に、皇后を尊びて皇太后と曰す。是年、太歳己丑 <sup>33)</sup> 、 <sup>62)</sup> 。
AD	90	庚寅	2年	49歳				二年の冬十月に、都を室の地に遷す。是を秋津嶋宮と謂ふ <sup>33)</sup> 。
AD	91	辛卯	3年	50歳				
AD	92	壬辰	4年	51歳				
AD	93	癸巳	5年	52歳				
AD	94	甲午	6年	53歳				
AD	95	乙未	7年	54歳				
AD	96	丙申	8年	55歳				
AD	97	丁酉	9年	56歳				
AD	98	戊戌	10年	57歳				
AD	99	己亥	11年	58歳				

AD 100	庚子		12年	59歳				
AD 101	辛丑	和	13年	60歳				
AD 102	壬寅		14年	61歳				
AD 103	癸卯	時	15年	62歳				
AD 104	甲辰		16年	63歳				
AD 105	乙巳	代	17年	64歳				
AD 106	丙午		18年	65歳				
AD 107	丁未		19年	66歳		永初元年	後漢(東漢)朝「安帝永初元(107)年、倭国王師升等、貢ぎに生口百六十人を献じ請見を願う」(後漢書 東夷列傳)60)。倭国王師升等は倭国押人命21,44)(日本足彦国押人尊33)=孝安天皇)。	
AD 108	戊申		20年	67歳		2年		
AD 109	己酉		21年	68歳		3年		
AD 110	庚戌		22年	69歳		4年		
AD 111	辛亥		23年	70歳		5年		
AD 112	壬子		24年	71歳		6年		
AD 113	癸丑		25年	72歳		7年		
AD 114	甲寅	大	26年	73歳		8年		
AD 115	乙卯		27年	74歳		9年	倭国香媛、倭迹迹日百襲姫を生む33)。倭母母曾毘賣命/孝靈女44)。倭母母曾毘賣命、誕生(墓誌から推算)。	
AD 116	丙辰	和	28年	75歳		10年		
AD 117	丁巳		29年	76歳		11年		
AD 118	戊午	時	30年	77歳没		12年	大倭帯日子國押人(孝安)天皇の御年、壹佰貳拾參歳、御陵は玉手岡の上にあり(孝安記)。孝安天皇 墓誌「國押人命 戊午一月九日年七十七」(室秋津嶋宮跡)。	
AD 119	己未			賦斗迹命		後漢		
AD 120	庚申	代		39歳				
AD 121	辛酉			40歳				
AD 122	壬戌			41歳				
AD 123	癸亥			42歳				
AD 124	甲子			43歳				
AD 125	乙丑			44歳				
AD 126	丙寅			45歳				
AD 127	丁卯	大		46歳				
AD 128	戊辰			47歳				
AD 129	己巳	和		48歳			波瀨夜須毘古(孝元天皇の王子・埴安彦33)誕生(墓誌から推算)。	
AD 130	庚午		⑦ こしれい 孝靈	49歳			大倭根子日子賦斗迹命(孝靈天皇)は黒田の廬戸宮(奈良県磯城郡田原本町黒田)に坐し天下を治めた。大倭帯日子國押人命(孝安天皇)の第二子44)。大日本根子彦太瓊(孝靈)天皇は日本足彦国押人天皇の太子なり。母を押媛と曰す33)。	
AD 131	辛未	時	1年	50歳			孝靈天皇元年の春正月十二日、太子(賦斗迹命)、即天皇位す。是年、太歳辛未33)。	
AD 132	壬申		2年	51歳			孝靈天皇二年春二月丙辰朔丙寅、細媛を立てて皇后と為したまふ。后、大日本根子彦國牽(孝元)天皇を生みたまふ。妃・倭国香媛、倭迹迹日百襲姫命、彦五十狭芹彦命(亦の名は吉備津彦命)、倭迹迹稚屋姫命を生む。亦の妃・組某弟、彦狭島命、稚武彦命を生む。稚武彦命は是れ吉備臣の始祖なり33)。	
AD 133	癸酉	代	3年	52歳				
AD 134	甲戌		4年	53歳				
AD 135	乙亥		5年	54歳				
AD 136	丙子		6年	55歳没			孝靈天皇七十六年春二月丙午朔癸丑、天皇崩りましめ44)。孝靈天皇 墓誌「賦斗迹命 丙子二月八日 年五十五」(奈良片岡古墳近傍)。人皇七代 孝安天皇太子 御諱大日本根子彦太瓊尊。【孝靈天皇】母天足彦國押人娘押媛命。大和国黒田廬戸宮に座し、御年十六歳にて皇太子に立つ、五十三歳にて即位、太歳在辛未、細媛命を立てて皇后と為す。在位七十六年春二月崩御。御壽百二十八歳也。帝常信大山積神、是則ち三嶋大明神也。第三皇子命彦狭嶋王(記は日子寤間命(ひこさしまのみこと)、伊豫國に下り祭礼。大山積大明神、是則ち伊豫之國大三嶋社也(小千・河野・井門家系図141))。孝靈天皇を大山祇神(大山積神)とするのは他にみえない。大山祇神は須佐之男尊か、あるいは饒速日尊の別称と思われる。	
AD 137	丁丑		⑧ こしげん 孝元	くにくる 國玖瓊命			大倭根子日子國玖瓊命(孝元天皇)、輕(橿原市大軽町付近)の堺原宮に坐して天下を治めた44)。大日本根子彦國牽(孝元)天皇は大日本根子彦太瓊(孝靈)天皇の太子なり。母を細媛命と曰す、磯城郡主大目の女なり。元年の春正月十四日、太子、即天皇位す。是年、太歳丁亥33)。孝元天皇元年丁亥の春正月に皇太子(國牽)尊、即天皇位す62)。	
AD 138	戊寅		2年	31歳				
AD 139	己卯		3年	32歳				
AD 140	庚辰	大	4年	33歳				
AD 141	辛巳		5年	34歳				
AD 142	壬午	和	6年	35歳				
AD 143	癸未		7年	36歳			孝元天皇七年春二月丙寅朔丁卯、薨色謎命を立てて皇后と為したまふ。后、二男一女を生む。第一を大彦命、第二を稚日本根子彦大日(開化)天皇と曰す。第三を倭迹迹姫命と曰ふ。妃/伊香色謎命、彦太忍信命を生む。彦太忍信命は是れ武内宿禰の祖父なり33)。薨色謎命は饒速日尊の5世孫62)。人皇八代孝元天皇即位七年、秦徐福 作書記置、人皇三十八代天智天皇十(671)年八月中、蘇我武部両家之世代尾、人皇八代孝元天皇御代より作を正し是に写す者也。中臣 藤原物部麻呂。建久壬子(1192)年八月、右書を写す。富士大宮司 宮下源太夫義仁 謹書(花押)100)。開化天皇元年癸未の春二月に皇太子(稚日本根子彦大日)尊、即天皇位す62)。	
AD 144	甲申	時	⑨ かいが 開花	37歳			若倭根子日子大毘毘命(開化天皇)、春日の伊耶河宮(率川のほとり)に坐して天下を治めた44)。稚日本根子彦大日(開化)天皇は大日本根子彦國牽(孝元)天皇の第二子なり。母を薨色謎命と曰す。穂積臣の遠祖・薨色雄命の妹なり33)。開化天皇、元年の冬十月十三日、都を春日の地に遷す。是を率川宮と謂ふ。是年、太歳甲申33)。	
AD 145	乙酉		2年	38歳				
AD 146	丙戌	代	3年	39歳				
AD 147	丁亥		4年	40歳			この頃から倭国大乱~188年頃まで(魏志・後漢書)	
AD 148	戊子		5年	41歳			比古布都押之信命/(彦太忍信命33)は、孝元天皇が内色許男の娘・伊伽賀色許売を娶り生みまし子44)。伊伽賀色許売(伊香色謎33)命は饒速日尊の六世孫。彦太忍信命は建内宿禰の祖父なり33)。	
AD 149	己丑		6年	42歳				
AD 150	庚寅		7年	43歳				



AD 151	辛卯		8年	44歳						
AD 152	壬辰		9年	45歳						
AD 153	癸巳		10年	46歳					孝元天皇五十七年秋九月壬申朔癸酉、大日本根子彦國牽(孝元)天皇崩りましぬ <sup>33)</sup> 。孝元天皇 墓誌「國玖琉命 癸巳九月三日 年四十六」(軽原宮跡)。	
AD 154	甲午	大和時代	11年	おおひひ大毘毘命						
AD 155	乙未		12年	32歳						
AD 156	丙申		13年	33歳						
AD 157	丁酉		14年	34歳					御真木入日子印恵命、誕生(墓誌から計算)。	
AD 158	戊戌		15年	35歳					遠津年魚目目微比売/木国造荒河刀弁の女(崇神記)誕生(墓誌から計算)。	
AD 159	己亥		16年	36歳						
AD 160	庚子		17年	37歳						
AD 161	辛丑		18年	38歳						
AD 162	壬寅		19年	39歳						
AD 163	癸卯			20年	40歳没					若倭根子日子大毘毘命(開化天皇)の御年は陸拾参歳。御陵は伊邪河の坂の上(開化記)。開化天皇 墓誌「大毘毘命 癸卯四月九日年四十」(若草山、率川宮跡)。
AD 164	甲辰			いにえのみこと印恵命					御間城入彦五十瓊殖尊は稚日本根子彦大日日尊の第二子なり。母を伊香色謎命と曰す。物部氏の遠祖・大棕麻杵の女なり <sup>33)</sup> 。若倭根子日子大毘毘命(開化天皇)は、庶母の伊迦賀色許売命を娶して生みまし御子・御真木入日子印恵命 <sup>44)</sup> 。	
AD 165	乙巳			9歳						
AD 166	丙午			10歳						
AD 167	丁未			11歳					倭国大乱(魏志)。建波邇安王の反逆事件。孝元天皇の妃壇安媛の王子武壇安彦(建波邇夜須毘古 <sup>44)</sup> (40歳)と妻の吾田媛による乱 <sup>33)</sup> 。建波邇夜須毘古命没(128~167年) 墓誌「建波邇夜須毘古命 丁未四月九日年四十」(木津川市山城町 椿井大塚山古墳 山城中校庭の石棺石蓋)。	
AD 168	戊申	大和時代		12歳						
AD 169	己酉			13歳						
AD 170	庚戌			14歳	倭母母曾毘賣女王					
AD 171	辛亥			15歳	1年	57歳				女王卑弥呼(倭母母曾毘賣命)立つ(57歳)。邪馬台国はもと男王を立てて七、八十年間統治したが、その後内乱が起こり暦年相争った。一女子を擁立して王とすることで内乱が治まった。名付けて卑弥呼と曰ふ。卑弥呼は鬼道の宗主として崇められているが、すでに年輩で夫や婿はなく、男が居て政治を補佐している(魏志)。女王卑弥呼は倭母母曾毘賣命、男弟は卑弥呼の弟・五十狹芹命(後に大吉備津日子:50歳)だった(墓誌から計算)。
AD 172	壬子			16歳	2年	58歳				
AD 173	癸丑			17歳	3年	59歳				阿達羅尼師今王二十(173)年五月、倭の女王卑弥呼、使いを遣わし来聘す(三国史記新羅本紀:斯盧国時代)。女王卑弥呼(倭母母曾毘賣命)59歳。
AD 174	甲寅			18歳	4年	60歳				
AD 175	乙卯			19歳	5年	61歳				御間城入彦五十瓊殖尊、年十九歳にして、立ちて皇太子と為りたまふ(崇神天皇即位前紀)。彦太忍信命の子/味師内宿禰命、誕生。
AD 176	丙辰			20歳	6年	62歳				
AD 177	丁巳			21歳	7年	63歳				
AD 178	戊午		22歳	8年	64歳	後漢 靈帝 光和 元年				漢、靈帝の光和年間(178-184年)、倭国乱、相攻伐暦年、乃共立一女子為王(梁書/636年成立)。(卑弥呼は倭迹迹日百襲姫。卑弥呼=女王:ひめみこ)。崇神天皇の妃・木(紀)国造・荒河戸畔の娘・遠津年魚目目微比売が豊木入日子命・豊組入日売命を生む(崇神記)。この年、豊木入日子命/崇神子、誕生(墓誌による)。
AD 179	己未		23歳	9年	65歳	2年				
AD 180	庚申	大和時代	⑩ 崇神	いにえのみこと印恵命	10年	66歳	3年		崇神天皇元年春正月十三日、即天皇位す。是年、太歳甲申(崇神天皇元年紀)。崇神天皇の在世中には甲申年はない。甲申は庚申の誤記とみられる。御真木入日子印恵命(崇神天皇)、師木(奈良県磯城郡)の水垣宮(瑞籬宮(紀)址は三輪山の東南麓の桜井市金屋とみられている)に坐して天下治められた(崇神記)。若倭根子日子大毘々(開化)天皇、庶母(父の妾である母)・伊迦賀色許売命を娶して生みまし御子・御真木入日子印恵命、天下を治らしめし(開化記)。	
AD 181	辛酉			2年	25歳	11年	67歳	4年		
AD 182	壬戌			3年	26歳	12年	68歳	5年		御真木入日子印恵命(崇神天皇)、木国造、名は荒河戸畔の娘・遠津年魚眼眼妙姫を娶って生みまし御子、豊木入日子命、次に豊組入日売命。豊組入日売命は伊勢大神の宮を拝き祭り(崇神記)。崇神天皇、紀伊国荒河戸部の女・遠津年魚眼眼妙姫を妃とし豊城入彦命、豊組入日売命を生む(崇神記)。荒河荘の豪族・荒河兵衛尉平野俊尊は荒河戸畔の後裔(高野山文書・平野家系譜)。
AD 183	癸亥		和	4年	27歳	13年	69歳	6年		
AD 184	甲子			5年	28歳	14年	70歳	中平		
AD 185	乙丑		時	6年	29歳	15年	71歳	2年		豊組入日売命誕生(墓誌から計算)。崇神天皇の妃・木(紀)国造・荒河戸畔の娘・遠津年魚目目微比売が豊組入日売命を生む(崇神記)。崇神天皇六年、天照大神を以て豊組入日売命に託けまつりて、倭の笠籠邑に祀る。仍りて磯堅城の神籬を立つ。日本大魂神を以ては、淳名城入日売命に託けて祀らしむ。然るに淳名城入日売、髪落ちて體瘦みて祀ること能わず(崇神天皇六年条)。豊組入日売は1歳、淳名城入日売は生まれていない(誕生は190年)。
AD 186	丙寅				7年	30歳	16年	72歳	3年	
AD 187	丁卯		代	8年	31歳	17年	73歳	4年		
AD 188	戊辰				9年	32歳	18年	74歳	5年	

AD	189	己巳	大 和 時 代	10年	33歳	19年	75歳	光熹元年	崇神天皇十年九月九日に、「大彦命を以て北陸に遣わす。武渟川別を以て東海に遣わす。吉備津彦を以て西道に遣わす。丹波道主命を以て丹波に遣わす <sup>33)</sup> 」。崇神天皇十年、饒速日尊の長男天香語山命(高倉下)の後裔/熊野連(熊野国造)が <b>熊野本宮大社(熊野坐神社)の社殿を創建</b> した(扶桑略記)。今は同社の上四社第一殿に神名を改変され事解之男神と父須佐之男尊の別名/家津美御子大神・熊野夫須美大神(熊野楠日尊/神武天皇の父)・天照大神の四柱を祀る(同社祀)。同社から祭神を勧請した藤白神社(海南市藤白)は饒速日(大歳)尊の子孫熊野連の後裔鈴木氏が氏神とし <b>饒速日尊・熊野坐大神</b> (家津御子大神=スサノオ)・ <b>熊野速玉大神</b> (スサノオ)・ <b>熊野夫須美大神</b> (スサノオの父・布都命が熊野楠日尊)を祀り <b>藤白皇大神社</b> としている。熊野本宮大社はもとは須佐之男尊と饒速日尊・熊野楠日尊を祭神としていたことが証明される。[後漢のの中平6(189)年4月11日]、 <b>靈帝</b> (Ling-di)が病没。数え34歳(後漢朝の第12代皇帝)。[後漢の光熹元(189)年4月13日]、靈帝の子の <b>劉弁が即位</b> 。皇太后となった母親が政務をとり、何進が実権を握る <sup>64)</sup> 。	
AD	190	庚午		11年	34歳	20年	76歳		<b>沼名木入比賣命/崇神天皇妃</b> 、誕生(墓誌から推算)。	
AD	191	辛未		12年	35歳	21年	77歳		崇神天皇12年、疫病多発 <sup>33)</sup> 、 <sup>44)</sup> 。天皇、憂え歎き神牀に坐しし夜、大物主大神、御夢に顕れ云々。意富多々泥古命を以て神主として御諸山(三輪山)に意富美和(大三輪)之大神(大歳尊=饒速日尊)の前を祀る。これにより役の気悉くに息みて国家安平くなりき <sup>44)</sup> 。長尾市を以て <b>日本大國魂神(大歳尊=饒速日尊)</b> を祀る主と為す <sup>33)</sup> 。長尾市が倭大國魂を穴師邑大市の長岡岬(檜原神社西の突出部: 箸墓古墳の近く)に祀った。長尾市は倭氏の先祖で磐余彦尊が大和東遷の際、水先案内を務めた椎根津彦の後裔(武光誠氏)。大和神社の祭神/日本大國魂大神(饒速日尊)・八千矛大神(須佐之男尊)・御歳大神(神武天皇母/御歳姫尊=伊須氣余理比賣命)。崇神天皇12年9月16日、 <b>初めて的人口・戸口調査</b> を行い調役を課す。	
AD	192	壬申		13年	36歳	22年	78歳			
AD	193	癸酉		14年	37歳	23年	79歳			
AD	194	甲戌		15年	38歳	24年	80歳		<b>比古布都押之信命(彦太忍信命)/</b> (孝元子)没。墓誌「甲戌九月七日年四十七」(五条塚猫周辺)。比古布都押之信命妃 墓誌「山下影比賣命 甲戌年十二月六日 四十」(五条つじの古墳近傍)。両人は夫婦であるが同じ年に亡くなったのは疫病に罹ったのであろうか。	
AD	195	乙亥		16年	39歳	25年	81歳			
AD	196	丙子		17年	40歳	26年	82歳			
AD	197	丁丑		18年	41歳	27年	83歳		不弥国(飯塚市旧穂波郡穂波郷60)の南(東北東)に行けば耶馬台国に至る。女王の都する所にして船で十日、陸路で一月かかる。官は <b>伊支馬(いしま=活目(いぐめ)入彦五十狹茅尊)</b> 、次は <b>弥馬升(みまかき=御真木(みまき)入日子印惠命)</b> 、次は <b>弥馬獲文(みまかき=大水口(みなくち)宿禰)</b> 、次は <b>奴佳鞆(ぬかた=沼羽田(ぬばた)入毘賣命/垂仁妃)</b> と云う。国には住家が七万戸余りある(魏志)。	
AD	198	戊寅		19年	42歳			豊 稻 入 姫 女 王	84歳葬	崇神天皇(御真木入日子印惠命)の御歳、壹百陸拾捌歳。戊寅の年の十二月に崩りましき、御陵は山辺道の勾の岡の上(あり44)。墓誌「印惠命 戊寅十二月七日 年四十二」(行灯山古墳近傍)。大吉備津日子命没。墓誌「戊寅年八月二日七十七歳」(中山茶臼山古墳近傍)。倭迹迹日百襲姫没。墓誌「倭母曾毘賣命 戊寅年十月二十日 御年八十四」(箸墓古墳近傍)。単弥呼、 <b>以て死す</b> 。代わって男王を立てたが国内は治らず、互いに争いが続き千人以上の人々を殺し合った。再び女王として単弥呼の宗女十三(14歳)歳の台与(豊稻入日賣命)を立て遂に国中の争いは治まった。張政等は檄を以て台与(とよ)に諭告げた(魏志)。この文節は曹魏 正始七(248)年にあるが、この年に書くべきで魏志の編者が二人の単弥呼の死を混同したもの(豊稻入姫命(とよすきいりひめ:14歳)、女王に就任)。
AD	199	己卯				2年	15歳			
AD	200	庚辰				3年	16歳			
AD	201	辛巳				4年	17歳			
AD	202	壬午				5年	18歳			
AD	203	癸未				6年	19歳			
AD	204	甲申				7年	20歳			
AD	205	乙酉				8年	21歳			
AD	206	丙戌				9年	22歳		大毘古命/孝元天皇王子没。墓誌「大毘古命 丙戌年五月二十六日 七十四」桜井茶臼山古墳周辺。大毘古命の子/建沼河別命は阿倍氏・安倍氏の祖 <sup>44)</sup> 。	
AD	207	丁亥				10年	23歳			
AD	208	戊子				11年	24歳			
AD	209	己丑			12年	25歳				
AD	210	庚寅			13年	26歳				
AD	211	辛卯	代	① い く め い り ひ み こ 伊 久 米 入 日 子 命			27歳	伊久米伊理毘古伊佐知命(垂仁天皇)、師木の玉垣宮(垂仁紀に纏向に都造る。是を珠城宮と謂う)に坐して天下を治めた。御真木入日子印惠命(崇神天皇)、大毘毘命(開化天皇)の女、御真津比売命を娶して生みまし御子・伊久米伊理毘古伊佐知命 <sup>44)</sup> 。		
AD	212	壬辰		1年	33歳	15年	28歳		<b>垂仁天皇即位</b> 。是年、 <b>太歳壬辰</b> <sup>33)</sup> 。垂仁天皇元年歳次 <b>壬辰</b> の春正月の丁丑の朔戊寅に皇太子(活目入彦五十狹茅尊、即天皇位す <sup>62)</sup> 。	
AD	213	癸巳		2年	34歳	16年	29歳			
AD	214	甲午		3年	35歳	17年	30歳			
AD	215	乙未		4年	36歳	18年	31歳			
AD	216	丙申		5年	37歳	19年	32歳			
AD	217	丁酉		6年	38歳	20年	33歳			
AD	218	戊戌		7年	39歳	21年	34歳		七年秋七月、倭直の祖長尾市を遣わし出雲国の野見宿禰を呼んで當麻蹶速と <b>相撲</b> とらしむ。二人相対し、各々足を挙げて相蹴る。當麻蹶速の脇骨を蹴りさく。野見宿禰は留まり仕える <sup>33)</sup> 。	
AD	219	己亥	和	8年	40歳	22年	35歳			
AD	220	庚子		9年	41歳	23年	36歳	魏	220年、曹操の子/丕(ひ)が後漢の献帝を廃し魏を建てる。首都は洛陽。華北を領し、呉、蜀と天下を三分したが、256年、臣下司馬氏の晋に代わった <sup>16)</sup> 。	
AD	221	辛丑	時	10年	42歳	24年	37歳			
AD	222	壬寅		11年	43歳	25年	38歳			
AD	223	癸卯	代	12年	44歳	26年	39歳		<b>倭比賣命/誕生</b> 。垂仁天皇の皇女	
AD	224	甲辰		13年	45歳	27年	40歳			
AD	225	乙巳		14年	46歳	28年	41歳			
AD	226	丙午		15年	47歳	29年	42歳			
AD	227	丁未		16年	48歳	30年	43歳		紀伊国名草郡秋月に鎮座の伊太祁曾三神(五十猛命・大屋津比賣命・都萬津比賣命)が社地を日前・國懸大神に譲り、名草郡山東の亥森に遷る <sup>70,89)</sup> 、 <sup>195)</sup> 。伊太祁曾神社は垂仁天皇16年、和歌山市大田の日前 國懸神宮に社地を譲り一度は山東の亥の森に遷り、後に現在の地に遷った(同社伝)。	
AD	228	戊申		17年	49歳	31年	44歳		<b>沼羽田入毘賣命没</b> 。垂仁天皇妃 墓誌「戊申四月六日 三十四歳」。	
AD	229	己酉		18年	50歳	32年	45歳			
AD	230	庚戌		19年	51歳	33年	46歳			

AD	231	辛亥	大	20年	52歳	34年	47歳		
AD	232	壬子		21年	53歳	35年	48歳		三国志の編者、 <b>陳寿</b> が誕生。字は承祚(しょうそ)。巴西安漢の人なり <sup>16)</sup> 。
AD	233	癸丑	和	22年	54歳	36年	49歳		垂仁天皇32年秋7月6日、皇后日葉酢媛命、薨りましぬ。日葉酢媛命 墓誌「水羽州比賣命 癸丑年7月6日42)。(佐紀陵山古墳 神社 奈良市山陵町)。是に野見宿禰准みて曰く、「夫れ君主の陵墓に生人を埋め立つは是れ良くなし。後、使者を遣い出雲国の土師部者百人をめしあげて自ら土師部等をつかいて埴を取りて人・馬、及び種々の物の形を造り天皇に奉りて曰く、「今より以後、是の土物を以て生人にかえて陵墓に建て、後の世の法則とせむ」と曰す。天皇、是に大に喜びて野見宿禰に曰わく、「汝が便議、まことに朕が心にかねり」と曰う。即ちその土物を始めて日葉酢媛命の墓に立つ。乃て令を下し「今より以後、陵墓に必ずこの土物を建てて人を傷りそ」と曰う(埴輪の始まり)。野見宿禰の功績を褒めて亦鍛地を賜う。即ち土部(はじ)の職に任じたまふ。因りて本姓を改め、土部臣と謂う。是れ土部連等が天皇の喪葬を司る縁なり。所謂野見宿禰は土部連等の始祖なり <sup>33)</sup> 。土師宿禰古人は菅原朝臣の祖 <sup>70)</sup> 。
AD	234	甲寅		23年	55歳	37年	50歳		
AD	235	乙卯	時	24年	56歳	38年	51歳		小碓命/景行天皇王子、 <b>倭建命</b> 誕生(墓誌から計算)。
AD	236	丙辰		25年	57歳	39年	52歳		垂仁天皇25年3月10日、 <b>天照大神を豊稻入姫命より離ち、倭姫命に託したまふ</b> 。倭姫、大神を鎮め坐さむ處を求めて <b>菟田</b> (奈良県榛原町)から <b>近江</b> (滋賀県)、東の <b>美濃</b> (岐阜県南部)を巡り <b>伊勢国</b> に到る。よりに齋宮を五十鈴の川上に建てる。即ち天照大神の初めて天より降ります處なり。是を磯宮と謂う。即ち天照大神、初めて天より降りたまふ處なり <sup>33)</sup> 。 <b>倭姫命はこの年14歳</b> 、小女がこんな大役を果たせたとは考えられない。
AD	237	丁巳	代	26年	58歳	40年	53歳	景初	
AD	238	戊午		27年	59歳	41年	54歳	2年	
AD	239	己未		28年	60歳	親魏倭王卑弥呼	3年		景初3(239)年六月、倭女王、大夫難升米(なしめ: 梨津臣命=中臣氏)等を遣わして(帯方)郡に詣り、天子に詣りて朝献を求め大夫の伊声耆(いせき: 五十瓊敷(いにしき)入彦=垂仁皇子)・掖邪狗(えやく: 伊許婆夜和氣(いこはやわけ)=垂仁皇子)等八人を遣使し云々。掖邪狗等は率善中郎將の印綬を給わる。その年十二月、詔書して倭の女王に報せて云う。「 <b>親魏倭王卑弥呼</b> 」に制詔する。帯方太守の劉夏は使いを遣わし、汝の大夫難升米・次席/都市牛利(由基理=海部氏)を送り云々(魏志)。(この時の女王卑弥呼= <b>豊鋸入日賣命</b> :55歳)。 垂仁天皇二十八年冬十月五日、天皇の同母弟/倭彦命薨りましぬ。倭日子命(崇神天皇王子)没。墓誌「倭日子命 己未十月五日 年四十三)。(狹桃花鳥坂墓(越智樹山古墳周辺)。11月2日、倭彦命(倭日子命/崇神子)を身狭の桃花鳥坂に葬る。是に近習者を集えて悉く生きながら陵の域に埋め立つ。日を数えて死なずして昼夜に泣き吟ふ。遂に死りに爛(く)ち腐りぬ。犬鳥集まりて食む。天皇、この泣き吟ふ声を聞き心に悲傷(いたきわざ)と思う。・・・「夫れ生ける時に愛し所を以て死者に殉死するは甚だ傷(いたきわざ)なり。古の風習と雖もよからずは何ぞ従わむ。今より以後ははかりて殉死することを止めよ」と曰う <sup>33)</sup> ( <b>殉死の廃止</b> )。
AD	240	庚申		29年	61歳	43年	56歳	正始	[魏の正始元(240)年、太守の弓遵・建中校尉の佛僞等を遣わし詔書・印綬を恭しく倭国に詣りて倭王に許されてまみえ、詔をもたらして金・帛(絹)・錦・罽・刀・鏡・采物を賜う。倭王は使いにより上表して詔恩に答礼の言葉を述べた(魏志)。
AD	241	辛酉		30年	62歳	44年	57歳	2年	
AD	242	壬戌		31年	63歳	45年	58歳	3年	
AD	243	癸亥		32年	64歳	46年	59歳	4年	魏の正始四(243)年、「その四年、倭王はまた大夫の伊声耆(いせき=五十瓊敷入彦=垂仁天皇皇子)・掖邪狗(えやく=伊許婆夜和氣=垂仁天皇皇子)等八人を派遣し生口(奴隷)・倭錦・絳青練(紅糸と青糸で織った絹織物)・緜衣(紬の衣)・帛布(白絹の布)・丹木(葉木)・楡(弓束=ゆづか)・短弓矢を献上した。掖邪狗等は率善中郎將の印綬を等しく賜る(魏志)。
AD	244	甲子	大	33年	65歳	47年	60歳	5年	
AD	245	乙丑		34年	66歳	48年	61歳	6年	魏の正始六(245)年、詔して倭の難升米に黄幢を賜い郡(帯方郡役所)に托して仮返する(魏志)。
AD	246	丙寅	和	35年	67歳	49年	62歳	7年	沼名木入比賣命没。墓誌「丙寅年3月17日57歳」(天理東乗鞍古墳石室)。伊邪能真若、没。墓誌:「伊邪能真若命 丙寅四月十七日 年六十九歳」(黄金塚古墳石室)。 <b>景初三年鋸入り画文帝神獸鏡</b> が大阪府和泉市上代町の黄金塚古墳から発掘された。伊邪能真若命は <b>女王卑弥呼=豊鋸入日賣</b> の異母弟 <sup>44)</sup> 。
AD	247	丁卯		36年	68歳	50年	63歳	8年	太陽暦247年3月24日、北九州を通る <b>皆既日食</b> が起こる <sup>64)</sup> 。魏の正始八(247)年、太守の王頌が魏の帯方役所に到る。倭の女王卑弥呼は狗奴国の男王卑弥呼と不仲である。倭は載斯(さいし: 伊賀帯(たらし)日子)・鳥越(うえつ: 落別王(おちわけのみこ)等)等を遣わし帯方郡に来たりて交戦状況を説明する。塞曹掾史張政等を遣わして詔書・黄幢を授け、難升米に拜候し、さとし文を告げて激励した(魏志)。
AD	248	戊辰	時	37年	69歳	51年	64歳薨	魏	<b>豊鋸入日賣命</b> 、薨去。墓碑「豊鋸入日賣命 戊辰七月十四日 年六十四」(築山古墳周辺)。曹魏 正始七(248)年、この頃 <b>卑弥呼、以て死す</b> 。大きな家(墓)が作られた。冢の径は百余歩で百人以上の奴婢が殉葬された。「代わって男王を立てたが国内は治らず、互いに争いが続き千人以上の人々を殺し合った。再び女王として卑弥呼の宗女十三歳の台与を立て、遂に國中の争いは治まった。政等は檄を以て臺与に諭告げた。台与は倭の大夫率善中郎將の掖邪狗等、二十人を遣わし張政等が帰るのを送って随行した。そして、朝廷に到り男女生口(奴隷)か三十人を献上し、白珠五千個、孔雀大句珠(穴の開いたヒスイの大玉)二枚、異文雜錦(錦に似た織物)二十四を献上した(魏志)。この「」内文節は198年のことで <b>魏志の誤記</b> 。
AD	249	己巳		38年	70歳				
AD	250	庚午	代	39年	71歳没				(田道間守伝説) 天皇、三宅連等の祖、名は多遲摩毛理を以て常世国に遣わして非時香菓を求めたまひき。多遲摩毛理、遂にその国に到りて、その木の実を採り纒八纒・矛八矛を以て将ち来たりし間に、天皇すでに崩りましき。ここに多遲摩毛理、纒四纒・矛四矛を天皇の御陵の戸に献り置き、その木の実を捧げて叫び哭びて曰く、「 <b>常世の国の非時香菓</b> を持ちて参上りて侍ふ」とまおして遂に叫び哭びて死にき。その <b>非時香菓はこれ今の橘なり</b> 。この天皇の御年、春百伍拾参歳。御陵は菅原の御立野の中にあり <sup>44)</sup> 。垂仁天皇 墓誌「伊久米日子命 庚午七月一日 年七十一」(宝来山古墳陵前、柳木/伊佐知命宮)。「冬十月十三日、日本武尊を遣わして熊襲を撃たしむ。時に年十六」 <sup>33)</sup> 。(墓誌から計算すると日本武尊(倭武命)16歳はこの年になる)。
AD	251	辛未		⑫ 景行 おたらしひこ 大帯日子命					<b>大帯日子淤斯呂和氣(景行)天皇</b> 、纏向(桜井市穴師の北、三輪山の西北)の日代宮に坐して天下を治めた <sup>44)</sup> 。伊久米伊理毘古伊佐知命(垂仁天皇)、且波比古多々須美知宇斯王の女・水羽州比賣命を娶して生みまし御子、印色入日子命、次に大帯日子淤斯呂和氣命(景行天皇) <sup>44)</sup> 。景行天皇元年、秋七月十一日、太子、即天皇位す。是年、 <b>大歳辛未</b> <sup>33)</sup> 。景行天皇元年歲次 <b>辛未</b> の秋七月に皇太子(大足彦彦代別)尊、即天皇位す <sup>62)</sup> 。
AD	252	壬申		2年	40歳				
AD	253	癸酉		3年	41歳			魏	<b>武雄心命</b> 、阿備柏原に居て神祇を祭祀る(紀氏系図 <sup>50)</sup> )。大足彦彦代別天皇三年春二月、紀伊国に幸まして云々。爰に <b>屋主忍男武雄心命</b> 、詣りて阿備柏原に居て神祇を祭祀る。乃りて住むこと九年あり。則ち紀直が遠祖・菟道彦の女・影媛を娶りて <b>建内宿禰</b> を生む <sup>33)</sup> 。
AD	254	甲戌		4年	42歳				大足彦彦代別天皇四年冬十一月、庚辰朔、纏向に都造り給う。是を日代宮と謂ふ <sup>33)</sup> 。

AD	255	乙亥	5年	43歳			景行天皇五年、饒速日尊の後裔/穂積臣真津を祖とする熊野連から分族した熊野の鈴木氏が藤白浦(海南市藤白)に熊野坐神社(熊野本宮大社)から祭神饒速日尊の神霊を勧請して藤白神社(藤白皇大神社)を創祀した <sup>128)</sup>
AD	256	丙子	6年	44歳			
AD	257	丁丑	7年	45歳			
AD	258	戊寅	8年	46歳			
AD	259	己卯	9年	47歳			
AD	260	庚辰	10年	48歳		景元	
AD	261	辛巳	11年	49歳		2年	
AD	262	壬午	12年	50歳		3年	
AD	263	癸未	13年	51歳		4年	[魏の景元4年]この年、魏の数学者の劉徽が円周率として157/50=3.14を使う <sup>64)</sup> 。
AD	264	甲申	14年	52歳		5年	
AD	265	乙酉	15年	53歳		晋	265年、魏の臣下司馬氏、晋を建てる <sup>16)</sup> 。[西晋の秦始1年]12月、武帝が即位 <sup>64)</sup> 。
AD	266	丙戌	16年	54歳		(西晋)秦始2年	建内宿禰、景行天皇三年、紀伊国で誕生。母は影媛。山下雉大媛云々。菟道彦の女 <sup>50)</sup> 。成務天皇と建内宿禰と同じ日に生まれる <sup>33)</sup> 。建内宿禰 誕生(墓誌から計算して266年生まれ)。晋の秦始二(266)年十一月己卯、倭人來たりて方物を献ず <sup>60)</sup> 。
AD	267	丁亥	17年	55歳		3年	
AD	268	戊子	18年	56歳		4年	帶中日子命/(14)仲哀天皇誕生(墓誌から計算)。帶中日子天皇は日本武尊の第二子なり。母の皇后をば両道入姫命と曰す。活目入彦五十狹茅天皇の女なり <sup>33)</sup> 。
AD	269	己丑	19年	57歳		5年	
AD	270	庚寅	20年	58歳		6年	この年、熊野速玉神社(新宮市)が創建される(帝王編年記・扶桑略記・紀伊續風土記)。
AD	271	辛卯	21年	59歳		7年	
AD	272	壬辰	22年	60歳		8年	
AD	273	癸巳	23年	61歳		9年	倭武命、没 墓誌「小碓命 癸巳五月十二日 年三十九」津堂城山古墳(藤井寺市津堂周辺/琴弾原)
AD	274	甲午	24年	62歳		10年	
AD	275	乙未	25年	63歳		11年	
AD	276	丙申	26年	64歳		12年	
AD	277	丁酉	27年	65歳		天紀	
AD	278	戊戌	28年	66歳		2年	
AD	279	己亥	29年	67歳		3年	
AD	280	庚子	30年	68歳		晋	[吳の天紀4年3月15日]、吳王の孫皓が晋に降伏し晋の中国全国統一成る <sup>64)</sup> 。
AD	281	辛丑	31年	69歳			
AD	282	壬寅	32年	70歳			
AD	283	癸卯	33年	71歳			
AD	284	甲辰	34年	72歳			
AD	285	乙巳	35年	73歳			
AD	286	丙午	36年	74歳			
AD	287	丁未	37年	75歳			5月、倭人が新羅の一礼部を襲って火を放ち、1千人を生け捕りにして倭に連れて行く <sup>85)</sup> 。
AD	288	戊申	38年	76歳			
AD	289	己酉	39年	77歳			
AD	290	庚戌	40年	78歳			景行天皇四十年七月十六日、天皇が日本武尊に東夷討伐を命じる。冬十月二日、日本武尊、東征に出發。途中伊勢神宮を拜む云々。倭姫命、草薙剣を日本武尊に授けて曰く「慎め。な怠りそ」とのたまふ <sup>33)</sup> 。この年紀は不整合、日本武尊(倭武命)は18年前に亡くなっている(墓誌)。12代景行天皇の王子/神櫛王命没(女王卑弥呼/豊鉏入日賣の甥)、墓誌「神櫛王命 庚戌十月九日年四十三」(神原神社古墳=鳥根県加茂町神原)。1972年、この古墳から景初三年銘入り画文帯神獸鏡が発掘された(同古墳発掘調査報告)。息長帯比賣(仲哀后=後の神功皇后)誕生(墓誌から計算)。
AD	291	辛亥	41年	79歳		元康	
AD	292	壬子	42年	80歳		2年	
AD	293	癸丑	43年	81歳		3年	
AD	294	甲寅	44年	82歳		4年	
AD	295	乙卯	45年	83歳		5年	
AD	296	丙辰	46年	84歳		6年	
AD	297	丁巳	47年	85歳		7年	[西晋の元康7年]この年、陳壽(Chen Shou)没。数え66歳(三国志の著者)。少(若)くして好學、同郡の譙周に師事す。蜀に仕えて觀閣令史と爲る。宦人の黄皓(こうこう)は専ら威權を弄(ろう)し、大臣は皆意を曲げてこれに附すも、壽は獨りこれが爲に屈せず。これに由りて屢(しばしば)譴黜(けんちゆつ)を被る。父の喪に遭いて疾有り、婢をして藥を丸せしむ。客の往きてこれを見、郷黨は以てて貶議(えんぎ)を爲す。蜀の平らぐるに及び、これに坐し沈滞すること累年。司空の張華はその才を愛し、以(い)えらく、「壽は嫌に遠からずと雖ども、情を原(たず)ぬれば貶廢(へんはい)に至らず」と。擧げて孝廉と爲す。佐著作郎に除せられ、出でて陽平令に補せらる。蜀相の『諸葛亮集』を撰し、これを奏す。著作郎に除せられ、本郡の中正を領す。『魏吳蜀三國志』を撰す。凡て六十五篇。時の人、その善く事を敘し、良史の才有りと稱す(晋書卷八十二 列傳第五十二)。
AD	298	戊午	48年	86歳没			大帶日子(景行)天皇の御年、壹佰參拾漆歳なり。御陵は山辺の道の上にあり <sup>33)</sup> 。景行天皇 墓碑「大帶日子命 戊午十一月七日 年八十六」(宮/草川付近)
AD	299	己未	⑬成務	若帯日子命			1月5日、若帯日子命(第13代天皇、成務天皇)が即位する。是年、太歳辛未 <sup>33)</sup> 。(己未の誤記)。若帯日子(成務)天皇、近淡海の志賀の高穴穗宮(大津市坂本穴太町)に坐して天下を治めた。大帶日子(景行)天皇、八尺入日子命の女・八尺之入日売命を娶て生みましし御子・若帯日子命、次に・・・若帯日子命(成務天皇)は天下治らしめしき。この天皇、建内宿禰を大臣として太国・小国の國造を定めたまひ、また國の塚、また大県・小県の県主を定めたまひき <sup>44)</sup> 。
AD	300	庚申	2年	35歳			志賀高穴穗朝(成務天皇)の御世に、大阿斗足尼を熊野國造に定め賜う <sup>82)</sup> 。大阿斗足尼は饒速日尊の五世孫 <sup>62)</sup> 、 <sup>89)</sup> 。
AD	301	辛酉	3年	36歳			
AD	302	壬戌	4年	37歳			
AD	303	癸亥	5年	38歳			
AD	304	甲子	6年	39歳			
AD	305	乙丑	7年	40歳			
AD	306	丙寅	8年	41歳			倭比賣命、薨。84歳。墓碑「倭比賣命 丙寅年七月九日 年八十四」。
AD	307	丁卯	9年	42歳			
AD	308	戊辰	10年	43歳			
AD	309	己巳	11年	44歳			

AD	310	庚午		12年	45歳没				若帯日子(成務)天皇の御年、玖拾五歳。(乙卯の年三月十五日に崩りましき)御陵は沙紀の多他那美にあり44)。成務天皇 墓碑「若帯日子命 庚午六月十一日 年四十五」(近江高穴穂宮跡)
AD	311	かのとけ 辛未		⑭ ちゅうあいの 仲哀	たらしなかつひこ 帯中日子命				帯中津日子命(仲哀天皇・倭武命の御子)は、穴門(長門國の西部、關門海峡に臨む地の古称)の豊浦宮(下関市長府町豊浦)、また筑紫の訶志比宮(紀に檀日宮、福岡市東区香椎の地)に坐して天下を下治らしめき。大江王の女・大中津比売命を娶して生みましし御子・香坂王、忍熊王。また息長帯比売命(こは太后なり)を娶して生みましし御子・品夜和氣命、次に大鞆和氣命、亦の名は品陀和氣命、二柱44)。
AD	312	壬申		1年	45歳				元年の春正月十一日に太子、即天皇位す。是年、太歳壬申33)。仲哀天皇元年歳次壬申の春正月の庚寅の朔庚子に、太子(足仲彦)尊、即天皇位す62)。倭国王は使いを遣わし、子の為に婚を求む。阿食急利の女を以て之に送る85)。
AD	313	癸酉	大	2年	46歳		建興		仲哀天皇2年の春正月11日、開化天皇の曾孫/氣長宿禰の女/氣長足姫尊(24歳)、帯中津日子命(仲哀)の後となる(神功皇后)。この頃、高句麗が楽浪郡を滅ぼす64)。
AD	314	甲戌		3年	47歳		2年		この頃、高句麗が帯方郡を滅ぼす。中国(晋)の郡県支配が終わる64)。
AD	315	乙亥	和	4年	48歳		3年		紀角宿禰(建内宿禰と宇乃比売の子)誕生(墓誌から推算)。
AD	316	丙子		5年	49歳		4年		[西晋の建興4年11月12日]、魏に代って265年に司馬炎が建国した西晋が滅亡する64)。
AD	317	丁丑	時	6年	50歳				
AD	318	戊寅		7年	51歳				
AD	319	己卯	代	8年	52歳没			前趙 光初	2月6日、仲哀天皇、没。52歳33)。墓碑「帯中日子命 己卯三月十五日 年五十二」(五色塚、道明寺小)。凡そ帯中津日子(仲哀)天皇の御年、伍拾貳歳。(壬戌六月十一日に崩りましき)。御陵は河内の恵賀の長江にあり44)。「仲哀天皇即位八年、神功皇后と共に檀日宮に御駐輦中、天皇、俄に崩御あらせられしにより皇后、自ら天皇の神靈を齋き祀り給う。是、香椎廟の始めなり」(福岡市香椎町 旧官幣大社香椎宮縁起)。「前趙の光初2年6月」、この月、劉曜が国号を漢から趙に改める(前趙)64)。
AD	320	庚辰			息長帯比賣命			2年	品陀和氣命、庚辰の冬十二月を以て筑紫の蚊田に生まれませり33)。十二月十四日に、譽田天皇を筑紫に生れたまふ。…皇后、南の紀伊國にいたりて太子に日高に会ひぬ。…更に小竹宮に遷ります33)。
AD	321	辛巳			神功皇后摂政元年			3年	紀豊耳/宇遲彦の子(神功皇后摂政元年紀)。…この時にあたりて昼の暗きこと夜の如くして、既に多くの日を経る。…皇后、紀直の祖豊耳に問ひて云云33)。十月二日、群臣、皇后を尊びて皇太后と申す。この年、太歳辛巳、即ち摂政元年と申す33)。太歳辛巳に改めて摂政元年と為す62)。「仲哀天皇、國人言う、今鎮國香椎大神と為すと。次は神功天皇、開化天皇の曾孫女、又た之を息長足姫天皇と謂い、國人言う、今太奈良良姫大神と為すと(宋史/卷四九一/外國伝/日本國)。
AD	322	壬午		2年	33歳			4年	
AD	323	癸未		3年	34歳			5年	皇太后の摂政三年にたてて(品陀和氣)皇太子となりたまふ。(割注:時に三つ)33)。神功皇后摂政三年春正月の丙戌の朔戊子に譽田別皇子を立てて皇太子としたまふ62)。
AD	324	甲申		4年	35歳			6年	
AD	325	乙酉		5年	36歳			7年	
AD	326	丙戌		6年	37歳			8年	
AD	327	丁亥	大	7年	38歳			9年	仲哀天皇の王子 忍熊皇子、没。墓誌「忍熊王命 丁亥年七月十五日 二十八歳」。
AD	328	戊子		8年	39歳			10年	
AD	329	己丑	和	9年	40歳	⑮ おうじん 応神	品陀和氣命		[前趙の光初11年12月]、この月、後趙の石勒が前趙の劉曜を殺す64)。
AD	330	庚寅		10年	41歳	1年	11歳	後趙 建平	応神天皇元年の春三月三日、皇太子(譽田尊)、即位す。是歳、太歳、庚寅33)。品陀和氣命(応神)、輕島の明宮(宮址は檉原市大輕町付近という)に坐して天下を治めた44)。神功皇后朝と応神朝は二朝並立か。神功皇后は健在で69年まで続く。葛城曾都毘古誕生/建内宿禰子(墓誌から計算)。「後趙の建平1年9月」、この月、石勒が帝位に即く(後趙)64)。
AD	331	辛卯	時	11年	42歳	2年	12歳	2年	
AD	332	壬辰		12年	43歳	3年	13歳	3年	高額比賣命/神功皇后母 267~332年 66歳没。墓誌「高額比賣命棺 壬辰年六月七日 御年六十六歳」。(静岡賤機山古墳石室内石棺)。高額比賣命は建内宿禰の妹か59)。
AD	333	癸巳	代	13年	44歳	4年	14歳	4年	十三年の春二月八日、建内宿禰に命じ、太子に従ひて角鹿の箭飯大神を拝みまつらしむ。十七日に太子、角鹿より至りたまふ。是の日に壽したまふ云云33)。「後趙の建平4年7月22日]、石勒(Shi Le)没。59歳(後趙を建国して華北を統一した後趙の初代王)64)。
AD	334	甲午		14年	45歳	5年	15歳		
AD	335	乙未		15年	46歳	6年	16歳		
AD	336	丙申		16年	47歳	7年	17歳		
AD	337	丁酉		17年	48歳	8年	18歳		大雀命誕生(墓誌から推算)。品陀和氣命(応神天皇)、中日売命を娶して生まれた御子・木之荒田郎女、次に大雀命、次に根鳥命、三柱。大雀命は天下治らしめき44)。
AD	338	戊戌		18年	49歳	9年	19歳		
AD	339	己亥	大	19年	50歳	10年	20歳		
AD	340	庚子		20年	51歳	11年	21歳		
AD	341	辛丑	和	21年	52歳	12年	22歳		
AD	342	壬寅		22年	53歳	13年	23歳		
AD	343	癸卯	時	23年	54歳	14年	24歳		
AD	344	甲辰		24年	55歳	15年	25歳		(新羅・訖解尼師今)三十五(344)年春二月、倭國が遣使し婚婚を請う。娘はすでに嫁に出したして断つた。「應神天皇、甲辰の歳、始めて百濟に中國の文字を得、今八蕃菩薩と号す。大臣有り紀武内と号し、年は三百七歳(宋史/卷四九一/外國伝/日本國案)55)。品陀和氣(応神)天皇の御代に…百濟國に、「若し賢しき人あらば貢上れ」とおほせたまひき。かれ、命を受けて貢上りし人、名は和邇吉師(わにきし)、即ち論語十卷・千字文一巻、併せて十一巻をこの人に付けて貢進りき44)。日本に論語・漢字が入る。記録にはないが漢字はすでに使用されている。
AD	345	乙巳	代	25年	56歳	16年	26歳		応神天皇16年八月に平群木兎宿禰・的戸田宿禰を加羅に遣わす云云。木兎宿禰等、精兵を進めて新羅の塚に莅(のぞ)む。…乃ち月月の入夫を率いて襲津彦と共に来り33)。
AD	346	丙午		26年	57歳	17年	27歳		この年、百濟の初代近肖古王が即位、百濟が成立する。倭兵が突然風島に来て略奪し、進んで金城を困み攻めてきた。賊が食糧が尽き退こうとしたとき康世に命じ、追撃してこれを追いはらった(新羅・訖解尼師今)三十七(346)年案85)。
AD	347	丁未		27年	58歳	18年	28歳		武内宿禰、紀姓を賜る。紀大臣・六代帝の大臣。
AD	348	戊申		28年	59歳	19年	29歳		
AD	349	己酉		29年	60歳	20年	30歳		
AD	350	庚戌		30年	61歳	21年	31歳		

AD	351	辛亥	大和	31年	62歳	22年	32歳		建内宿禰の弟/甘美内宿禰、天皇に換言して「建内宿禰は天下を狙う云々。建内宿禰は甘美内宿禰を打ち倒さんとす。天皇、赦さず。仍りて紀直等の祖に賜う」 <sup>33)</sup> 。
AD	352	壬子		32年	63歳	23年	33歳		
AD	353	癸丑		33年	64歳	24年	34歳		
AD	354	甲寅		34年	65歳	25年	35歳		
AD	355	乙卯		35年	66歳	26年	36歳		
AD	356	丙辰	時代	36年	67歳	27年	37歳		この年、新羅で <b>奈勿王</b> が即位し第17代王となる。秦氏の祖・弓月君、百済より来帰り云云。爰に葛城襲津彦を遣わして弓月の人を加羅に召す。然れども三年経るまでに、襲津彦来ず <sup>33)</sup> 。 <b>新羅の建国は356年</b> とみられている。
AD	357	丁巳		37年	68歳	28年	38歳		
AD	358	戊午		38年	69歳	29年	39歳		
AD	359	己未		39年	70歳	30年	40歳		神功皇后摂政三十九年、是歳、 <b>太歳 己未(干支整合)</b>
AD	360	庚申		40年	71歳	31年	41歳		
AD	361	辛酉	41年	72歳	32年	42歳			
AD	362	壬戌	42年	73歳	33年	43歳			
AD	363	癸亥	43年	74歳	34年	44歳			
AD	364	甲子	大和	44年	75歳	35年	45歳		(新羅・奈勿尼師今)九(364)年夏四月、倭兵が大挙してやってきた。王はこれを聞き、敵対できないと恐れ、草の偶人数千を造り衣を着せ武器を持たせ、並んで立たせ、勇士一千を斧峴の東原に伏せておいた。倭人が衆を頼みに直進してくるのを、伏せていた兵が不意を撃った。倭人は大敗し逃げた <sup>85)</sup> 。
AD	365	乙丑		45年	76歳	36年	46歳		
AD	366	丙寅		46年	77歳	37年	47歳	太和元年	
AD	367	丁卯		47年	78歳	38年	48歳	2年	
AD	368	戊辰		48年	79歳	39年	49歳	3年	
AD	369	己巳	時代	49年	80歳	40年	50歳	4年	(石上神宮藏七支刀銘文)「泰和(太和)四(369)年五月十六日丙午正陽、百練の鉄の七支刀を造る。すすみて百兵を避く。供供たる候王に宣し。■■■■の作なり。先世以来、未だ此の如き刀有らず。百済王の世子奇生聖首、故に <b>倭王旨</b> の為に造りて、後世に伝え示さん」 <sup>85)</sup> <b>倭王旨は譽田尊(應神天皇)か</b> 。九州大学浜田耕策教授の解読は、「泰和四年五月十六日丙午の日の正陽の時刻に百たび練った■■の七支刀を造った。この刀は出でては百兵を避けることが出来る。まことに恭敬たる侯王が佩びるに宜しい。永年にわたり大吉祥であれ」(表)。「先世以来、未だこのような(形の、また、それ故にも百兵を避けることの出来る呪力が強い)刀は(百済には)無かった。百済王と世子は生を聖なる晋の皇帝に寄せることとした。それ故に、東晋皇帝が百済王に賜われた「旨」を倭王とも共有しようと、この刀を■■製して造った。後世にも永くこの刀(とこれに秘められた東晋皇帝の旨)を伝え示されんことを」(裏)と。(応神天皇)四十年、菟道郎子を立てて嗣としたまふ。大山守命に任せて山川林野を掌らしめたまふ。大鷦鷯尊を以て太子の輔として国事を知らしめたまふ。物部印葉連公を以て大臣と為す
AD	370	庚午		50年	81歳	41年	51歳		
AD	371	辛未		51年	82歳	42年	52歳		神功皇后摂政「五十一年春三月、皇太后は皇太子及び建内宿禰に語りて曰はく、『朕が交親する百済国は、歳時を闕かず貢献す。朕が存けらむ時の如くに、あつく恩恵を加えよ』とのたまふ」 <sup>33)</sup> 。 <b>建内宿禰、薨</b> 。墓碑「 <b>建内宿禰命</b> 辛未年七月四日薨、御年卅六歳」(孤井城山古墳(香芝市孤井)から流出したとみられる香芝市下田小学校校庭に在った石棺) <sup>59)</sup> 。
AD	372	壬申		52年	83歳	43年	53歳		5月、高句麗に <b>仏教</b> が伝えられる。
AD	373	癸酉		53年	84歳	⑩ 仁徳	大雀命 (倭王 讚)		仁徳天皇元年、歳次 <b>癸酉</b> の春正月の丁丑の朔己卯に大鷦鷯尊、即天皇位す <sup>33)</sup> 。旧事紀も[元年歳次 <b>癸酉</b> の春正月の丁丑の朔己卯に大鷦鷯尊、即天皇位す] <sup>62)</sup> 。大雀命(仁徳天皇)、難波の高津宮(大阪市東区法円坂町一帯の高台:山根徳太郎氏)に坐して天下を治めた。品陀和氣命(応神天皇)、中日売命を娶て生まれた御子/木の荒田郎女、次に大雀命、次に根鳥命、三柱。大雀命(仁徳天皇)は天下治らしめ <sup>44)</sup> 。この天皇、葛城の曾都毘古の女/石之日売(太后)を娶て生みましし御子/大江の伊邪本和氣命、次に墨江之中津王、次に蝦之水園別命、次に男浅津間若子宿禰命、四柱 <sup>44)</sup> 。・太子菟道稚郎子、位を譲り云云。既に三載を経る云云。大鷦鷯尊、即天皇位す。是年、 <b>太歳癸酉</b> <sup>33)</sup> 。大鷦鷯尊の親とする応神は健在であるから <b>生前讓位</b> か。
AD	374	甲戌	54年	85歳	2年	38歳			
AD	375	乙亥	55年	86歳	3年	39歳			
AD	376	丙子	56年	87歳	4年	40歳			
AD	377	丁丑	57年	88歳	5年	41歳			
AD	378	戊寅	58年	89歳	6年	42歳			
AD	379	己卯	59年	90歳	7年	43歳			
AD	380	庚辰	60年	91歳	8年	44歳			
AD	381	辛巳	61年	92歳	9年	45歳			
AD	382	壬午	時代	62年	93歳	10年	46歳		六十二年に新羅、詣でこず。即年に <b>襲津彦</b> を(53歳:墓誌から推算)を遣わして新羅を撃たしむ(神功皇后紀) <sup>33)</sup> 。
AD	383	癸未		63年	94歳	11年	47歳		
AD	384	甲申		64年	95歳	12年	48歳		神功皇后摂政紀「六十四年に百済国の貴須王(くみすわ)薨りぬ。王子枕流王(とむるわう)、立ちて王と為る。この年、百済に <b>仏教</b> が伝来する。
AD	385	乙酉		65年	96歳	13年	49歳		百済の枕流王、薨りぬ。王子阿花、年少し。叔父辰斯、奪ひて立ちて王と為る(神功皇后65年条)。百済第15代王辰斯(385~392年。第16代阿華王(392~405年)(三国史記)。 <b>年次整合</b> 。
AD	386	丙戌		66年	97歳	14年	50歳		
AD	387	丁亥	67年	98歳	15年	51歳			
AD	388	戊子	68年	99歳	16年	52歳			
AD	389	己丑	時代	69年	100歳	17年	53歳		69年夏4月17日、皇太后(息長帯比賣命)、稚桜宮に崩りましぬ。割注/時に百歳。冬十月一五日に狭城盾列陵に葬りまつる。この年、 <b>太歳、己丑</b> (神功皇后69年紀)。(干支整合)。 <b>仲哀后(神功皇后)</b> 墓碑「息長帯比賣命 己丑四月十七日 年百壹歳」(宮/阿部八幡住吉)。
AD	390	庚寅		⑮ おうじん 応神	品陀和氣命	18年	54歳		応神天皇元年の春三月三日、皇太子(譽田尊)、即位す。 <b>是歳、太歳、庚寅</b> <sup>33)</sup> 。この項は要検討。
AD	391	辛卯		72歳	19年	55歳		「百済・新羅はもと高句麗の属民にして由来朝献す。而るに倭は辛卯(391)の年、海を渡り来たりて百済・■■・新羅を破り、以て臣民とす(高句麗広開土碑 <sup>85)</sup> [中国の韓安に414年建立]:広開土王の在位391~412年)。	

AD	392	壬辰		73歳	20年	56歳	応神天皇三年「是歳、百済の辰斯王立ちて、貴国の天皇のみために失禮し。紀角宿禰・羽田八代宿禰・石川宿禰・木菟宿禰を遣わして、その禮无き状を蹟讓はしむ。是によりて百済国は辰斯王を殺して謝ひにき。紀角宿禰等、すでに阿花王を立てて王として帰れり」(応神天皇3年紀)。百済阿華王元(392年)(三国史記)と。(年紀は整合)。大雀命(仁徳)天皇の御代に、大后・石之日売の御名代として葛城部、太子・伊那本和氣命の御名代として壬生部、水齒別命の御名代として婁部、大日下王の御名代として大日下部、若日下部王の御名代として若日下部を定めたまいき。(名代とは、皇室の私有民。紀国の国造の民を割きとり、これに天皇や皇后・皇兄などの名を冠して名代の民として皇室への貢納・上番とした。白髪部・小泊瀬部・婁部(たじひべ)など)。また、秦人を役てて茨田堤、茨田三宅を作り、また丸瀨池・依網池を作り、また難波の堀江を掘りて海に通わし、また小橋江を掘り、また墨江の津を定めたまひき44)。「百済は誓いを違えて倭と和を通ず」。		
AD	393	癸巳		74歳	21年	57歳	(新羅・奈勿尼師今)三十八(393)年夏五月、倭人が来て金城を囲み五日間解かなかつた。将士はみな出て戦おうとしたが、王は今、賊は舟を棄て深く入っているから、死地にいるようなものだと聞いた。そこで城門を閉じた。賊は功なく退いた。王は勇騎二百を遣り帰路を断つた。また歩卒一千を遣り、獨山まで追い狭み撃ちをして大いにこれを敗つた(三国史記・新羅本紀)85)。		
AD	394	甲午		75歳崩	22年	58歳	応神天皇没。凡そこの品陀(応神)天皇の御年、壹佰参拾歳。(割注/甲午年の九月九日に崩りましき)御陵は川内の恵實堂伏崗にあり44)。四十一年春二月十五日、天皇、明宮に崩りましぬ。時に御年一百一十一歳。ある書に曰く、大隅宮(難波の大隅)に崩りましめと云う33)。応神天皇 墓誌「品陀和氣命 甲午九月九日 年七十五」(石棺/石清水八幡/難波大隈宮跡)。		
AD	395	乙未			23年	59歳			
AD	396	丙申			24年	60歳	宇遲能和紀部子命没「丙申年6月9日30」山代宇治古墳/石棺石材/六波羅蜜寺。仁徳天皇の御代、熊野那智神社が創建される(熊野山略記・熊野那智大社文書五)。		
AD	397	丁酉	大		25年	61歳	[百済の(阿華王)六(397)年五月]、百済王が倭国と友好を結び太子の腆支を以て質と為す(百済本紀阿華王6年5月条)。ある時、天皇が宴会を開かれようとして日女島(淀川区姫島町は当時は島だった)にお出ましになった折、その島で雁が卵を産んだ。そこで天皇は建内宿禰を呼んで、歌で雁が卵を生んだ様子をお尋ねになった。…そこで建内宿禰は歌でお答え申すには云々(仁徳記)とある。また書紀にも仁徳五十年条にも同様なことを書いているが、建内宿禰は応神天皇41(371)年に没している。		
AD	398	戊戌	和		26年	62歳			
AD	399	己亥			27年	63歳	3月21日、仁徳天皇が3年間の課税を免ずる(仁徳4年紀33)。広開土王九年己亥、百殘(百済)、誓いを違えて倭と和通す。平壤に巡す。而るに新羅は使いを遣わして王に曰く、倭人はその国境に満ちて城池を破壊し奴客を以て民と為せり。王に帰して命を請うと(広開土王碑九己亥(399)年)85)。		
AD	400	庚子		①7 いざほわけ 伊那本和氣命		64歳	履中即位。大雀命(仁徳天皇)、葛城の曾都毘古の女・石之日売(大后)を娶して生みましし御子・大江の伊那本和氣命、次に…、四柱。伊那本和氣王、天下治らしめき(仁徳記)。伊那本和氣王(履中天皇)、伊波礼(磐余)の若宮に坐して天下治らしめき。葛城の曾都比古の子・葦田宿禰の女・黒比売命を娶して生みましし御子・市辺の忍齒王、次に御馬王、次に妹青海郎女、亦の名・飯豊郎女。三柱(履中記)履中天皇元年春二月の壬午の朔に、磐余稚稚宮に即位す。…是年、太歳庚子(履中天皇元年紀)。仁徳は子供たちに譲位して隠居したか。履中天皇元年歳次庚子…皇太子(去來穗別尊、即天皇位す62)。葛城曾都毘古没、71歳。墓誌「庚子六月十六日七十一歳」(檀原千塚500号近傍/千塚資料館)。400年、5万の大軍を派遣して新羅を救援した。高句麗「開広王十年庚子、歩騎五万と遣わし、往きて新羅を救わしむ。男居城より新羅城まで倭、その中に満つ。官兵、まさに至り、倭賊が退く。倭、満ち、倭潰ゆ。倭寇、潰敗し新殺するもの無数なり(開広王碑)85)。		
AD	401	辛丑	時	2年	33歳	29年	65歳	履中天皇「二年春正月四日、瑞齒別皇子を立てて皇太子とす。冬十月に磐余に都つくる。この時、平群木菟宿禰・蘇我満智宿禰・物部伊弉弗大連・園大使主、共に国事を執り。十一月に磐余池を作る(履中天皇二年紀)。仁徳天皇七年夏四月一日、天皇が高台で炊飯の煙を眺め、この3年間の免税で民が豊かになったことを知る(仁徳天皇7年紀)。	
AD	402	壬寅		3年	34歳	30年	66歳	百済「使いを倭国に遣わして大珠を求めしむ」(百済本紀阿華王11(402)年5月条)。	
AD	403	癸卯	代	4年	35歳	31年	67歳	履中天皇「四年の秋八月八日に、始めて諸国に国史(ふみのひと)を置く。言事を記して四方の志を達す(国内の情勢を報告する)。冬十月に石上溝を掘る33)。百済に倭国の使者到る。王、迎えて之を勞うこと特に厚し(百済本紀阿華王十二(403)年二月条)。	
AD	404	甲辰		5年	36歳	32年	68歳	「広開土王十四甲辰(404年)、而ち倭、不動にして帯方界に侵入す。…倭寇、潰敗し新殺すること無数なり(広開土王碑)。	
AD	405	乙巳		6年	37歳	33年	69歳	晋 義熙 百済阿花王十四(405)年乙巳、「秋九月、王薨」(三国史記)。この年、百済の阿花王、薨りましぬ(応神天皇16年条)。	
AD	406	丙午		①8 みずはわけ 水齒別命 わおう ちん (倭王珍)	34年	70歳	2年	反正天皇即位。大雀命(仁徳天皇)、葛城の曾都毘古の女・石之日売(大后)を娶して生みましし御子、三男・婁之水齒別命(反正天皇)44)。多治比の柴垣宮(羽曳野市郡戸付近か)に坐し天下治めた。この天皇、御身の長さ九尺二寸半。御齒の長さ一寸、広さ二分、上下等しく斉ひ、すでに珠に貫けるが如し44)。(豪華な歯並びが名前の由来か)。反正天皇元年春正月の丁丑の朔戊寅に皇太子、即天皇位す。冬十月に河内の丹比に都つくる。是を柴離宮と曰す。云云。是年、太歳丙午33)。履中天皇は若くして引退し弟の水齒別命に譲ったか。反正天皇即位。元年歳次丙子の夏四月の丁丑の朔戊寅に、儲君(瑞齒別尊、即天皇位す62)。丙子は丙午の誤記か。	
AD	407	丁未		2年	28歳	35年	71歳	3年	
AD	408	戊申		3年	29歳	36年	72歳	4年	
AD	409	己酉		4年	30歳	37年	73歳	5年	
AD	410	庚戌		5年	31歳	38年	74歳	6年	
AD	411	辛亥		6年	32歳	39年	75歳	7年	
AD	412	壬子		①9 わかこ すくね 若子宿禰 命 わおう さい (倭王濟)	40年	76歳	8年	允恭天皇即位。允恭天皇元年、…帝位に即きたまふ。是年、太歳壬子33)。若子宿禰命(允恭天皇)は婁水齒別命(反正天皇)の弟44)。男浅津間若子宿禰命(允恭天皇)は遠つ飛鳥宮(奈良県高市郡明日香村か)に天下治めた。允恭天皇元年、是年、太歳壬子33)。反正は弟の允恭に皇位を譲ったか。允恭天皇即位。元年歳次壬子33)。	
AD	413	癸丑	大	2年	21歳	41年	77歳	9年	晋の義熙九(413)年、この年、高句麗・倭国及び西南夷の銅頭大師、皆方物を献ず(晋書 安帝紀)。9月、高句麗好太王(Ho-thae-wang)(広開土王)没。数え38歳(高句麗第19代の王)。この年、広開土王の子・巨連が第20代長寿王となる。晋の安帝の時(369-418年)、倭王讃(仁徳)あり。使いを遣わして朝貢す(南史列伝)60)。仁徳天皇41年春3月に紀角宿禰を百済にやり国境の分け方、郷土の産物を記録。この時百済王族/酒君が無礼をしたので紀角宿禰は百済王を責めた33)。墓誌によれば紀角宿禰はすでに没している。

AD	414	甲寅		3年	22歳	42年	78歳	10年	この年、高句麗で「 <b>広開土王碑</b> 」が建立される。(碑文によれば甲寅年九月廿九日乙酉に建てたもの)。明治17(1884)年、日本陸軍砲兵大尉の酒匂景信(1850年-1891年)が拓本を参謀本部に持ち帰り解読した(「酒匂本」)。昭和36(1961)年、洞溝古墓群の一部として全国重点文物保護単位に指定された。その後旧日本帝国陸軍が石灰を塗布したことが後に大問題になる。黒比賣命/履中天皇后没、墓誌「甲申年七月十七日 四十五歳」(履中天皇の后としては年齢が合わない。甲寅の誤判読か)。
AD	415	乙卯	和	4年	23歳	43年	79歳	11年	
AD	416	丙辰		5年	24歳	44年	80歳	12年	允恭天皇5年秋7月14日、「地震があった。地震の夜、尾張連吾襲を使わして反正天皇の殯宮(遺体安置所)の様子を見させられた」(允恭5年紀)。7月14日、遠飛鳥宮(奈良県高市郡明日香村)付近で <b>地震</b> (允恭紀)。日本で記録に残っている <b>最古の地震</b> 。
AD	417	丁巳	時	6年	25歳	45年	81歳	13年	
AD	418	戊午		7年	26歳	46年	82歳	14年	腆支王十四(418)年夏、使を倭国に遣わし、白綿十匹を送る(百濟本紀)。
AD	419	己未	代	8年	27歳	47年	83歳	東晋滅亡	仁徳天皇命、没 墓碑「大雀命 己未八月十五日 年八十三」(大山古墳陵前)。大雀命(仁徳天皇)の御年、八十三歳(丁卯の年八月十五日に崩りましき)。御陵は毛受(百舌鳥)の耳原(堺市大山町)にあり(仁徳記)。
AD	420	庚申		9年	28歳			宋永初	
AD	421	辛酉		10年	29歳			2年	[宋の永初2(421)年]この年、 <b>倭王・讚</b> (履中)が宋に朝貢し武帝に安東將軍倭国王の称号を授けられる(宋書 倭国伝)。倭王讚(大雀命=仁徳天皇)はずでに没している。
AD	422	壬戌		11年	30歳			3年	[宋の永初3年5月22日]、 <b>武帝</b> (Wu-di 宋の皇帝)没。59歳。
AD	423	癸亥		12年	31歳			4年	
AD	424	甲子		13年	32歳				<b>蘇我満智宿禰</b> 没 墓誌「甲子年十一月七日 四十七歳」在世:AD378~424年。
AD	425	乙丑		14年	33歳			元嘉2年	「劉宋元嘉二(425)年、讚死して弟の珍立つ。使を遣し貢獻し、自ら使持節・都督倭・百濟・新羅・任那・秦韓・慕韓六国諸軍事・安東大將軍・倭国王と称し表にて除正を求む。詔して安東將軍倭国王に除す」(宋書 倭国伝)。使者の名前は出ないが、珍は自らを六国諸軍事・安東大將軍・倭国王の称号を要求している。このとき死んだとする倭王讚は、書紀が印した仁徳天皇とみられる。墓誌でみれば、この年伊邪本和氣命はまだ死んでいない。弟の珍は反正天皇(嫂水歯別命:380~438年)とみられる。
AD	426	丙寅	大	15年	34歳			3年	
AD	427	丁卯		16年	35歳			4年	
AD	428	戊辰	和	17年	36歳			5年	百濟に倭国の使、到る。従者五十人なり(三国史記百濟本紀毗有王二(428)年二月)。
AD	429	己巳		18年	37歳			6年	
AD	430	庚午	時	19年	38歳			7年	宋の元嘉七(430)年春正月、倭国王、使いを遣わして方物を献ず(晋書文帝紀)。宋書帝紀には、「元嘉七(430)年春正月是の月、倭国王、使いを遣わし方物を献ず60」と。この年に使者を送り方物を届けたのは珍であり、年代でみると書紀に云う允恭天皇(雄朝津間稚子宿禰尊)とみられる。
AD	431	辛未		20年	39歳			8年	
AD	432	壬申	代	21年	40歳			9年	履中天皇没。伊邪本和氣(履中)天皇の御年、陸拾肆(64)歳。(壬申の年の正月三日に崩りましき。御陵は毛受(堺市百舌鳥)に在り(履中記)。墓碑「伊邪本和氣命 壬申一月五日 年六十四」(上石津ミサンザイ古墳)。発掘調査の結果、仁徳陵よりも築造年代が古いとされている。
AD	433	癸酉		22年	41歳			10年	
AD	434	甲戌		23年	42歳			11年	
AD	435	乙亥		24年	43歳			12年	
AD	436	丙子		25年	44歳			13年	
AD	437	丁丑		26年	45歳			14年	
AD	438	戊寅		27年	46歳			15年	[宋の元嘉15年4月]、この月、倭王弥(珍)が宋に貢物を贈り安東將軍の称号を授けられる。劉宋元嘉十五(438)年夏、 <b>倭国王珍</b> (反正天皇:380~438)を以て、安東將軍となす(宋書 帝紀)。水歯別命(反正天皇)の御年、陸拾(60)歳。(丁丑七月に崩りましき)御陵は毛受(百舌鳥)にあり(反正天皇記)。 <b>丁丑七月は戊寅七月の誤記</b> 。反正天皇没 墓誌「水歯別命 戊寅年七月五日 年五十九」(土師二サンザイ陵前)。
AD	439	己卯		28年	47歳			16年	
AD	440	庚辰		29年	48歳			17年	
AD	441	辛巳	大	30年	49歳			18年	
AD	442	壬午		31年	50歳			19年	
AD	443	癸未	和	32年	51歳			20年	劉宋 元嘉二十(443)年、「 <b>倭国王濟</b> (允恭天皇:393~453)、使を遣して奉獻す。復た以て安東將軍・倭国王と爲す」(宋書 倭国伝)。
AD	444	甲申		33年	52歳			21年	
AD	445	乙酉	時	34年	53歳			22年	
AD	446	丙戌		35年	54歳			23年	
AD	447	丁亥	代	36年	55歳			24年	
AD	448	戊子		37年	56歳			25年	
AD	449	己丑		38年	57歳			26年	
AD	450	庚寅		39年	58歳			27年	
AD	451	辛卯		40年	59歳			28年	宋の元嘉二十八(451)年、秋7月甲辰、安東將軍倭王、 <b>倭の齋(允恭)</b> 、号を使持節都督六国諸軍事安東大將軍に進む。(宋書 文帝紀)。
AD	452	壬辰		41年	60歳			29年	[北魏の承平1年2月6日]、 <b>太武帝</b> (Tai-wu-di)が宦官らに殺される。(仏教弾圧を続けてきた北魏の皇帝)。
AD	453	癸巳		42年	61歳没			30年	<b>男浅津間若子宿禰命(允恭天皇)</b> の御年、漆拾捌(78)歳。(甲午の年正月十五日に崩りましき)御陵は河内の恵賀の長枝にあり(允恭紀)。453年2月8日(允恭天皇42年1月14日)、允恭天皇、没。第19代天皇。墓碑「若子宿禰命 癸巳年一月十四日 六十一」(河内大塚山近傍)。[宋の元嘉30年2月22日]、 <b>文帝</b> (Wen-di)が息子・劉劭によって殺される。46歳(南朝宋3代皇帝)。
AD	454	甲午	大	②0 あんなこう 安康	あなほ 穴穂命			31年	<b>安康天皇即位</b> 。穴穂命(安康)天皇は允恭天皇の四男(允恭紀)。穴穂御子、石上の穴穂宮(天理市石上町)に坐して天下治らしめき。(安康記)。454年1月28日(允恭42年12月14日)、第20代天皇、安康天皇が即位する。是年、 <b>太歳甲午</b> (安康天皇元年紀)。
AD	455	乙未		2年	40歳			32年	
AD	456	丙申		3年	41歳没			33年	目弱王(大后の先の子)、天皇の御寝を伺い傍の太刀を取りて天皇の頸を打ち斬り云々。天皇の御年、伍拾陸(56)歳。御陵は菅原の伏見岡にあり(安康記)。456年9月24日(安康3年8月9日)、安康天皇、没。56歳。第20代天皇(安康紀)。安康天皇墓碑「穴穂命 丙申年八月九日 四十一」(菅原古城陵周辺)。456年12月25日(安康3年11月13日)、第21代天皇、雄略天皇が即位する。



AD	457	丁酉	和 時 代	21 ゆうりやく 雄略	おおはつせわ 大長谷若 かたけ 建命 わおうぶ (倭王武)		宋 大明	雄略即位。大長谷命(雄略天皇)は允恭天皇の八男(允恭記)。大長谷若建命(雄略)、長谷(桜井市初瀬)の朝倉宮に坐し天下治めた。大日下王の妹・若日下部王を娶たまひき。(子無し)。また都夫良意富美の女・韓比売を娶して生みまし御子・白髮命。かれ白髮太子の御名代として白髮部を定め、また長谷部の舎人を定めたまひき(雄略記)。雄略天皇元年、是年、太歳丁酉(雄略天皇元年紀)。清寧天皇即位前23(457)年、紀崗米目連、星川皇子に從いて焼き殺される(清寧即位前紀)。	
AD	458	戊戌		2年	41歳		2年	石川(蘇我)宿禰没 墓誌「戊戌年六月五日 六十歳」	
AD	459	己亥		3年	42歳		3年		
AD	460	庚子		4年	43歳		4年	宋の大明四(460)年十二月丁未、倭王齋、使いを遣わして方物を献ず(宋書 孝武帝紀)。	
AD	461	辛丑		5年	44歳		5年		
AD	462	壬寅		6年	45歳		6年	宋 大明六(462)年、倭国王の世子の興(允恭天皇の王子黒日子命(420~468年)か、王子白日子命(420~483年)を以て安東將軍となす(宋書帝紀)。	
AD	463	癸卯		7年	46歳		7年		
AD	464	甲辰		8年	47歳		8年		
AD	465	乙巳		9年	48歳		9年	3月、紀小弓宿禰、大將軍として海を渡り新羅軍を打ち破った。大伴談連と紀崗前米目連が戦死、紀小弓宿禰は病没。子/紀大磐宿禰は父の死を聞いて新羅に向かったが蘇我韓子宿禰らと仲違いして帰還した。夏5月、大將軍紀小弓宿禰の冢墓を田身輪邑(大阪府泉南郡岬町淡輪)に作りて葬さしむ(雄略九年紀)。蘇我韓子没 墓誌「乙巳年五月七日 五十五歳」	
AD	466	丙午		10年	49歳		10年		
AD	467	丁未		11年	50歳		11年		
AD	468	戊申		12年	51歳		12年		
AD	469	己酉		13年	52歳		13年		
AD	470	庚戌	大 和 時 代	14年	53歳		14年	470年3月1日(雄略天皇14年1月13日)、中国の呉から職工や縫工が渡来、わが国の服飾文化に大きな影響をもたらす。「呉服」の名称はこれに由来する。	
AD	471	辛亥		15年	54歳		15年	(稲荷山鉄剣銘文紀年:埼玉稲荷山古墳出土)。(表)[辛亥年七月中記、乎獲居臣、上祖名意富比埜、其兒多加利足尼、其兒名豆己加利獲居、其兒名多加披次獲居、其兒名多沙鬼獲居、其兒名半豆比](裏)[其兒名加差披余、其兒名乎獲居臣、世々為杖刀人首、奉事来至今、獲加多支齒大王寺在斯鬼宮時、吾左治天下、令作此百練利刀、記吾奉事根原也]読み下し(表)「辛亥の年七月中、記す。ワフケの臣。上祖、名はオホヒコ。其の兒、(名は)タカリのスクネ。其の兒、名はテヨカリワケ。其の兒、名はタカヒ(ハ)シフケ。其の兒、名はタサキワケ。其の兒、名はハテヒ。(裏)「其の兒、名はカサヒ(ハ)ヨ。其の兒、名はワフケの臣。世々、杖刀人の首と為り、奉事し来り今に至る。ワカタケ(キ)ル■の大王の寺(時)、シキの宮に在る時、吾、天下を左治し、此の百練の利刀を作らしめ、吾が奉事の根原を記す也」。	
AD	472	壬子		16年	55歳		16年		
AD	473	癸丑		17年	56歳		17年		
AD	474	甲寅		18年	57歳				
AD	475	乙卯		19年	58歳		19年	蓋鹵(がいの)王二十一(474)年、高句麗が百済の都、漢城を包圍、蓋鹵王は子の文周に避難を命じ、文周は木笏満致(もくらいまち)・祖弥傑珠(そみけつしゆ)と南に行く(三国史記・百済本紀)。	
AD	476	丙辰		20年	59歳		20年	[北魏の承明1年6月14日]、献文帝(Xian-wen-di)が馮太后に毒殺される。(北魏の前皇帝)。	
AD	477	丁巳		21年	60歳		宋 昇明元年	劉宋 昇明二(477)年、「詔して武(雄略天皇:418~479)を…六國諸軍事、安東大將軍、倭王に除す」(宋書 倭国伝)	
AD	478	戊午		22年	61歳		2年	宋 昇明二(478)年、倭国王の武(雄略天皇)、使いを遣わし方物を献じ、武を安東大將軍となす。(宋書帝紀)	
AD	479	己未		23年	62歳没		齊 建元元年	齊 建元元年(479)年、武(雄略天皇)を鎮東大將軍となす(南齊書列伝)。4月24日、[南齊の建元1年4月24日]、宋朝末の混乱の中で実力を上げた蕭道成(52歳)が、順帝(12)から禪讓を受けて高帝となり齊朝を起こす。宋は滅亡する64)。大長谷命(雄略天皇)の御年、一百二十四歳。(己巳年八月九日に崩りましき)御後河内の他治比の高鷲(たかわし)にあり44)。雄略天皇23年8月7日、雄略天皇、没。62歳。第21代天皇33)。雄略天皇 墓誌「大長谷若建命 己未年八月七日 六十二」(高鷲丸山陵前 大阪府羽曳野市島泉8丁目)。己未(479)の年、倭国の兵来たり侵す。始めて明活城を築き入りてくるを避く。梁洲の二城を囲むも、克たずして還る(新羅第20代慈悲麻立干条:三国遺事)85)。	
AD	480	庚申		大	22 せいねい 清寧	しらか 白髮命		2年	白髮大倭根子命(清寧天皇)は雄略天皇の御子。この天皇、伊波礼の粟栗宮(磐余は桜井市から檀原市にかけての地)に坐して天下治めた。皇后無く亦御子もなかりき。崩りまし後、天下治らしめす王無かりき(清寧記)。480年2月11日(清寧)1年1月15日、第22代天皇、清寧天皇が即位する。是年、太歳庚申(清寧天皇元年紀)。清寧天皇即位。元年庚申の…陟天皇位す(旧事紀)。
AD	481	辛酉			2年	38歳		3年	
AD	482	壬戌			3年	39歳		4年	
AD	483	癸亥	4年		40歳		5年		
AD	484	甲子	和 時	5年	41歳没		6年	天皇崩りし日、日継ぎ王を探したところ、…伊邪本和氣命(履中天皇)の子・市部の押齒王の後裔を二人(袁祁命・意祁命)見つけ葛城の角刺宮に上らせた(清寧記)。484年2月27日(清寧)5年1月16日、清寧天皇、没。41歳。第22代天皇(清寧紀)。墓碑「白髮大倭根子命 甲子年一月十六日 年四十一」(河内白髮山古墳近傍)。蘇我満智宿禰 墓誌「甲子年十一月七日 四十七歳」。在世:AD378~424年(池田仁三比定)とあるから、蘇我満智と木笏満致は別人。ただ古語拾遺に、「長谷の朝倉朝(雄略)に至りて…諸国の貢調、年年に満ち溢れき。更に大蔵を立てて、蘇我麻智宿禰をして三つの蔵を檢校らしめ云云」とあるから、蘇我満智宿禰の没年甲子は484年とすべきか。	
AD	485	乙丑		23 けんそう 顕宗	おけいはい 袁祁石巢別命		7年	伊邪本和氣命(履中天皇)の御子の市辺忍齒王の御子・袁祁石巢別命(顕宗天皇)は近つ飛鳥宮に坐して天下治らしめすこと捌(8)歳なり。天皇、石木王の女・難波王を娶して子无かりき(顕宗記)。485年2月1日(顕宗)1年1月1日、第23代天皇、顕宗天皇が即位する。是年、太歳乙丑(顕宗天皇元年紀)。顕宗天皇即位、元年乙丑(旧事紀)。	
AD	486	丙寅		2年	36歳		8年		
AD	487	丁卯		3年	37歳		9年	天皇、八鈎宮に崩りましぬ。この歳、紀生磐宿禰が任那を股にかけ高句麗に通った。将に三韓の王にならうとして官府を整え備えて云々(顕宗三年紀)。487年6月2日(顕宗)3年4月25日、顕宗天皇、没。38歳。第23代天皇(顕宗紀)。	

AD	488	戊辰	代	24 にんけん 仁賢	おけ 意 祚 命	10年	(顯宗)天皇崩りまして、即ち意祚命天津日統知らしめき。天皇の御年、參拾捌(38)歳。天下治らしめずこと八歳なり。御陵は片岡の石坏崗の上に在り(顯宗記)。488年2月2日(仁賢)1年1月5日、第24代天皇、仁賢天皇が即位する。仁賢天皇元年、是年、 <b>太歳戊辰</b> (仁賢天皇元年紀)。墓碑「 <b>袁祚石異別命</b> 戊辰年九月二十五日 三十八」(平野塚穴山古墳石室:奈良県香芝市平野)。仁賢天皇即位、元年 <b>戊辰</b> (旧事紀)。
AD	489	己巳		2年	43歳	11年	袁祚王(顯宗天皇)の兄・ <b>意祚王(仁賢天皇)</b> は石上の広高宮(天理市田辺、または嘉幡)に坐して天下治らしめき。天皇、大長谷若建(雄略)天皇の御子・春日大郎女を娶して生みまし御子……次に小長谷若雀命(武烈)、…併せて七柱。長谷若雀命、天下治らしめしき。(仁賢記)。
AD	490	庚午		3年	44歳	12年	[北魏の太和14年9月18日]、馮太后(Feng-tai-hou)没。(北魏の実権を握っていた太后)孝文帝の親政が始まる。
AD	491	辛未		4年	45歳	13年	11月、長寿王、没。98歳(高句麗の王)。
AD	492	壬申		5年	46歳	14年	
AD	493	癸酉		6年	47歳	15年	
AD	494	甲戌		7年	48歳	16年	
AD	495	乙亥		8年	49歳	17年	
AD	496	丙子		9年	50歳	18年	
AD	497	丁丑		10年	51歳	19年	
AD	498	戊寅	和	11年	52歳没	20年	498年9月9日(仁賢)11年8月8日、仁賢天皇、没。50歳。第24代天皇(仁賢紀)。墓碑「意祚命 戊寅年八月八日 五十二」(民家、宮/石上平野山)。
AD	499	己卯		25 ぶれつ 武烈	おほつせのわかさき 小長谷若雀命	21年	<b>小長谷若雀(武烈)天皇</b> は仁賢天皇の第五子、母は春日大郎女。小長谷若雀命、長谷の列木宮(桜井市出雲付近)に坐して天下治らしめずこと捌(8)歳なりき。この天皇、太子无かりき。かれ品陀和氣命(応神)天皇の五世孫・袁本杼命(繼体天皇)を近淡海国より上り坐さしめて手白髪命(仁賢天皇の皇女)に合せて天下を授け奉りき(武烈記)。499年1月(仁賢)11年12月、この月、第25代天皇、武烈天皇が即位する。是年、 <b>太歳己卯</b> (武烈天皇元年紀)。
AD	500	庚辰		2年	12歳	22年	
AD	501	辛巳		3年	13歳	23年	
AD	502	壬午		4年	14歳	24年	<b>梁天監元年</b> [梁の天監1(502)年4月10日]、武將蕭衍(しょうえん)(38)が、和帝の禪讓を受けて即位し、 <b>武帝</b> と称して <b>梁王朝</b> を樹立する。梁 天監元(502)年、 <b>武(武烈)</b> の号を征東大將軍に進む(梁書列伝)。
AD	503	癸未		5年	15歳	25年	503年(武烈天皇5年)、この年、新羅で国号と王号が定められる。これまでの <b>斯羅、斯盧、新羅</b> などの国の号が <b>新羅</b> に統一される。 癸未年八月日十、大王男弟王(袁本杼王:繼体天皇)が意柴沙加の宮(忍坂宮)に在る時、斯麻が長寿を念じて開中費(河内直=かわちのあたひ)穢人・今州利二人らを遣わして白上同(上質の銅)三百早を取り、この鏡を作る( <b>隅田八幡宮藏 人物画像鏡銘</b> 。橋本市隅田町)。原文:「癸未年八月日十六王年男弟王、在意柴沙加宮時、斯麻念長寿、遣開中費直穢人、今州利二人等、取白上同二百早」
AD	504	甲申		6年	16歳	26年	
AD	505	乙酉		7年	17歳	27年	
AD	506	丙戌		8年	18歳没	28年	武烈天皇没 墓碑「小長谷若雀命 丙戌年十二月八日 年十八」(香芝現陵近傍)。
AD	507	丁亥		大	26 けいたい 繼体	おほど 袁本杼命	29年
AD	508	戊子	2年		59歳	30年	
AD	509	己丑	3年		60歳	31年	
AD	510	庚寅	4年		61歳	32年	
AD	511	辛卯	5年		62歳	33年	新羅が年号を創設・延壽元年(橋本陵山・花山6号墳)
AD	512	壬辰	6年		63歳	34年	倭国が百済に可耶の娑陀・牟婁など四県を讓る(繼体紀6年)
AD	513	癸巳	7年		64歳	35年	倭国が百済に可耶の己殺・帶沙を讓る(繼体紀7年)
AD	514	甲午	8年		65歳	36年	
AD	515	乙未	9年		66歳	37年	
AD	516	丙申	10年		67歳	38年	
AD	517	丁酉	11年	68歳	39年		
AD	518	戊戌	12年	69歳	40年		
AD	519	己亥	13年	70歳	41年		
AD	520	庚子	14年	71歳	42年		
AD	521	辛丑	和	15年	72歳	43年	[百済の(武寧王)21年11月]、王が梁に使臣を遣わして国書を送り、百済が強国になったことを記して地位を評価するよう要請。
AD	522	壬寅		16年	73歳	44年	
AD	523	癸卯		17年	74歳	45年	
AD	524	甲辰		18年	75歳	46年	
AD	525	乙巳		19年	76歳	47年	この年、百済で武寧王陵が築造される。
AD	526	丙午		20年	77歳	48年	
AD	527	丁未		21年	78歳	49年	
AD	528	戊申		22年	79歳	50年	[北魏の武泰1年4月13日]、爾朱榮(35)が靈太后が実子の孝明帝を殺したとの口実で、河陰で皇族と官僉を大量に殺害する。11月11日、袁本杼命(オホド:繼体天皇)王、物部鹿鹿火に命じて <b>筑紫の磐井を急襲し殺す</b> (繼体22年紀)。
AD	529	己酉		23年	80歳	51年	
AD	530	庚戌		24年	81歳	52年	近江江毛野の失策で金官伽羅国滅ぶ。任那に調吉士が駐在(繼体天皇24年紀)。
AD	531	辛亥	代	25年	82歳没	53年	天皇(繼体)の御年、肆拾參(43)歳。(丁未年四月九日に崩りましき)御陵は三島の藍陵なり(繼体紀)。531年3月10日(繼体)25年2月7日、繼体天皇、没。82歳。墓碑「袁本杼命 辛亥年二月七日 年八十二」(茨木太田山古墳近傍)。日本の天皇・皇太子ら共に死す(百済本記)。第27代天皇、安閑天皇が即位する(安閑紀)。
AD	532	壬子		26年	67歳	54年	百済が年号を創始、 <b>建興</b> 元年(和歌山市岩橋將軍塚古墳)。

AD	533	癸丑		68歳			
AD	534	甲寅	27 あんかん 安閑	ひろくにおいたけかなひ 廣國押建金日命			安閑天皇元年、…是年、 <b>太歳甲寅</b> (安閑天皇元年紀)。安閑天皇即位、元年歳次 <b>甲寅</b> (旧事紀)。廣國押建金日王(安閑天皇)、勾金箸宮に坐して天下治らしめしき。
AD	535	乙卯	2年	70歳没			安閑天皇2年5月9日、紀國に終瑞屯倉(ふせ:布施屋)、河辺屯倉(川辺)を置く(安閑紀 紀伊續風土記)。この天皇(安閑)、御子無かりき。(乙卯年三月十三日に崩りましき)御陵は河内の古市の高屋村にあり(安閑記)。安閑天皇 墓碑「廣國押建金日命 乙卯年十二月十七日 七十」(現安閑皇后陵)。
AD	536	丙辰	28 せんか 宣化	おしたて 押楯命			<b>建小広國押楯命(宣化)</b> 、檜桐の盧入野宮に坐して天下治らしめしき。(宣化記)。536年1月26日(宣化)1年12月18日、第28代天皇、宣化天皇が即位する。二月壬申の朔に、大伴金村を以て大連とし、物部麁鹿火大連を以て大連とすること、元の如し。又、 <b>蘇我稲目宿禰を以て大臣</b> とす。阿倍大麻呂臣を大夫とす。是年、 <b>太歳丙辰</b> (宣化天皇元年紀)。新羅が年号を立て建元元年とする(三国史記)。檜前タカダ王(宣化)が諸国の屯倉の穀物を筑紫に運ぶ(宣化元年紀)
AD	537	丁巳	1年	71歳			宣化天皇即位、元年 <b>丁巳</b> (旧事紀)。
AD	538	戊午	大	2年	72歳		百濟聖明王から仏像と教典が贈られる(152)。
AD	539	己未	大	3年	73歳没		539年3月15日(宣化)5年2月10日、 <b>宣化天皇</b> 、没。73歳。第28代天皇。墓碑「押楯命 己未年二月十日 七十三」(權原現陵)。539年12月30日(宣化)5年12月5日、第29代天皇、 <b>欽明天皇が即位</b> する(欽明紀)。欽明天皇即位、元年歳次 <b>己未冬十二月</b> (旧事紀)。
AD	540	庚申	和	29 きんめい 欽明	ひろくには 廣庭命		<b>天國押波流岐広庭(欽明)天皇</b> 、師木島の大宮(桜井市金屋の東南)に坐して天下治らしめしき。天皇、檜桐天皇の御子・石比売命を娶して生みましし御子・八田王、次に沼倉太玉敷命、…。宗賀稲目宿禰の女・岐多斯比売を娶して生みましし御子・橘豊日命。…次に豊御食炊屋比売命。…また岐多斯比売の姨・小兒比売を娶して生みましし御子…次に間人穴太大王。…次に長谷部若雀命。凡この天皇御子等、併せて廿五王なり(欽明記)。大伴金村・物部尾輿を大連とし蘇我稲目宿禰を大臣とすることの如し(欽明即位前紀)。大伴金村、任那四県割讓問題で引責・引退。是年、 <b>太歳庚申</b> (欽明元年紀)。須佐之男尊(スサノオ)を祀る <b>天王社</b> は全国に三千社あり、総本社は愛知県津島市の <b>津島神社</b> 。「第七代孝靈天皇のとき西海の対馬に祀られ、欽明天皇(29代)の御代(540年)に対馬から奉遷された」(尾張名所絵図)。もと対馬に祀られていた祭神をスサノオの後裔・尾張氏が尾張國に遷したか。
AD	541	辛酉	大	2年	32歳		<b>紀臣奈率弥麻沙</b> (欽明朝に百濟から安羅に派遣された使者の一人(倭人と韓婦の子「韓子」)、百濟の6位の高官役人。任那復興をはかる(欽明2年紀)。蘇我馬背(高麗)没 墓誌「辛酉年八月六日 六十歳」
AD	542	壬戌	時	3年	33歳		
AD	543	癸亥	代	4年	34歳		
AD	544	甲子	代	5年	35歳		<b>紀臣奈卒彌麻沙</b> 、任那復興会議開催のため百濟を往復(欽明天皇5年紀)。
AD	545	乙丑	代	6年	36歳		この年、 <b>新羅</b> が「 <b>国史</b> 」を編纂する。新羅本紀か。
AD	546	丙寅	代	7年	37歳		
AD	547	丁卯	代	8年	38歳		
AD	548	戊辰	代	9年	39歳		この年、高句麗が百濟を討つ(三国史記)。
AD	549	己巳	代	10年	40歳		
AD	550	庚午	大	11年	41歳		[北齊の天保1年5月12日]、東魏の実力者・高洋(21歳)が東魏の皇帝から禪讓を受けて <b>文宣帝</b> となり、北齊を建国。この年、百濟が兵一万を派遣して高句麗を攻める(三国史記)。
AD	551	辛未	大	12年	42歳		百濟聖明王、新羅・任那の兵を率いて高句麗を討ち、進軍して平壤を討ち六郡を得る(欽明天皇12年紀)。 <b>蘇我馬子</b> 誕生(墓誌から推算)
AD	552	壬申	和	13年	43歳	承聖元年	天國排開廣庭天皇、亦たの名を欽明天皇、即位の十一年 <b>壬申の歳</b> 、始めて <b>佛法</b> を百濟國より傳う。此の年、梁の承聖元年に當たる(宋史日本伝)。
AD	553	癸酉	和	14年	44歳		新羅が百濟の北東に侵入、新州を置く(三国史記)
AD	554	甲戌	時	15年	45歳		この年、 <b>百濟の聖王</b> が50人足らずの精銳と歩兵で新羅の狗川に侵入し <b>戦死</b> する(三国史記)。倭國から百濟救援のため兵一千・馬百頭・船四十隻を率いて渡海(欽明天皇15年紀)。
AD	555	乙亥	時	16年	46歳		百濟から大和に五経博士、來國。 <b>阿羅・迦那</b> が新羅に滅ぼされる(欽明15年紀)。
AD	556	丙子	代	17年	47歳		10月、吉備真備、没。83歳(続日本紀)。大臣蘇我稲目を遣わし海部屯倉(手平)を置く(欽明紀)。(紀伊續風土記一)
AD	557	丁丑	代	18年	48歳		
AD	558	戊寅	代	19年	49歳		
AD	559	己卯	代	20年	50歳		
AD	560	庚辰	代	21年	51歳		
AD	561	辛巳	代	22年	52歳		
AD	562	壬午	大	23年	53歳		この年、新羅が大伽耶を滅ぼし加羅諸國を納める(欽明紀)。7月、 <b>紀男麻呂宿禰</b> 、大將軍として新羅に派遣される(欽明天皇23年紀)。
AD	563	癸未	大	24年	54歳		新羅に遠征した <b>紀男麻呂宿禰</b> はこの時、「勝ちでも敗れることを忘れるな云々」の名言を部下に訓示、兵卒等はこれに従った(欽明24年紀)。紀男麻呂宿禰は若干21歳の青年だった。
AD	564	甲申	大	25年	55歳		
AD	565	乙酉	大	26年	56歳		
AD	566	丙戌	和	27年	57歳		<b>調月</b> はこの頃から、欽明天皇の王子・ <b>吉仲麻呂</b> (菅吉永丸とも)が対岸の丸柵を含めて所領したことから吉仲荘と呼ばれた(高野山文書三)。菅吉永は蘇我吉永丸か。
AD	567	丁亥	和	28年	58歳		
AD	568	戊子	和	29年	59歳		
AD	569	己丑	和	30年	60歳		
AD	570	庚寅	時	31年	61歳		570年3月23日、(欽明)31年3月1日、 <b>蘇我稲目</b> 、没。「庚寅年3月10日65」欽明朝大臣(欽明紀)。蘇我稲目命 墓誌「庚寅年三月十日 六十五歳」
AD	571	辛卯	代	32年	62歳没		571年5月24日、(欽明)32年4月15日、 <b>欽明天皇</b> 、没。63歳。第29代天皇。墓碑「廣庭命 辛卯年四月十七日 六十二」(見瀬丸山古墳石室)。欽明天皇32(571)年、大神比賣命が宇佐八幡宮を創建(扶桑略記・東大寺要録・宮寺祿事抄)。
AD	572	壬辰	大	30 びだつ 敏達	めなぐらふたましき 沼倉太玉敷命		<b>沼倉太玉敷命(敏達)</b> 、他田宮に坐して天下治らしめすこと十四歳なりき。この天皇、庶妹豊御食炊屋比売命(推古)を娶して…。日子人太子・庶妹田村王、亦の名敏代比売命を娶して生みましし御子・(空白)尚本宮に坐して天下治らしめしし天皇(舒明)、次に…三柱。(敏達記)。敏達1年4月3日、欽明天皇の第2子・ <b>詔語田皇子</b> が即位する。是年、 <b>太歳壬辰</b> (第30代天皇、敏達天皇)。4月、 <b>物部守屋を大連</b> に再任。 <b>蘇我馬子宿禰を大臣</b> とす(敏達元年紀)。敏達天皇即位、元年歳次 <b>壬辰</b> の夏四月(旧事紀)。

AD	573	癸巳		2年	36歳				
AD	574	甲午		3年	37歳				太子厩戸皇子(聖徳太子)誕生(152)。
AD	575	乙未		4年	38歳				
AD	576	丙申		5年	39歳				敏達天皇「五(576)年の春三月十日、 <b>豊御食炊屋姫尊</b> を立てて皇后とす。是、二の男・五の女生まれます。其の一を菟道貝鮪皇女と曰す。(割注:更の名は菟道磯津貝皇女)是、 <b>東宮聖徳</b> に嫁す(敏達紀)。
AD	577	丁酉		6年	40歳				<b>紀押勝</b> 、百濟への使者となる(敏達6年紀)。
AD	578	戊戌		7年	41歳				
AD	579	己亥	飛	8年	42歳				
AD	580	庚子		9年	43歳				物部鎌姫大刀自連公、宗我嶋大臣(蘇我馬子)の妻と為りて <b>豊浦大臣</b> を生む。名を <b>入鹿連公</b> と曰ふ(旧事本紀)。
AD	581	辛丑	鳥	10年	44歳	蘇我善徳	隋開皇元年		<b>蘇我善徳</b> 、誕生(蘇我馬子大王99)の墓誌から推算。長子/後の <b>聖徳太子</b> 。母は參政/物部鎌姫大刀自連公62。この年、北周より禪讓され <b>隋</b> が <b>建国</b> される。初代楊堅は隋の文帝とも云う。
AD	582	壬寅		11年	45歳	2歳	2年		
AD	583	癸卯	時	12年	46歳	3歳	3年		<b>紀伊国造・押勝</b> が百濟へ使いする(敏達12年紀)
AD	584	甲辰		13年	47歳	4歳	4年		
AD	585	乙巳	代	14年	48歳没	5歳	5年		3月30日、 <b>物部守屋</b> が仏像・仏舎利等を焼き打ちする(敏達紀)。(天皇、甲辰年の四月六日に崩りましき)御陵は川内の科長にあり(敏達紀)。8月15日、 <b>敏達天皇</b> 、没。48歳。第30代天皇(敏達紀)。敏達天皇 墓碑「沼名倉太玉敷命 乙巳年八月十五日 四十八」(宮/百濟春日)。
AD	586	丙午		31 ようめい 用明 かくう 架空	蘇我馬子大王		6年		9月5日、欽明天皇の第4子・ <b>橘豊日皇子</b> が即位する(第31代天皇、用明天皇)。橘豊日王(用明天皇)、池辺宮に坐して天下治らしめずこと參歳なりき。この天皇、庶妹・間人穴太部王を娶して生みまし御子・上宮之厩戸豊聰耳命。(用明記)。元年の春正月の壬子の朔に、穴穂部間人皇女を立てて皇后とす。是四の男生まれます。其の一を <b>厩戸皇子</b> と曰す。9月、 <b>蘇我馬子宿禰</b> と <b>大臣</b> 、 <b>物部守屋連</b> と <b>大連</b> とす。是年、太歳 <b>丙午</b> (用明天皇元年紀)。用明天皇元年歳次 <b>丙午</b> (旧事紀)。 <b>蘇我馬子は大王(天皇)</b> だった99)。
AD	587	丁未		2年	37歳	7歳	隋		二年の夏四月の乙巳の朔丙午(2日)に磐余の河上に御新嘗す。是の日に天皇、得病ひたまひて宮に還入します。…癸丑(9日)に天皇、大殿に崩りましぬ。秋七月の甲戌の朔甲午(21日)に磐余池上陵に葬りまつ(書紀)。この天皇、(丁未年の四月十五日に崩りましき)。御陵は石寸の掖上にありしを、後に科長中陵に遷しまつりき(用明記)。4月9日、用明天皇、没。48歳。第31代天皇(用明記)。墓碑「橘豊日命 丁未年四月九日 四十八」(香芝畠田古墳)。蘇我馬子と厩戸皇子(14歳、後の聖徳太子)軍が仏教排斥を唱えた <b>物部守屋軍と合戦(丁未の役)</b> 、三度敗退し苦戦。 <b>厩戸皇子</b> 、 <b>当地の陣にて越年</b> (吉仲庄調月色大歳大明神縁起)とあるが書紀に合わせた説話か。紀男麻呂宿禰、蘇我馬子軍に組する(用明記)。8月2日、欽明天皇の第12子・泊瀬部皇子が即位する(第32代天皇、崇峻天皇(崇峻紀)。僧・師業正人ら十二人が <b>八万堂</b> (現、山人平の山堂社跡)でお経を請じ物部守屋の調伏に成功。物部守屋、没。 <b>神堂谷の上、経藏谷に塚を築いてお経を奉納</b> 。この地を「塚築」とし文字には <b>調月</b> と書くこと、この世からの事なり(野口家文書・高野山文書七)。調月はハンゲルで「ヱカヅキ」と書き、ツカツキと発音できること判明)。
AD	588	戊申	法興	32 すいもん 崇峻 かくう 架空	38歳	8歳	8年		<b>長谷部若雀(崇峻)天皇</b> 、倉椅の柴垣宮に坐して天下治らしめずこと四歳なりき。崇峻天皇元年三月…是年、飛鳥衣縫造の家を壊して、初めて法興寺を作る。是年、太歳 <b>戊申</b> (崇峻天皇元年紀)。蘇我氏の法興寺の建立が始まった五八八年が「法興」の元年とされている。元年 <b>戊申</b> (旧事紀)。
AD	589	己酉	2年	2年	39歳	9歳	9年		二年の秋七月に蘇我馬子大臣、諸皇子と群臣とに勸めて物部守屋大連を滅ぼさむことを謀る。泊瀬部皇子、竹田皇子、厩戸皇子、難波皇子、春日皇子、蘇我馬子宿禰大臣、 <b>紀男麻呂宿禰</b> らを率て大連を討つ(崇峻紀)。崇仏派の蘇我馬子と廢仏派の物部守屋が <b>宗教戦争</b> 、 <b>蘇我馬子派が勝つ</b> 69)。(この文節は他の史料からみて怪しい)。
AD	590	庚戌	3年	3年	40歳	10歳	10年		春三月に、学問尼善信等、百濟より還りて櫻井寺に住り(崇峻天皇3年紀)。善信尼は馬子の娘月益姫・禪蔵尼は小野妹子の娘日益姫・惠善尼は物部守屋の娘月照姫。三公尼は後に聖徳太子の薨後、磯長陵の門前に草庵を建て、太子の西方浄土を欣求した(西方院縁起)。
AD	591	辛亥	4年	4年	41歳	11歳	11年		崇峻天皇四(591)年、將軍 <b>紀男麻呂宿禰</b> 等は任那再興のため再び二万余の兵を率いて筑紫まで出陣したが、蘇我馬子の天皇弑逆により渡海を中止、推古天皇三年秋七月に將軍等、筑紫より至る(推古天皇3年紀)。
AD	592	壬子	5年	5年	42歳	12歳	12年		五年の冬十月、…是の月に大法興寺(法興寺=飛鳥寺)の佛堂と歩廊とを起つ。十一月の癸卯の朔乙巳(3日)に、馬子宿禰、群臣を許めて曰く、「今日、東国の調進る」といふ。乃ち東漢直駒をして天皇を弑せまつらむ。是の日に天皇(崇峻)を倉梯岡陵に葬りまつ(崇峻紀)。天皇、(壬子年十一月十三日に崩りましき)御陵は倉椅岡の上にあり(崇峻紀)。11月3日、 <b>崇峻天皇</b> が蘇我馬子の指示で東漢直駒に暗殺される。即日陵に葬られる(崇峻紀)。
AD	593	癸丑	6年	33 推古 架空	43歳	13歳	13年		「豊御食炊屋姫天皇(推古)は、…年十八歳(敏達元(572)年)にして立ちて淳中倉太玉敷天皇(敏達)の皇后と為る。三十四歳(崇峻元(588)年)にして淳中倉太玉敷天皇(敏達)崩りましぬ」とすれば、用明天皇の在位期間はない。「三十九歳にして泊瀬部天皇(崇峻)の五(592)年の十一月に當りて天皇(崇峻)、大臣馬子宿禰の為に殺せられたまひぬ(推古前紀)。元(593)年四月の庚午の朔己卯(10日)に <b>厩戸豊聡耳皇子を立てて皇太子</b> とす。仍りて録攝政らしむ。萬機を以て悉に委ぬ。橘豊日天皇の第二子なり。母の皇后を穴穂部間人皇女と曰す。推古元(593)年、是歳、始めて <b>四天王寺</b> を難波(摂津)の荒陵に造る(推古紀)。在位のない用明天皇、推古天皇は <b>架空</b> 。この時は <b>蘇我馬子は大王</b> だった99)。是年、太歳 <b>癸丑</b> (推古天皇元年紀)。用明天皇は <b>架空</b> 、御子/厩戸豊聡耳皇子も <b>架空</b> 。
AD	594	甲寅	7年	2年	44歳	14歳	14年		春二月の丙寅の朔に、皇太子(厩戸)、及び大臣(馬子)に詔して三寶(佛・法・僧)を興し隆えしむ。この時に、諸臣連等、各君親の恩の為に競いて佛舎を造る。即ち是を寺と謂う(推古二年紀)。
AD	595	乙卯	8年	3年	45歳	15歳	15年		推古三(595)年、五月の戊午の朔丁卯(十日)に高麗の僧・慧慈、帰化く。則ち皇太子(厩戸皇子)、師としたまふ。是歳、百濟の僧・慧聰来けり。此の僧、仏教を弘演めて、並に三寶の棟梁と為る。七月に、將軍等(紀男麻呂宿禰)等、筑紫から大和に帰還(推古紀三(595)年紀)。 <b>蘇我善徳</b> 15歳。
AD	596	丙辰	9年	4年	46歳	16歳	16年		四(596)年の冬十一月に、法興寺造り竟りぬ。則ち大臣(蘇我馬子)の男・善徳臣を以て寺司に拜す。是の日に慧慈・慧聰、二の僧、始めて法興寺に住り(推古4年紀)。蘇我馬子の長男/ <b>善徳</b> を棟梁として <b>元興寺(法興寺)を建てる</b> 113)。(蘇我善徳16歳)
AD	597	丁巳	10年	飛	5年	47歳	17歳		17年
AD	598	戊午	11年	6年	48歳	18歳	18年		2月28日、 <b>吉仲麻呂</b> 没(57歳頃)、十景山に葬る。紀男麻呂宿禰調月、次いで卒す122)。 <b>十景山</b> は <b>御茶屋御殿山の北東麓・船戸山古墳</b> か。吉仲麻呂=菅吉永て、菅は蘇我・宗我の変字か。
AD	599	己未	鳥	7年	49歳	19歳	19年		推古天皇7年4月27日(599年5月28日)、「 <b>地震が起きて建物がすべて倒壊した</b> 。それで全国に命じて地震の神をお祭りさせた」(推古紀)。これが <b>地震被害の最初の記録</b> 。

AD	600	庚申	13年		8年	50歳	20歳	20年	安帝の時、又、使を遣して朝貢す。之を倭奴國と謂う。開皇二十(600)年、倭王、姓は阿每、字は多利思比孤阿鞮羅弥と号し使いを遣わして關に詣る。王の妻は羅弥と号し、太子を名付けて利(和)歌弥多弗利とす(隋書倭国伝)。天足日子大王(あまたらしひこおきみ)は蘇我馬子大王、王の妻は物部鎌姫大刀自連公(きみ)は羅弥(けみ)、太子は蘇我善徳(20歳)だった。この年、百済で法王の子・武が第30代の王位を継ぐ(武王:ムワン)。	
AD	601	辛酉	14年	時	9年	51歳	21歳	21年	春二月に皇太子、初めて宮室を斑鳩に建てて。3月5日、高句麗・百済に使いを送り任那の復興を要請する。11月5日、新羅を攻める計画を立てる(推古9年紀)。	
AD	602	壬戌	15年		10年	52歳	22歳	22年	春二月の己酉の朔に來目皇子(太子の弟)をもて新羅を撃つ將軍とす。諸の神部及び国造・伴造等、併せて軍衆二萬五千人を授く。夏四月の戊申の朔に將軍・來目皇子、筑紫に到ります。乃ち進みて嶋郡に屯みて船舶を聚めて軍の糧を運ぶ。六月、來目皇子、病に臥して征討つことを果さず(推古10年紀)。紀氏の十代・紀男唐宿禰が当地(調月)に来て、紀氏の谷と称して四面を拓き耕作の道を教える。紀男唐宿禰は調月(ちようげつ)と名乗る(野口家文書・高野山文書)。	
AD	603	癸亥	16年	代	11年	53歳	23歳	23年	10月3日、飛鳥の小墾田(おわりだ)に都を移す。11月1日、太子の側近、秦造河勝が氏寺・峰岡寺(広隆寺)を建立する。11月1日、太子が新羅より献ぜられた弥勒像1体を秦河勝に授ける(推古11年紀)。推古天皇即位11年、紀男麻呂宿禰、八万堂に大歳明神を創祀、五穀豊穰を祈った。また神戸に社殿を造り紀氏の神を祀った(旧高野領内文書(三))。12月5日、太子、始めて冠位を行ふ。大徳、小徳、大仁、小仁、大禮、小禮、大信、小信、大義、小義、大智、小智、併て十二階(推古11年紀)(推古11年紀)。	
AD	604	甲子	17年		12年	54歳	24歳	24年	1月1日、初めて曆を用いる。夏4月3日に皇太子、親から肇めて憲法十七条作りたまふ。一に曰く、和なるを以て貴しとし、以下、十七に曰く。〔隋の仁寿4年7月、文帝(Wen-di)没。63歳(隋の初代皇帝)。皇太子の楊広(35)が皇帝となる(煬帝)〕。	
AD	605	乙丑	18年		13年	55歳	25歳	蘇我石川麿	4月1日、天皇が鞍作鳥に命じて丈六の金銅仏(飛鳥大仏)を造らせる。冬10月、皇太子(太子・厩戸皇子)、斑鳩宮に居す(推古13年紀)。	
AD	606	丙寅	19年		14年	56歳	26歳	2歳	大業2年	紀男麻呂宿禰没、64歳(推定)。外野の御墓に葬られる(桃山町史)。「下田、小二十歩(百四十歩)、夫倉・調月塚、地主中殿、作同」(應永二十(1413)年、安樂川本庄・下司給・公事録・分田切符:高野山文書)とあり、外野の調月塚をさすか。4月8日、鞍作鳥が丈六仏を造りあげて法興寺金堂に安置する(推古14年紀)。
AD	607	丁卯	20年		15年	57歳	27歳	3歳	3年	秋7月3日、小野妹子を大唐(隋)に遣わす(推古15年紀)。隋の大業三(607)年、「その王の多利思比孤、使いを遣わし朝貢す。妹子の持参した国書に「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無きや」と、隋の煬帝が怒り、「二度と奏上してはならぬ(隋書)と。だが、隋は強硬な態度にでることはなかった。
AD	608	戊辰	21年		16年	58歳	28歳	4歳	4年	「明るる年(大業4年/608年)、上は文林郎の裴世を遣わして倭国に使いす。百済を渡り行きて竹島に至り、南に聘羅国を望み都斯麻国を経て、遥か大海の中に在り。また東進して一支国に至り、また竹斯国に至り、また秦王国に至る。竹斯国より以東は皆倭に附庸す。倭王は小徳の何壘(かわと)を遣わし数百人を従えて儀仗を設け、鼓角を鳴らして迎える。後十日、また大礼の哥多毘(かたび)を遣わし二百余騎を従えて郊勞す。既に彼の都に到る。倭王は世清に合つて大いに喜び、「大唐は礼儀の国と聞いて朝貢の使いを出した。私は夷で偏つた海中に在り礼儀を知らない云々」と話した(隋書)。小野妹子、裴世清を送り再び随に行く。高向玄理・僧暈・南淵請安・惠隠らが同行する(推古16年紀)。
AD	609	己巳	22年	飛	17年	59歳	29歳	5歳	5年	十六(609)年の夏四月に小野妹子、大唐より至る(推古17年紀)。唐(隋)国、妹子臣を号けて蘇因高と曰ふ。即ち大唐(隋)の使人・裴世清、下客十二人、妹子臣に従ひて筑紫に至る。9月11日、小野妹子が再び隋に赴く。9月、小野妹子、隋から帰る(第3次遣隋使)。(推古16年紀)
AD	610	庚午	23年		18年	60歳	30歳	6歳	6年	10月8日、新羅・任那の使節が都に入り蘇我馬子らが朝廷に迎える(推古18年紀)。
AD	611	辛未	24年	鳥	19年	61歳	31歳	7歳	7年	1月25日、太子が勝鬘経義疏を著す。5月5日、太子が菟田野で薬猟を催す(推古19年紀)。
AD	612	壬申	25年		20年	62歳	32歳	8歳	8年	〔隋の大業8年1月〕、この月、隋の煬帝、高句麗遠征を開始する(隋書)。
AD	613	癸酉	26年	時	21年	63歳	33歳	9歳	9年	癸酉(613年)正月九日、馬屋門豊聡耳皇子(厩戸豊聡耳皇子)が(推古天皇)の勅を受けて元興寺等の本縁及び等与称氣の命(推古天皇)の発願並びに諸々の臣等の発願(元興寺伽藍縁起并流記資財帳)を記す(同資財帳前書き)。9月15日、太子が維摩経義疏を著す。
AD	614	甲戌	27年		22年	64歳	34歳	10歳	10年	6月13日、犬上御田鍬と矢田部造を隋に派遣する(推古22年紀 第4回遣隋使)。この頃、国内で農民の反乱起こり国内大乱。智積(鎌子)、百済で誕生(墓誌から推算)
AD	615	乙亥	28年	代	23年	65歳	35歳	11歳	11年	4月15日、太子が法華経義疏(ほけきょうぎしよ)をまとめる。7月、遣隋使の犬上君御田鍬と矢田部造が帰国した(推古23年紀)。
AD	616	丙子	29年		24年	66歳	36歳	12歳	12年	
AD	617	丁丑	30年		25年	67歳	37歳	13歳	13年	〔隋の大業13年11月9日〕、李淵(のちの唐の高祖)が長安城を平定し民に法12条を約束する。
AD	618	戊寅	31年		26年	68歳	38歳	14歳	隋滅亡 唐建国	正月二十二日上宮法皇、枕病して[余/心]らず。(干食)王后よりて以って深く勞疾し、並びに床に著く。同二月二十一日看病していた王后が先に亡くなる。亡くなった翌日、その看病されていた上宮法皇も亡くなる。「登遐」も亡くなること。「即世」と「登遐」の実は同じで死んだことです。三月中、発願の如く釈迦尊像及び莊嚴の具を備え終わる。王子や諸臣が作った。(吉祥文句である四字十一句は省略)仏像は止利(しり)、あるいはとりの仏師が造った(法隆寺釈迦三尊像の光背銘文)。 3月11日、〔隋の義寧2年3月11日〕、隋の煬帝が將軍・宇文化に殺され隋が滅亡する。5月20日、〔唐の武徳1年5月20日〕、李淵が皇帝の位につく。李淵は唐の高祖と称され唐が建国される。
AD	619	己卯			27年	69歳	39歳	15歳	唐	
AD	620	庚辰			28年	70歳	40歳	16歳		この年、皇太子・嶋大臣(蘇我馬子)、天皇記及び国記・臣連伴造国造、百八十部併せて公民本記を録す(推古28年紀)
AD	621	辛巳		飛	29年	71歳	41歳	17歳		春二月五日の半夜に厩戸豊聡耳皇子命(厩戸皇子)、斑鳩宮に薨りましぬ(推古29年紀)。法興元年、歳次辛巳(621年)ノ十二月に、鬼前太后崩しぬ(法隆寺釈迦三尊像の光背銘文)。
AD	622	壬午		鳥	30年	72歳	42歳	18歳		壬午春二月、先代旧事本紀を撰録・完成(先代旧事本紀序文)。2月22日、太子が斑鳩宮で没す(法隆寺「釈迦像の光背銘」、「天寿国廟帳銘」などによる)。49歳。この月の内に膳部夫人とともに埋葬される(推古天皇の摂政として冠位の制定・17条憲法などを制定した)。厩戸皇子(聖徳太子)没(49歳)(上宮聖徳法王帝説)。この年、大海人皇子(天武)誕生(墓誌から推算)。大海人皇子は蘇我善徳大王(聖徳太子)の王子で、饒速日尊の長男天香諸人命の末裔/海部直・大海宿禰ら一族を母親として生まれたとみられる。
AD	623	癸未			31年	73歳	43歳	19歳		この年、新羅が任那を討つ(推古31年紀)。
AD	624	甲申			32年	74歳	44歳	20歳		この年、唐から高句麗に道教が伝来する。
AD	625	乙酉		時	33年	75歳	45歳	21歳		翫岐、百済で武王と宝姫の子として誕生。(後の中大兄皇子)

AD	626	丙戌	代	34年	76歳没	46歳	22歳	5月20日、大臣 <b>蘇我馬子(大王)</b> 没 76歳。桃源墓(石舞台古墳)に葬る(推古34年紀)。墓誌「丙戌年5月20日76(飛鳥石舞台 石室、石棺鬼の厩/畑)」。[唐の武徳9年6月4日]、唐を創始した李淵(高祖)の次男・李世民が兄の建武と弟の元吉を殺す(玄武門の変)。 <b>李淵が李世民(28)に讓位し世民は即位して唐の太宗となる(唐書)。</b>
AD	627	丁亥		35年	そが ぜんとくたいおう 蘇我善徳大王		23歳	貞観1年 7月、百済の武王が沙乞將軍に命じて西の国境にある <b>新羅の城を攻撃</b> させ陥落させる(百済本紀)。蘇我馬子大王の崩後、長子 <b>善徳が大王だった。</b>
AD	628	戊子		36年	48歳		24歳	貞観2年 推古天皇三十六(628)年の春二月の戊寅の朔甲辰(27日)に天皇(推古)臥病したまふ。三月壬子(6日)に天皇、痛みたまふこと甚しくして諱むべからず。則ち田村皇子を召して謂りて曰く、「天位に昇りて鴻基を經め論へ萬機を取して黎元を亭育ふことは、本より輒く言ふものに非ず。桓に重みする所なり。故、汝慎みて察にせよ。輕く言ふべからず」とのたまふ。即日、山背大兄(既、戸皇子の子)を召して教へて曰はく、「汝は肝稚し。若し心に望むと雖も、誼き言ふこと勿。必ず群の言を待ちて従ふべし」とのたまふ。三月 <b>癸丑(7日)に天皇崩りましぬ。時に七十五。</b> 即ち南庭に殯す(推古36年紀)。九月に葬禮畢りぬ。嗣位未だ定らず。是の時に當りて蘇我蝦夷臣、大臣たり。獨り嗣位を定めむと欲へり。顧みて群臣の従はざらむことを畏る(舒明天皇即位前紀)。蘇我蝦夷は <b>蘇我善徳大王の偽名。</b>
AD	629	己丑		34 じよめい 舒明 かくう 架空	49歳		25歳	貞観3年 息長足日廣額命(舒明)は <b>百済の武王</b> (ムワン/書紀名:田村王子)で日本には居なかつた21)。許勢臣大麻呂・佐伯連東人・紀臣鹽手、三人進みて曰はく、「山背大兄王、是天皇とましますべし」といふ。元(630)年の春正月の癸卯の朔 丙午に、大臣及び群卿、共に天皇の璽印を以て田村皇子に獻る。則ち辭びて曰はく、「宗廟は重事なり。寡人不賢し。何ぞ敢て當らむ」とのたまふ。群臣、伏して固く請して曰はく、「大王をば先朝鍾愛して幽顯心を屬けたり。皇統を纂ぎたまひて億兆に光し臨みたまへ」とまうす。即日(1月4日)に <b>即天皇位す。是年、太歳己丑</b> (舒明天皇元年紀/書紀の創作)。 1月、[唐の貞観3年]、この頃、 <b>陳玄奘(玄奘三蔵)</b> が単身で長安を發つて <b>インドへ</b> 旅立つ。(アフガニスタンからインドに入りナラーンダ(那爛陀)寺の戒賢などに学び645年帰国、664年没)。
AD	630	庚寅		2年	50歳		26歳	唐 二(631)年の春正月の丁卯の朔庚寅(12日)に、寶皇女を立てて皇后とす。后、二の男・一の女を生れませり。一を葛城皇子と曰す。割注(近江大津宮御宇(天智)天皇なり)。二を間人皇女と曰す。三を大海皇子と曰す。割注(淨御原宮御宇(天武)天皇なり)。夫人蘇我嶋大臣の女/法堤郎媛は古人皇子を生む。又、吉備国の蚊屋采女を娶り蚊屋皇子を生む。秋八月五日、大仁犬上君の三田相・大仁薬師の恵日を以て <b>大唐に遣わす</b> 。10月12日、天皇が飛鳥の岡の傍に移る。是を岡本宮と謂う(舒明二年紀)。皇極は百済武王の王妃21)。
AD	631	辛卯		3年	51歳		27歳	貞観5年 「倭の国王は阿毎氏、官に十二等あり。倭国は太宗の貞觀五(631)年、使者を遣し入朝す。帝、其の遠きを矜(あわ)れみ、有司に詔して歳ごとの貢に拘(とら)わるを母(な)からしむ。新州刺史の <b>高仁表</b> を遣し往きて諭さしめも王子と禮を争ひ平らかならず、肯(あえ)て天子の命を宣(の)べずして還る。二十二(648)年に至り、また新羅使者に附して上書す。 <b>日本国</b> の者は <b>倭国とは別種</b> なり(旧唐書・貞観五(631)年条)。3月1日、「百済の <b>義慈王、王子豊璋</b> を入りて者とす」(舒明3年紀)。百済の義慈王の即位は641年(百済本紀)。この年に <b>義慈王が王子豊璋を人質に出したと云うのは辻褄が合わない。</b>
AD	632	壬辰		4年	52歳		28歳	貞観6年 舒明四年秋八月に大唐、高表仁を遣わし三田相を送らしむ。冬十月辛亥の朔甲寅(4日)に唐国の使人高表仁等、難波津に泊まれり(舒明四年紀)。5月16日、 <b>マホメット(Mahomet)</b> が死去する。62歳(イスラム教祖)。
AD	633	癸巳		5年	53歳		29歳	貞観7年 1月26日、唐の使節の <b>高表仁</b> らが帰国する。送り使いの吉士麻呂・黒麻呂等、対馬に到りて還る(舒明五年紀)。以後20年間、唐との交渉がとだえる。
AD	634	甲午		6年	54歳		30歳	貞観8年 1月1日、修験道の祖・役小角が大和国茅村で生まれる70)。
AD	635	乙未		7年	55歳		31歳	貞観9年 6月10日、百済が達率柔等を遣わし朝貢する。7月7日、百済の客を朝廷で贈う。
AD	636	丙申		8年	56歳		32歳	貞観10年 6月10日、 <b>岡本宮が焼ける(舒明天皇の宮)</b> 。天皇、田中宮(榎原市田中町か)に遷る。7月1日、大派王(舒明の皇子)が豊浦大臣(蘇我蝦夷)に謂りて曰く、「群卿及び百寮が朝参すること已に怠れり。今より卯(午前6時)に参りて巳の後に退席せむ。困りて鐘を以て報せよ」と云う。然るに大臣従わず(舒明8年紀)。
AD	637	丁酉		9年	57歳		33歳	貞観11年 九年、この年、蝦夷(蘇我蝦夷=蘇我善徳大王)、叛きて朝廷に出ず。大仁上毛野君形名を將軍として討たしむ。逆に蝦夷に討たれて逃げ岩に入る(舒明9年紀)。 <b>百済族と蘇我王朝の抗争か。</b>
AD	638	戊戌		10年	58歳		34歳	貞観12年 秋7月19日、大風吹いて木を折り屋を壊す。9月に霖雨降り桃李の花咲く69) <b>落葉で返り咲き</b> 。
AD	639	己亥	11年	59歳		35歳	貞観13年 秋7月に詔して曰く「今年、大宮及び大寺を造らしむ」と曰う。即ち百済川のほとりを宮處とす(舒明11年紀)。	
AD	640	庚子	12年	60歳		36歳	貞観14年 10月11日、遣唐使とともに唐に渡っていた学問僧の <b>南淵請安</b> 、学生 <b>高向玄理</b> らが唐より帰国する。十二年春二月七日、星、月に入れり。冬十月、舒明、百済宮に移る(舒明12年紀)。	
AD	641	辛丑	13年	61歳		37歳	貞観15年 百済の義慈王、高句麗と結び新羅を攻める(三国史記)。十月九日、天皇、百済宮に崩りましぬ。十八日に宮の北に殯す。是を百済の大殯という。この時、東宮開別皇子、年十六にして誅したまふ(舒明13年紀)。10月9日、舒明(舒明13年紀)。この年、百済で武王の太子の義慈が第31代の王位を継ぐ。三国史記百済本紀によれば「武王、?~641年、在位:600年~641年)は、百済第29代王・法王(扶餘宣)の子で、名前は扶餘璋」、書紀の舒明天皇の没(641)年と一致、 <b>舒明は百済の武王(ムワン)</b> だった21)。餘璋の餘は「じよ」とも読み、漢風諱号を付けたとされる淡海三船は、それをヒントに舒明としたか、 <b>小野妹子臣</b> 、没。墓誌「辛丑年一月六日 七十歳」。	
AD	642	壬寅	35 こうぎやく 皇極 かくう 架空	62歳		38歳	貞観16年 皇極女帝(天豐財重日足姫)は百済武王の妃・宝妃で日本には居なかつた(古代天皇家と日本正史)。1月15日、舒明天皇の后・宝皇女が即位する。是年、太歳 <b>壬寅</b> (第35代天皇、皇極天皇)。蘇我蝦夷を大臣とすることもとの如し。百済王の弟王子の兒・翹岐ら島流しにされる(皇極元年紀)。翹岐は百済武王の子(古代天皇家と日本正史)。2月2日、百済の使臣の憐人の言はく、「去年の十一月に大佐平・智積卒せぬ。又百済の使人、崑崙の使を海裏に擲れたり。今年の正月に國の主の母葬せぬ。又弟王子、兒 <b>翹岐</b> 及び其の母妹の女子四人、内佐平岐味、高き名有る人四十餘、嶋に放たれぬ」といふ。庚戌(24日)に <b>翹岐</b> を召して安曇山背連の家に安置らしむ。夏四月の丙戌の朔癸巳(8日)に、大使 <b>翹岐</b> 、其の従者を將て朝に拜す。乙未(10日)に、蘇我大臣、欽傍の家にして、百済の <b>翹岐</b> 等を喚ぶ。親ら對ひて語話す。仍りて良馬一匹・鐵二十錠を賜ふ(皇極紀)。 秋七月の甲寅の朔壬戌(十六日)に <b>客星、月に入れり</b> 。乙亥に百済の使人大佐平 <b>智積</b> 等に朝に饗たまふ。或本云はく、百済の使人大佐平 <b>智積</b> 及び兒達率(名を關せり)・恩率軍善といふ。乃ち健兒に命せて <b>翹岐</b> が前に相撲らしむ。 <b>智積</b> 等、宴畢りて退でて、 <b>翹岐</b> が門を拜す。是歳、蘇我大臣蝦夷、己が祖廟を葛城の高宮に立てて八佾の舞をす(皇極紀)。百済の大佐平・智積は <b>鎌足</b> として皇極紀に登場21)。	
AD	643	癸卯	2年	63歳		39歳	貞観17年 6月13日、太宰府が高句麗使の來着と高句麗のクーデターの報を伝える。11月1日、 <b>蘇我入鹿</b> が將軍を差し向け山背大兄王を襲撃させ <b>山背大兄は斑鳩寺で自決</b> する(皇極2年紀)。山背大兄王は書紀の創作で架空の人物。 <b>蘇我入鹿は蘇我善徳の偽名。</b>	
AD	644	甲辰	3年	64歳没		40歳	貞観18年 <b>翹岐は中大兄</b> に、 <b>智積は鎌子</b> に名を変え皇極3年紀に登場、神祇伯にめすも固辞。(智積が神祇伯など務まるはずなし)。12月5日、[唐の貞観18年12月4日]、中国からインドに渡っていた玄奘三蔵が長安に帰る。	

AD	645	乙巳	大化	飛	蘇我石川麻呂大王 そがいわかほろのう 蘇我石川麻呂大王	41歳	貞観 19年	6月12日、蘇我入鹿(蘇我善徳)が中大兄皇子、中臣鎌足らにより暗殺される(乙巳の変)。6月13日、蘇我蝦夷は入鹿が殺されたのを聞き国記や珍宝を焼いて自殺する。蘇我王朝は百濟族に乗っ取られ6月14日、軽王子が即位し大化元年(孝徳紀)とするが、実際はこの時、軽王子(孝徳)は即位できていない(新唐書)。孝徳元年紀には蘇我倉山石田石川麻呂を右大臣とするが実際は大王だった。この年、太歳乙巳。9月12日、中大兄が兵を率いて古人大兄を討つ(孝徳元年紀)。玄奘三蔵、インドから帰国。
AD	646	丙午	2年		2年	42歳	貞観 20年	正月、大化の改新の詔(孝徳2年紀)は、蘇我馬子大王時代から計画してきた改新事業を蘇我倉山石田石川麻呂が仕上げたものとみられる。この「改新の詔」には孝徳天皇は登場していない。この年、熊野国造が支配していた熊野国が廃止され紀伊国牟婁郡に編入される <sup>89)</sup> 。
AD	647	丁未	3年	鳥	3年	43歳	貞観 21年	1月15日、高麗、新羅が朝貢する。10月11日、天皇が有馬湯湯に行幸する(孝徳紀)。
AD	648	戊申	4年		4年	44歳	貞観 22年	2月1日、三韓に学問僧を派遣する(孝徳紀)。貞観二十二年(648年)、また新羅に付いて表を奉し以て日常の音信を通じた。日本国は倭国の別種なり。その国は日の出の場所に在るを以て故に日本と名づけた。あるいは曰く、倭国は自らその名の雅ならざるを憎み改めて日本と為した。あるいは日本は昔、小国だったが倭国の地を併せたという。その人が入朝したが多くは自惚れが大にして不実な対応だったので中国はこれを疑う。またその国の界は東西南北に各数千里、西界と南界いずれも大海に至り、東界と北界は大山があり、限界となし、山の外はすなわち毛人の国だという(旧唐書倭国伝)。
AD	649	己酉	5年	時	5年	45歳没	貞観 23年	3月25日、蘇我石川麻呂大臣(大王)、中大兄皇子に謀叛の罪をせられ一族とともに自害。殺される者14人・絞られる者9人・流される者15人(書紀)とあるがこれは中大兄皇子らが暗殺したとみられる。中大兄皇子らの殺害はこれで5人となる。蘇我石川麻呂の墓誌「蘇我石川麻呂磨己酉年三月二十五日 四十五歳」(在世:605~649年)。5月1日、三輪若色夫・掃部連角麻呂等を新羅使として派遣する(孝徳5年紀)とあるが新羅使でなく遣唐使とみられ、書紀はあえて次の年に派遣した遣唐使を1年繰り上げて新羅使と書いたもの。新羅史に記載はなく新唐書が証明(次年参照)。
AD	650	庚戌	白雉		36歳 孝徳	軽王命 かろみこ おほあまてんのう 大海人天皇	永徳 元年	軽皇子(孝徳)は皇極の同母弟、中大兄の舅なり。皇極が讓位(孝徳即位前紀)。唐・永徽の初め(650年)、唐に獻使、「其の王 孝徳即位し改元して白雉と曰う。虎魄(こはく)大きき斗斛の如く、礪磔(め)のう)五升器の若きを獻ず」(新唐書 卷二百二十 列傳第一百四十五・東夷・日本)とあり、書紀が書いている大化元年には孝徳は即位していない。孝徳天皇は百濟の義慈王 <sup>21)</sup> 。この年はじめて軽王子が即位したことになる。2月9日、白雉と改める(白雉元年紀)。孝徳天皇(軽王命)と大海人天皇の二朝並立となったか。
AD	651	辛亥	2年	代	2年	56歳	2年	白雉2年12月、天皇、大郡より遷り新宮に居す。名付けて難波長柄堂崎宮と曰ふ(孝徳紀)。 [唐の永徳2年閏9月11日]、唐で永徳律令格式が制定される。
AD	652	壬子	3年		3年	57歳	3年	3年9月に宮(難波長柄堂崎宮)造ること既に終わる(孝徳紀)。
AD	653	癸丑	4年		4年	58歳	4年	5月12日、吉士長丹(きしのなが)が遣唐大使として13人他、121人を大唐に遣わす。又の大使高田首根麻呂等126人、一船に乗る(第2回遣唐使)。秋7月、遣唐使高田根麻呂等、薩摩の曲・竹島の間に船合して5人を残して没す。この年、皇太子(中大兄)、「倭に都を遷らむ」と申すが天皇は許さず。中大兄は皇極上皇・間人后・皇弟等を率いて倭飛鳥河邊の仮宮に移る。時に、公卿大夫・百官の人等が皆従いて遷る。天皇(孝徳)、怨んで国位を捨てて宮を山崎に造らせる(孝徳4年紀)。百濟義慈王、倭国と好を通ず(百濟本紀義慈王十三(653)年八月条)。
AD	654	甲寅	5年		5年	59歳没	5年	5年2月、押使高向玄理・大使河邊臣麻呂・副使薬師惠日等、二船に分かれて乗らす・数月。遂に京に到り天子に拝見する。是に東宮監門郭文舉、日本国の地理及び国の初めの神の名を問う。皆問いに答える。押使高向玄理が大唐にて卒す。7月24日、前年の遣唐使吉士長丹等が百濟・新羅の使使とともに筑紫に着く。10月1日、天皇が病と聞き中大兄が皇祖母(皇極女帝)・間人后・皇弟・公卿等を率いて難波宮に赴く。5年10月10日、天皇、正殿にて没す(孝徳天皇5年紀)。59歳(第36代天皇)。孝徳天皇 墓誌「軽王命 甲寅年十月十日 五十九歳」(太子町上ノ山古墳周辺、難波豊崎宮跡)。高市皇子(天武天皇長子)誕生(墓誌から推算)。
AD	655	乙卯			37歳 斉明	宝姫王	6年	1月3日、宝姫王が板蓋宮で即位(第37代天皇、斉明天皇)。蘇我入鹿の崇りや怨霊は斉明女帝のときに度々現れた。斉明天皇が即位した直後、元(655年)、「夏五月の庚午の朔に空中に龍に乗れる者有り。貌(かたち)唐人に似たり。青き油の笠を着て葛城嶺より馳せて膽駒山に隠れぬ。午の時に及至りて住吉の松嶺の上より西に向ひて馳せ去ぬ」(斉明元年紀)。 [唐の永徳6年10月13日]、武昭儀が王皇后と蕭淑妃に毒殺の疑いをかけて廃し、代わって皇后となり武后と呼ばれる(則天武后)(唐書)。冬10月13日、小墾田に宮を造り瓦葺きにせむとす。又、深山廣谷に宮を造らむとするも材が朽ち爛れたもの多し。遂に止めて造らず。この冬に飛鳥板蓋宮が燃え、飛鳥川原宮に遷る。是年、太歳乙卯(斉明天皇元年紀)。
AD	656	丙辰			2年	63歳	7年	この年、飛鳥の岡本に宮地を定める。高麗・百濟・新羅の使者の為に紺幕を張って賄う。遂に大宮を建てた。名付けて後飛鳥岡本宮と曰ふ。田身嶺(多武峰)に垣根を作る。嶺の上に樓觀を建て、名付けて両槻宮とす。又、吉野宮を作る。岡本宮が火災(斉明天皇元年紀)。燃やされたか。
AD	657	丁巳		飛	3年	64歳	8年	九月、有間皇子(孝徳天皇皇子18歳)が紀伊国牟婁の湯(白浜温泉)に入る(斉明三年紀)。
AD	658	戊午			4年	65歳	9年	有間皇子(19歳)が、斉明女帝と中大兄が牟婁の湯へ行幸中に蘇我赤兄に唆され京で反乱を企てたとして捕らえられ牟婁の湯へ送られる。往途、有間皇子の詩「磐石の浜松が枝を引き結び、まさきくあらばまたかえり見む」(万葉集卷二)。有間皇子は帰途、11月10日、紀伊国名草郡藤白坂で処刑される(斉明天皇4年紀)。(孝徳天皇の遺児で有力な皇位継承候補だった)。ここで蘇我赤兄を悪者としているが藤原不比等の勸善懲惡である <sup>135)</sup> 。大来皇女/天武天皇の皇女誕生(墓誌から推算)。
AD	659	己未		鳥	5年	66歳	10年	藤原不比等、誕生(中大兄と鏡女王の子)。不比等は天智(翫岐)の落胤。鎌足は不比等を妊んだ鏡女王を中大兄から譲り受けた。母・鏡女王は天智に召され、のち鎌足の正妻となる(興福寺縁起)。不比等伝に、「公避くる所の事有り(出生の公開に憚られるところが有り)」(尊卑分脈:南北朝時代に書かれた系譜)。従って不比等は中大兄の子とみられる。坂台部石布止・津守吉祥らを唐に派遣(斉明天皇5年紀)。
AD	660	庚申			6年	67歳	11年	唐の高祖、不豫(病氣)で則天武后が実権を掌握(唐書)。百濟が唐・新羅の連合軍に滅ぼされて滅亡。天武天皇皇子忍壁親王、誕生(高松塚古墳墓誌から推算)。660年、黒齒常之・福信・道琛が百濟復興軍を起す。
AD	661	辛酉		時	7年	68歳没	12年	斉明天皇「七(661)年五月、天皇、朝倉橘廣庭宮(福岡朝倉町須川)に遷りて居す。是の時に朝倉社の木を斬り除いて此の宮を作る故に、神怒りて殿を壊つ。宮の中に鬼火見(あらはれぬ。…大舎人及び諸の近侍、病みて死れる者衆(おほ)し)。「七年秋七月、甲午の朔丁巳(24日)に天皇(斉明)、崩りましぬ。…皇太子(中大兄)、天皇の喪を奉て(みまつ)りて…是の夕に朝倉山の上に、鬼有りて大笠を着て喪の儀を臨み視る。衆皆嗟怪(ひとひとみなあやし)ぶ」。斉明の子と云う大海人皇子は、この場に姿をみせていない。中大兄皇子が政治をとる(稱制)(斉明天皇7年紀)とあるが日本書紀の造作。斉明天皇の墓誌「宝王天皇棺 辛酉年七月二十四日 六十八」(権原考古学研究所展示の陶棺)。
AD	662	壬戌			1年	翫岐(中大兄)	13年	8月、翫岐(中大兄皇子)、百濟の將軍・鬼室福信に兵器・衣料・食糧を送る。662年、百濟王子豊が倭国から帰国、百濟王として即位。翫岐(中大兄皇子)はこれまでに蘇我入鹿・蘇我蝦夷・古人大兄皇子・蘇我石川麻呂・有馬皇子の5人を殺す <sup>69)</sup> 。





AD	679	己卯	8年	8年	58歳		21歳		5月5日、吉野宮にいでます。6日に、天皇、皇后、及び草壁皇子・大津皇子・高市皇子・河嶋皇子・忍壁皇子・芝基皇子に、謀反なきことを誓約させる。8月1日、諸氏から <b>女人を献上</b> させる。この年、紀伊国伊刀郡(伊都郡)から芝草を貢ぐ。その状、菌に似たり。茎の長さ一尺、云々(天武9年紀)。(芝草:きのこの一種で瑞相をあらわすとされた草。万年茸。幸茸とも云う)(天武天皇8年紀)。天武天皇の戦勝を祝つての献上であろう。	
AD	680	庚辰	9年	9年	59歳		22歳		11月12日、天武天皇は皇后の病氣回復を祈願して <b>薬師寺</b> 建立の願をたてる。	
AD	681	辛巳	10年	10年	60歳	藤原房前			2月25日、親王・諸王、及び諸臣を召して「朕、今より更律令を定め、法式を改めむと欲ふ」( <b>飛鳥浄御原律令の策定</b> )。天武天皇が皇位継承の争いを防ぐため皇子たちに誓い(679年の吉野の誓い)をさせた結果、2月25日、 <b>草壁皇子を皇太子とす</b> 。3月13日、境部石積らに「新字(にいな)」1部44巻を作らせる。3月17日、川島皇子らに <b>帝記及び上古の諸事を記させる</b> 。中臣大嶋・平群臣子首、自ら筆をとり記す(天武10年紀)。古事記の編纂か。十年十一月丙申の朔甲酉(2日)に <b>地震</b> る。 <b>藤原房前</b> 誕生(不比等/次男)。	
AD	682	壬午	11年	11年	61歳	2歳	24歳		3月2日、僧上・僧都・律師を任命し僧尼を統率させる。紀大人、御史太夫正三位を贈られる。7月27日、信濃国・吉備国が申さく。「霜降り、亦大風ふき、五穀稔らず」と曰す(天武11年紀)。 [唐の弘道1年12月4日]、高宗(Gao-zong)が貞観殿で没。56歳(唐の第3代皇帝)。	
AD	683	癸未	12年	12年	62歳	3歳	25歳		2月1日、 <b>大津皇子、初めて朝政を聴く</b> (即位したのではないかとみる説137)。冬10月、紀酒人直が連の姓を賜る(天武天皇12年紀)。	
AD	684	甲申	13年	13年	63歳	4歳	26歳	唐嗣聖元年	[唐の嗣聖元(684)年2月6日]、皇太后が百官を乾元殿に集め皇帝中宗の廃位を宣言する。紀大人没、白鳳甲申十三(684)年六月二日、64歳。冬十月の朔、「諸氏の族姓を改め、 <b>八色の姓</b> を作り云々。真人・朝臣・宿禰・忌寸・道師・臣・連・稻置」とす。十月壬辰(14日)に人定に至りて大に地震る。十一月庚戌(3日)に土佐国司、言さく。「大潮高くあがりて海水飄蕩ふ。是により調運ふ船、多に放れ失せぬ」と曰す。(天武天皇11年紀)。(684年11月29日、 <b>白鳳南海地震</b> - M 8.0~8.3、死者多数。土佐で津波により大きな被害。田園(約12km <sup>2</sup> )が海面下へ沈下。地質調査によればほぼ同時期に東南海・東海地震も発生。 [唐の弘道元(684)年12月11日]、皇太子・李顕が皇帝の位につく(後の中宗)。	
AD	685	乙酉	14年	14年	64歳	5歳	27歳	2年	11月1日、大三轮君ら52氏に <b>朝臣姓</b> を与える。 <b>紀臣は紀朝臣</b> に改姓。	
AD	686	丙戌	朱鳥	15年	65歳没	6歳	28歳	3年	春正月十四日酉の時(午後6時頃)、難波の大蔵省に失火して宮室が悉くに焼ける。5月24日、天皇、初めて発熱。6月10日、天武の病を占うに草薙の剣に祟れり、即日尾張国の熱田社に送り置く。7月5日、幣を紀伊国の国懸神(国懸大神は須佐之男尊)・飛鳥の四社(現在の祭神は事代主神、高皇産靈神、飛鳥神奈備三日月女神(賀夜奈流美乃御魂)、大物主神の四座)・住吉大神に奉る。6月20日、 <b>紀酒人連</b> が忌寸の姓を与えられる(忌寸:八色姓(やくさのかばね)の第四位)。7月20日、「 <b>朱鳥</b> 」と元号をたて皇居(嶋宮)を飛鳥浄御原宮と名付ける。8月9日、天武天皇の病の為、神祇に祈る。9月9日、天武薨御。殯で第一に大海宿禰浦が壬生のことを、直廣肆・ <b>紀朝臣真人</b> 、膳職のことを、 <b>直廣肆・紀朝臣弓張</b> 、民官の事を誅る。天武天皇墓誌「大海天皇墓 丙戌年九月九日六十五歳」(江戸城石垣) 皇后が即位せず強引に政務を執る。9月24日、 <b>天武天皇の喪</b> が始る。10月2日、大津皇子に謀反の罪を着せて捕えられ、10月3日、 <b>大津皇子が自害</b> する。大津皇子墓誌「丙戌年十月三日 二十四歳」。12月2日、 <b>宿禰姓</b> を大伴連ら50氏に与える(天武天皇14年紀)。後の嶋野讃良は自身の生んだ子/草壁皇子に皇位を継がせようと策謀して大津皇子を排斥した。	
AD	687	丁亥	2年	嶋野讃良	43歳	7歳	29歳	4年	即位の儀も経ずに政務を執った天武天皇の後嶋野讃良は、中大兄の娘で藤原不比等とは腹違いの姉弟か(興福寺縁起・尊卑分脈)。母は遠智娘(蘇我倉山石石川麻呂の娘)。11月16日、伊勢神祠に奉れる大来皇女(天武娘30歳)、都に還る。 <b>是年、太歳丁亥</b> (持統称制元年紀)。この時、伊勢神祠は在ったか疑わしい。	
AD	688	戊子		代	2年	44歳	8歳	30歳	5年	紀清人、誕生。紀諸人、誕生(紀麻呂=道成の子)。(清人・諸人は双子か)。
AD	689	己丑			3年	45歳	9歳	31歳	6年	4月13日、 <b>草壁皇子、病没</b> 。28歳(天武天皇皇子)。墓誌「己丑年四月十三日 二十八歳」。浄御原律令が天武天皇十(681)年二月に飛鳥浄御原宮において策定が開始され、持統天皇三(698)年六月に令二十二巻が完成し施行16)。
AD	690	庚寅		41 持統	46歳即位	10歳	32歳	周天授元年	[周の天授元(690)年9月9日]、皇后武氏(則天武后)が自分の子・睿宗を廃し自ら帝位に即いて国号を唐から <b>周</b> に改め皇帝「則天武后」即位。「四年の春正月の戊寅の朔に <b>嶋野讃良皇女、即天皇位</b> す(持統女帝)。持統天皇の宮は藤原不比等の私邸に置かれた(扶桑略記)。持統女帝四年庚寅、太神宮御遷宮(大神宮諸雜事記:9世紀著)。7月5日、高市皇子を太政大臣とす。9月1日、紀伊を巡り行さむとす。故、今年の田租・口賦、収むること勿と曰う。13日に天皇、紀伊国に幸ず。24日に紀伊より帰ります。11月11日、初めて元嘉曆と儀鳳曆を行う(持統天皇4年紀)。	
AD	691	辛卯			5年	47歳	11歳	33歳	周天授2年	4月1日、 <b>奴婢の制</b> が定められる。持統女帝、初めて大嘗祭。8月13日、「 <b>十八の氏、其の祖等の墓記を上進らしむ</b> 」(持統5年紀)。史実を改竄・偽作した日本書紀の編纂途中で、日本書紀に都合よく整合させるため古代から由緒ある神社の古文書や豪族等、以下の系図を没収した。○石上神宮(現在の天理市布留町)の古文書(須佐之男尊、大歳(饒速日)尊一族、その末裔と記する物部氏=出雲系)○饒速日大王の陵墓(奥津磐座)で三輪山(桜井市三輪)を御神体として祀る大神神社(斎主・三輪氏)の古文書。○以下、豪族十六氏の系図(春日氏・大伴氏・佐伯氏・雀部氏・阿部氏・膳部氏・穂積氏、采女氏・羽田氏・巨勢氏・石川氏(蘇我氏)・平群氏・木(紀)角氏・阿積氏・藤原氏・上毛野氏の系図)。(系譜を改竄、原本を抹殺、 <b>須佐之男尊や大歳尊の大和建国の偉業、蘇我大王家の業績(石川氏)を抹殺</b> したとみられる。古代から朝廷を支えてきた豪族らの独走を抑え、藤原不比等の出自を造作する為か)。10月8日、皇室の墓守である <b>陵戸</b> (みささぎのべ)の制を定める。
AD	692	壬辰			6年	48歳	12歳	34歳	周天授3年	2月19日、 <b>三輪朝臣高市麻呂</b> が天皇の <b>伊勢行幸</b> を諫める。3月3日、再び <b>冠位</b> を脱ぎ捨て重ねて諫めるが天皇、強引に伊勢に行幸(持統天皇6年紀)。持統天皇は伊勢に <b>新たに皇祖神として天照大神(向津姫=大日靈貴)を祀り</b> 、その行幸をしようとしたとき、大和朝廷の皇祖饒速日尊の末裔・「中納言三輪朝臣高市麻呂は、冠位を脱ぎ捨ててまで阻止しようとした。しかし天皇は聞き入れず遂に伊勢に幸す。5月13日、伊勢大神(神官の神託)、天皇に奏す「伊勢国の今年の朝役は免除されたが二つの神郡より輸すべき赤引絲參拾五斤は来年に其の代を折ぐべし」と曰う。5月26日、使者を遣わし伊勢(神宮)・大倭(大和神社)・住吉(住吉大社)・紀伊(日前国懸神宮)の大神に幣を奉る。新宮(藤原宮)のことを祈願(持統天皇6年紀)。 <b>この年、やっと伊勢神宮が創始できたか。饒速日尊の後裔/津守氏が創建した住吉神社の縁起や祭神名もこの頃に改変させたか。</b>
AD	693	癸巳			7年	49歳	13歳	35歳	周天授4年	直廣肆 <b>紀朝臣弓張</b> 、持統天皇が伊勢行幸のとき留守官。6月4日、 <b>紀朝臣麻呂</b> ら7人に直廣肆を授く(持統天皇7年紀)。この頃の、「くらもちの皇子(藤原不比等:母は車持氏)の卑法残酷を呪っている「竹取物語」が平安時代初期に書かれる(作者不詳)。
AD	694	甲午		飛	8年	50歳	14歳	36歳	周天授5年	12月6日、持統天皇が <b>藤原原宮</b> (奈良県橿原市)に <b>遷都</b> する(持統紀8年)。
AD	695	乙未			9年	51歳	15歳	37歳	周天授6年	
AD	696	丙申		鳥	10年	8月讓位	16歳	38歳	周天授7年	7月10日、 <b>高市皇子没</b> 。42歳。天武天皇の長男/高市皇子の突然死は毒殺との説もある。八月の乙丑の朔に天皇、皇太子に <b>禪天皇位</b> りたまふ。直廣貳・藤原朝臣不比等。(不比等は持統女帝とともに古代史の改竄・偽作に奔走した頃である)。

AD	697	丁酉		42 ぶんぶ 文斌	天之真宗豊祖父	39歳	周 天授8 年	天武天皇の草壁皇子と元明天皇(天智の娘)の子、文武天皇は15歳で即位。8月20日、藤原朝臣宮子を夫人、 <b>紀朝臣竊門</b> 娘・石川朝臣刀子娘を妃とす(統紀文武元年紀)。	
AD	698	戊戌		2年	16歳	18歳	40歳	周 天授9 年	8月19日、詔して曰く「藤原朝臣の姓は、その子不比等をして承けむべし。意美麻呂らは神事に仕えるによって旧の姓(中臣姓)に復すべし」。(藤原不比等の父鎌足(本名・智積)は古代豪族の中臣氏に系譜を寄生させていた)。9月10日、当皇皇女を遣わして伊勢斎宮に侍らす。10月4日、 <b>薬師寺が完成</b> する(統紀文武2年紀)。この年、[周の聖曆元(698年)、高句麗の遺民とみられる大祚栄が中国東北部に <b>震国</b> を建国する(後の渤海国)。
AD	699	己亥		3年	17歳	19歳	41歳	周 天授10 年	5月24日、 <b>役君小角</b> 、伊豆嶋に流さる。役君小角は饒速日尊の後裔/加茂氏一族である。冬10月12日、越智(齊明陵)・山科(天智陵)の二つの山陵を造営する為、天下の罪人を赦す。但し十悪・強盗(強盗と窃盗)は赦の限りに在らず70)。
AD	700	庚子		4年	18歳	20歳	42歳	周 天授11 年	6月17日、刑部(忍壁)親王、藤原不比等らに律令を選定させる( <b>大宝律令</b> )。8月15日、直大弐石上朝臣麻呂を筑紫総領とす(左遷)70)。
AD	701	辛丑	大宝	5年	19歳	21歳	43歳		大宝元年正月二十三日、守民部尚書直大弐粟田朝臣真人を以て遣唐執節使となす(統紀)。2月16日、泉内親王を伊勢斎宮に侍らす。3月21日、対馬が金を献上したので「 <b>大寶</b> 」と <b>建元</b> する(續紀・文武5年)。正三位大納言・ <b>紀朝臣麻呂</b> 、文武天皇の勅願により法相宗・義淵を開山とし紀伊国日高郡に <b>道成寺</b> を創建する(金剛峯寺文書七)。正月15日、大納言正広参大伴宿禰麩。直広杏藤原不比等ら遣わし正広武右大臣を贈る。 <b>九鬼文書</b> の奥書に「大宝元年八月三日。直寫不比等(花押)」とある(三浦一郎:九鬼文書の研究)。九鬼文書も藤原不比等に改竄されたか。9月18日、天皇(文武)、太上(持統)天皇、 <b>紀伊国に行幸</b> 。(紀国造家に出かけ、日前国懸神宮の祭神の改名や縁起の改変を強要し官幣大社とする約束か)、10月8日、武漏(牟婁)の温泉に至る(統紀文武大宝元年紀)。 <b>役君小角</b> が没。 <b>68歳</b> 。12月27日、天武天皇の皇女/大来皇女、没。墓誌「大来皇女墓 辛丑年十二月廿七日薨 御年四十四歳」生存年658~701年(飛鳥・真弓鏡子塚古墳石室)。 <b>大宝律令</b> が制定・施行される70)。
AD	702	壬寅	2年	6年	20歳	22歳	44歳	唐	2年正月10日、初めて <b>紀伊国賀施(加太)驛家を置く</b> 。3月8日、日本初の <b>度量衡</b> が実施される。12月、持統太上不豫、12月22日、崩御。 <b>黄文連本實</b> を殯作宮司とす(統紀大宝2年紀)。大和朝廷の皇祖饒速日尊の陵墓(大神神社)を祀っていた大神(大三輪)朝臣高市麻呂は2月17日、左遷されて長門守に下ったが四年後に没した。また、同年8月16日、須佐之男尊一族を祀る石上神宮の斎主・石上朝臣麻呂も太宰府に左遷される。2月22日、名草郡山東の伊太祁曾三神が分遷、五十猛命が独立して山東に鎮座、大津津比賣命は名草郡北野(のち宇田森)へ遷座、都萬津比賣命は名草郡吉礼、及び祢宜に鎮座する(書紀・統紀・紀伊續風土記)。持統天皇没、58歳。諡号は高天原廣野姫天皇( <b>高天原神話の創作者</b> )。702年(大宝2年)、「日本国」からの遣使(遣唐使)があったと記されている(8世紀前半の唐で成立した『唐曆』)。
AD	703	癸卯	3年	7年	21歳	23歳	45歳	長安 3年	1月、小野朝臣馬養が南海道使として派遣される89)。5月9日、紀伊国 <b>奈我(那賀)</b> ・名草2群に布の調を止めて糸を献上させ、 <b>阿氏(在田)</b> ・ <b>飯高(日高)</b> ・牟婁の三郡は銀を献上しむ。11月7日、大納言従二位・石上朝臣麻呂を右大臣に任ず(統紀大宝3年紀70)。唐の長安三(703)年、大臣の朝臣真人来たりて方物を貢す。朝臣真人は猶中国の戸部尚書の如く、冠は徳冠に進み、その頂は花をなし…真人は経史を読むを好み文を綴るを解し容止は温雅なり云々(旧唐書60)。
AD	704	甲辰	慶雲	8年	22歳	24歳	46歳		慶雲元年(704年)1月7日に、大納言従二位 <b>石上朝臣麻呂</b> は <b>右大臣</b> に任命される。5月10日、慶雲の出現にちなんで「 <b>慶雲</b> 」と改元する。
AD	705	乙巳	2年	9年	23歳	25歳	47歳		5月7日、忍壁親王(天武皇子)没(AD660~705 46歳)(墓碑:飛鳥高松塚古墳石室。古墳の女子群像の裾に壁画の絵師の署名に「乙巳年五月七日 黄書連本實」)。7月19日、大納言正三位 <b>紀朝臣麻呂</b> 没、慶雲乙巳二(705)年七月十九日(紀氏系図・統紀)。9月13日、正五位上 <b>紀朝臣古麻呂</b> を騎兵大將軍と為す70)。
AD	706	丙午	3年	10年	24歳	26歳	48歳		2月6日、左京大夫従四位上 <b>大神朝臣高市麻呂</b> 卒。2月25日、従六位上 <b>紀朝臣諸人</b> 他、従五位下を授く70)。
AD	707	丁未	4年	11年	25歳没	27歳	49歳		2月25日、従六位上紀朝臣諸人他に従五位下を授。6月15日、文武天皇没(25歳)。墓誌「珂瑠天皇 丁未年6月15日25(明日香村中尾山古墳陵前)。16日、 <b>黄文連本實</b> 等を殯宮の事に仕え奉らしむ。10月3日、従五位下 <b>紀朝臣男人</b> を御竈造司とす。7月17日、天智天皇の第4皇女阿部内親王が藤原宮大極殿で即位(第43代天皇、元明天皇)70)。
AD	708	戊申	和銅	43 元明	天津御代豊国成姫	50歳			1月11日、日本初の自然銅を武蔵の国秩父郡が献上、元明天皇はこれを喜び元号を「 <b>慶雲</b> 」から「 <b>和銅</b> 」に改元する。(貨幣の鑄造の布石。そのもとは遷都の費用の捻出)。元明天皇は百濟王子の兄・翹岐(天智)の娘21)。元明天皇が即位した和銅元(708)年正月、天下に大赦を出した。「ただし、山沢に亡命して禁書を隠し持っている者は、百日以内に自首せよ。さもなければ恩赦しない」(統紀・和銅元年)という詔勅を出している。念には念を入れて大和朝廷の古代王族や豪族の <b>系譜を抹殺</b> しようと図ったのであろう。6月25日、但馬内親王/天武皇女 没、46歳(662~708年)(墓碑:キトラ古墳石室:「戊申年六月二十五日 年四十七」)。8月10日、銅銭の <b>和同開珎</b> の使用を開始する。
AD	709	己酉	2年	3年	49歳	29歳	51歳		和銅二(709)年に京都府亀岡市に <b>出雲大神宮</b> を建てる128)。
AD	710	庚戌	3年	4年	50歳	30歳	52歳		3月10日、元明天皇が都を平城京に移す89)( <b>平城遷都</b> )。
AD	711	辛亥	4年	5年	51歳	31歳	53歳		1月2日、平城京への遷都にともなって <b>山城、河内、摂津、伊賀</b> の4国に <b>7駅</b> を置く70)。
AD	712	壬子	5年	6年	52歳	32歳	54歳	唐 玄宗皇 帝	太安麻呂、 <b>古事記</b> を撰上。序文に、「天皇(天武)は、正しい帝紀を撰録し旧辞を検討して偽りを削除し…後世に伝えよう」と仰せられた。その頃、氏は稗田、名は阿礼、年は二十八なる舎人が居て…天皇は阿礼に仰せられて帝紀と日嗣と先代の旧辞を読み習わせた云々」(古事記序文)とあるが、 <b>稗田阿礼</b> とは <b>藤原不比等の偽名</b> とみられている。[帝紀を撰録し旧辞を検討して偽りを削除し云々]は記紀のことで、天武天皇の名前を騙った不比等の作文とみられる。
AD	713	癸丑	6年	7年	53歳	33歳	55歳		4月3日、初めて <b>丹後、美作、大隅</b> の3国が置かれる。5月2日、元明天皇が <b>大宝律令</b> の支配を確認するために諸国に「 <b>風土記</b> 」の編纂を命じる。10月、紀伊国在田郡保田郷千田の須佐神社は大和国吉野郷西川峰から素戔嗚尊を勧請して創祀する89)。
AD	714	甲寅	7年	8年	54歳	34歳	56歳		<b>紀朝臣清人</b> 、三宅臣藤麻呂と共に国史撰修を命じられ書紀編纂に従事(統紀)。
AD	715	乙卯	靈龜	9年	55歳	35歳	57歳		9月2日、「 <b>靈龜</b> 」に改元する。9月2日、水高内親王が母の元明天皇より讓位され平城宮に即位する(第44代・元正天皇)。諸国の朝集使(国司が太政官へ派遣した使者)に勅して云う。天下の百姓、多くは本實を離れて他郷に流浪し課役を逃れる70)。
AD	716	丙辰	2年	44 元正	高瑞淨足姫	36歳	58歳		元正天皇は元明天皇の娘。 <b>出雲大社の創建</b> は靈龜二(716)年だった(先に創建された出雲大神宮(京都府亀岡市)から勧請されたとする説あり)。古事記(712年)と日本書紀(720年)の成立の中間に創建されたことになる。大國主こと、大己貴が亡くなってから800年以上も経った後のことである。しかも、当初は須佐之男尊も祭神だったが、いつの間にか須佐之男尊は祭神から消えている43)。古事記・日本書紀の神話に合わせて出雲の杵築大社を建造させたのは明白。

AD	717	丁巳	養老	代	3年	38歳	37歳	59歳		聖武3(717)年4月22日、 <b>左大臣石上麻呂</b> が死去。11月17日、「 <b>養老</b> 」に改元する。率土の百姓が四方に流浪し課役を逃れ遂には王家に仕え、あるいは資人(有力者の雑用人)を望み、或いは得度を求める70)。
AD	718	戊午	2年		4年	39歳	38歳	60歳		5月2日、 <b>能登・安房・石城(いわき)・石背(いわせ)</b> の4国を建てる70)。
AD	719	己未	3年		5年	40歳	39歳	61歳		
AD	720	庚申	4年		6年	41歳	40歳	62歳		5月21日、舎人親王、 <b>日本紀30巻・系図1巻</b> を完成。8月3日、 <b>藤原不比等</b> 、没62歳(統紀・養老4年紀)。編纂された日本紀は、舎人親王の没後に大幅に改竄・歪曲され、饒速日尊(大歳尊)は古代の皇祖天照御魂神だったことが歴史から消され忘れ去られた。
AD	721	辛酉	5年		7年	42歳	41歳			<b>紀諸人</b> 、没(34歳 養老五年八月三日)。紀清人が首皇子(後の聖武天皇)の侍講となる。橘佐為王、紀男人、山上憶良らと共に皇太子に学芸を教授。6月26日、信濃に <b>諏訪国</b> をたてる。12月7日、元明天皇、崩。61歳。第43代天皇。
AD	722	壬戌	6年	奈	8年	43歳	42歳	淡海三船		淡海三船、誕生(弘文天皇の曾孫)。
AD	723	癸亥	7年		9年	44歳	43歳	2歳		養老七年秋七月庚午(七日)民部卿從四位下 <b>太朝臣安麻呂</b> 卒70)。後に発見された墓碑には「左京四条坊從四位下勲五等太朝臣安萬侶以癸亥年七月六日卒之 養老七年十二月十五日乙巳」(昭和54年1月24日付毎日新聞報道)とある。
AD	724	甲子	神龜	良	45聖武	首皇子	44歳	3歳		2月4日、元正女帝は皇太子(首皇子=聖武天皇)に譲位。2月4日「 <b>神龜</b> 」に改元する。10月7日、天皇(聖武)、 <b>紀伊国那賀郡玉垣(粉河)</b> 、8日、 <b>海部郡玉津島(和歌浦)</b> に行幸。10月16日、 <b>紀直麻祖</b> が <b>紀国造</b> に任じられる70)。紀直麻祖が名草郡司に任命される89)。
AD	725	乙丑	2年		2年	25歳	45歳	4歳		<b>中家の先祖</b> は筑紫国の住人/菅原朝臣中尉送須。 <b>神龜二(725)年</b> 、 <b>吉仲社大明神</b> (大歳神社の旧社八万堂)に因縁あって來住。その後紀州那賀郡吉仲社調月郷に住む122)。 <b>【始祖】</b> 菅原朝臣古人。 <b>【世系】</b> 菅原姓は <b>天穗日命の後胤・野見宿禰</b> に出づ。野見宿禰の子孫、土師連姓を賜ひ、のち土師宿禰となる。土師宇庭の子/古人が菅原朝臣姓を賜りその曾孫が菅丞相:菅原道真なり16)。この年、 <b>宇佐神宮の八幡神が小倉山(菱形山)に鎮座した</b> 128)。宇佐神宮の前身/宇佐神社は欽明天皇32(571)年、大神神社齋主/三輪君身狭命の次男/大神比義命が創建した(扶桑略記・東大寺要録・宮寺祿事抄)とあるから当初は <b>須佐之男尊・饒速日尊・伊須氣余理比賣命(神武后)</b> が祀られた筈。今は <b>比咩大神</b> を中央に <b>応神天皇・神功皇后</b> が合祀され、須佐之男尊・饒速日尊が消されている。
AD	726	丙寅	3年	時	3年	26歳	46歳	5歳		神龜三年正月、聖武天皇が吉野より八万堂(旧大歳神社)に祈願あり(調月村郷土誌)。神龜三(726)年、菅原朝臣中将送須の後裔(中氏)は調月に居住。正月、聖武天皇が調月の山堂社(八万堂)へ参拝、祈願あり122)。11月10日、中務省丞從六位上佐味朝臣虫麻呂、典鑄(大歳省典鑄司の長官)正六位上播磨直弟兄に從五位下を授く。弟兄は <b>初めて柑子(柑子)</b> をもちて唐国より来れり。 <b>虫麻呂、先ずその種を殖えて子(實)を結べり</b> 。故にこの綬あり70)。柑子導入の初見か。
AD	727	丁卯	4年		4年	27歳	47歳	6歳		
AD	728	戊辰	5年	代	5年	28歳	48歳	7歳		
AD	729	己巳	天平		6年	29歳	49歳	8歳		2月8日、聖武天皇は奈良左京の元興寺で法会を行い、太政大臣正二位・ <b>長屋親王</b> に、僧たちに食事を配り与える役割を命じた。一人の僧が炊事場に入ってお椀を捧げ持ってご飯をもらった。親王はこれを見て家牙の笏で僧の頭を打った。 <b>頭は破れ血が流れた(中略)</b> 。それから二日後、親王を嫉みそねむ人が居て、天皇に「長屋親王は国家を倒そうと皇位を奪おうとしている」と悪口を告げた。天皇は立腹なさって軍隊を親王の所に差し向けて対戦が起こった。親王は勝ち目がないと悟り、子供たちに毒薬を飲ませて絞め殺し、 <b>自分も毒薬を飲んで自害</b> された(靈異記・中巻)。2月10日、左大臣・正二位・長屋王がよこしまな道を学んでいるとの密告あり、聖武天皇は奈良の都と東国を結ぶ3つの関所を封鎖させる。11日、舎人親王、多治比池守、藤原武智麻呂が長屋王糾問のため長屋王邸に入る。12日、 <b>長屋王と妻の吉備内親王</b> が謀反の疑いをかけられ <b>自害</b> する。長屋王46歳。神龜6年3月27日、正八位上 <b>紀直豊島</b> を <b>紀伊国造</b> とする。8月5日、「 <b>天平</b> 」と改元する。8月10日、藤原不比等の3女・光明子が臣下から初めて皇后(光明皇后)となる70)。
AD	730	庚午	2年		7年	30歳	50歳	9歳		3月29日、奈良 <b>薬師寺東塔</b> が建立される。
AD	731	辛未	3年		8年	31歳	51歳	10歳		5月14日、外從五位下 <b>紀朝臣多麿</b> を上総守に任ず70)。11月、大伴宿禰道定が南海道鎮撫使となる89)。
AD	732	壬申	4年		9年	32歳	52歳	11歳		10月17日、從五位上 <b>紀朝臣清人</b> を右京亮に任ず70)。
AD	733	癸酉	5年	奈	10年	33歳	53歳	12歳		2月29日、「 <b>出雲風土記</b> 」が完成、朝廷に奉る。3月14日、 <b>紀朝臣飯麿</b> 、從五位上70)。1月11日、藤原不比等の後妻/橋三千代没(78歳)
AD	734	甲戌	6年		11年	34歳	54歳	13歳		4月7日、畿内・七道諸国に地震。民家倒壊し死者多数。「 <b>日本</b> 」国号が <b>記された最古の実物史料</b> は、唐の開元22年(734年、日本の天平6年)銘の井真成墓誌がある。 <b>【意訳】</b> 「姓は井、字(あざな)は真成。国は日本と号す。生まれつき優秀で、国命で遠くにやってきて一生懸命努力した。学問を修め、正式な官儀として朝廷に仕え、活躍ぶりは抜きんでていた。ところが思わぬことに、急に病気になる、開元22年(734年)の1月に官舎で亡くなった。36歳だった。皇帝は大変残念に思い特別な扱いで埋葬することにした。体はこの地に埋葬されたが、魂は故郷に帰るにちがいない」(氣賀澤保規(明治大学教授)による)。
AD	735	乙亥	7年	良	12年	35歳	55歳	14歳		11月14日、 <b>舎人親王</b> 、没、60歳。「日本紀」の編集総裁。舎人親王 墓誌「乙亥年十一月四日 六十歳」(奈良市黄金塚古墳周辺)。
AD	736	丙子	8年		13年	36歳	56歳	15歳		
AD	737	丁丑	9年	時	14年	37歳	57歳	16歳		4月17日、 <b>藤原房前</b> 、天然痘にかかって死亡、57歳(藤原不比等の次男)。5月1日、日蝕が起こり宮中で <b>僧六百人を招き各自1巻ずつ大般若經</b> を読ませる。7月13日、 <b>藤原麻呂</b> が天然痘で没、43歳(不比等の4男)。7月24日、 <b>藤原武智麻呂</b> が天然痘で没、58歳(不比等の長男)。8月5日、 <b>藤原宇合</b> が天然痘で没、44歳(不比等の3男)。 <b>藤原四兄弟が全て病死</b> 70)。
AD	738	戊寅	10年		15年	38歳	行基	17歳		法隆寺への食封が再開される(法隆寺資財帳。蘇我氏(聖徳太子)の崇りを鎮める為だった150)。
AD	739	己卯	11年	代	16年	39歳	72歳	18歳		法隆寺夢殿を再建、藤原不比等の妻・橋三千代名義で夢殿に寄進(法隆寺資財帳)150)。橋三千代は733年にすでに没しているから藤原一族は橋三千代の名義を使って寄進したか。
AD	740	庚辰	12年		17年	40歳	73歳	19歳		天平12(741)年4月、紀伊国那賀郡 <b>三毛寺</b> の知識・ <b>紀直商人</b> が般若經を写す(和歌山県史古代一)。知識とは寄進すること。また寄進者を云う。
AD	741	辛巳	13年		18年	41歳	74歳	20歳		<b>調月大歳神社</b> 、行基菩薩の発願により <b>祭神・社殿を現在地に遷す</b> 。 <b>神堂薬師像(井上)</b> 、 <b>行基の作</b> 50)。7月23日、正五位上 <b>紀朝臣麻路</b> を式部大輔とす。 <b>紀清人</b> /治部大輔、兼文章博士に任ず70)。
AD	743	癸未	15年		20年	43歳	76歳	22歳		4月21日、太上(元正)天皇崩御70)。
AD	744	甲申	16年	奈	21年	44歳	77歳	23歳		<b>紀国益</b> 没、天平甲甲(744)十六年八月五日。 <b>紀清人</b> /平城京留守官。9月、巨勢朝臣島村が南海道鎮撫使となる89)。
AD	745	乙酉	17年		22年	45歳	78歳	24歳		

AD	746	丙戌	18年	良	23年	46歳	79歳	25歳		4月5日、 <b>紀麻路</b> を南海道鎮撫使(70,89)。5月2日、従四位下 <b>紀朝臣清人</b> を武蔵守とす(70)。
AD	747	丁亥	19年		24年	47歳	80歳	26歳		聖武天皇の勅願により、この年、良弁僧正が石山寺を開基する(石山寺縁起)。
AD	748	戊子	20年	時	25年	48歳	81歳	27歳		4月21日、 <b>元正天皇</b> 、没。69歳。第44代天皇。「元興寺伽藍縁起并流記資財帳」の奥書に「僧綱、三綱の牒に依り、件の事を検へ訖ぬ。云云。天平廿年六月十七日。大僧都行信(113)とみえ、この時に <b>元興寺縁起文の内容が改変</b> されたとみられる。
AD	749	己丑	天平感宝/天平勝宝				82歳	28歳		2月2日、 <b>行基</b> 、没。82歳(民間僧から大僧正となった)。天平21年、近江国 <b>石山寺</b> が創建される。4月14日、「 <b>天平感寶</b> 」に改元する。7月2日、聖武天皇が譲位し、皇太子・阿倍内親王が即位(第46代・女帝、孝謙天皇)、元号が「 <b>天平勝寶</b> 」と改められる。
AD	750	庚寅	2年	代	46 孝謙	阿倍内親王	鑑真	29歳		
AD	751	辛卯	3年		3年	34歳	64歳	30歳		
AD	752	壬辰	4年		4年	35歳	65歳	31歳		4月9日、 <b>東大寺の本尊・盧舎那大仏</b> が開眼する。
AD	753	癸巳	5年		5年	36歳	66歳	32歳		散位従四位下 <b>紀朝臣清人</b> 卒し(70)。
AD	754	甲午	6年	奈	6年	37歳	67歳	33歳		1月16日、遣唐副使の <b>大伴古麻呂</b> が唐僧/ <b>鑑真</b> ら8人を伴って帰国する。11月、多治比真人が南海道鎮撫使となる(89)。
AD	755	乙未	7年		7年	38歳	68歳	34歳		1月、阿倍朝臣広人が南海道使となる(89)。[唐の天宝14年11月9日]、節度使安祿山、史思明が蜂起し唐が内乱状態となる(安史の乱)(16)。
AD	756	丙申	8年	良	8年	39歳	69歳	35歳		5月2日、聖武太上天皇、没。56歳。遺言により道祖(ふなど)王を皇太子とする。6月21日、聖武天皇の遺品を東大寺盧舎那仏に献納する。東大寺は600点の献納品を収納するため三角形の木材を組合わせた校倉造の <b>正倉院</b> を建てることになる。[唐の天宝15(756)年6月9日]、哥舒翰が安祿山の計略にかかって大敗。[唐の天宝15年6月13日]、 <b>玄宗皇帝</b> が楊貴妃(Yang-kwei-fei)を伴って都落ちする。[唐の天宝15年6月14日]、安祿山に追いつめられた玄宗皇帝は宦官の高力士に仏堂のなかで愛妾の <b>楊貴妃</b> を縊殺させる(楊貴妃38歳)(16)。
AD	757	丁酉	天平宝字		9年	40歳	70歳	36歳		8月18日、「 <b>天平寶字</b> 」と改元。 <b>養老律令</b> がまとめられ757年に施行される(16)。
AD	758	戊戌	2年		47 淳仁	25歳	71歳	37歳		8月1日、舎人親王の第7王子・大炊王が即位する(第47代・淳仁天皇)(70)。
AD	759	己亥	3年	時	2年	26歳	72歳	38歳		8月3日、鑑真が <b>唐招提寺</b> を建立する(16)。
AD	760	庚子	4年		3年	27歳	73歳	39歳		1月、馬史夷麻呂が南海道使となる(89)。 <b>藤原不比等の妻・橘三千代</b> は天平宝字4(760)年、正一位大夫人を贈られた(70)。
AD	761	辛丑	5年	代	4年	28歳	74歳	40歳		11月、百済王敬福が南海道使となる(89)。
AD	762	壬寅	6年		5年	29歳	75歳	41歳		
AD	763	癸卯	7年		6年	30歳	76歳	42歳		5月6日、僧 <b>鑑真</b> が76歳で没。(中国から渡来した名僧)(16)
AD	764	甲辰	8年		7年	31歳		43歳		紀猿取、没。天平宝字甲辰(764)八月十五日。9月11日、太政大臣・藤原仲麻呂が上皇孝謙女帝に対して天皇方として挙兵。9月19日、 <b>藤原仲麻呂</b> が惨殺される(59歳)。9月20日、 <b>道鏡</b> が <b>大臣禪師</b> となる。10月9日、淳仁天皇が藤原仲麻呂と共謀したとして廃され( <b>廢帝</b> )、孝謙女帝が重祚(第48代・称徳天皇)。10月14日、 <b>廢帝淳仁天皇</b> が <b>淡路島</b> に流される。紀伊国分寺が完成する(70)。
AD	765	乙巳	天平神護		48 称徳	孝謙重祚		44歳		1月7日、「 <b>天平神護</b> 」と改元する。10月10日、称徳女帝が那賀郡鎌垣(粉河町)行宮を経て和歌浦玉津島に至る(統紀)。この頃、称徳天皇(女帝)、 <b>尼岡山に尼寺を建立</b> (尼岡山美福門院尼寺旧記(22))。
AD	766	丙午	2年		2年	49歳		45歳		
AD	767	丁未	神護景雲		3年	50歳		46歳		<b>紀国栖</b> が紀伊国名草郡司に任命される(89)。8月16日、「 <b>神護景雲</b> 」に改元する。6月22日(新曆)、那賀郡司・外従六位上・日置毘登弟弓が紀伊国分寺へ稲一万束を献上し外従五位下を授けられる(70)。
AD	768	戊申	2年	奈	4年	51歳		47歳		9月、高向朝臣家主が南海道使となる(70)。
AD	769	己酉	3年		5年	52歳		48歳		
AD	770	庚戌	宝亀	良	49 光仁	61歳		49歳		8月4日、称徳天皇(孝謙天皇)没。53歳(46代・48代天皇。女帝)。これを以て <b>大和朝廷の皇統が断絶</b> 、以降は天智天皇を皇祖とする百済皇統となる(泉涌寺位牌)。10月1日、白壁王が即位する(第49代・光仁天皇。天智天皇の孫)。10月1日、「 <b>寶亀</b> 」に改元する。 <b>紀朝臣船守</b> が <b>紀伊国司</b> *に任命される(紀伊續風土記)*。*国司は律令制の地方長官(守・介・掾・目の四等官あり、任期は4年か6年。国衙にあって国内の行政・治安・裁判・軍事・教化に当たった。紀伊国の国衙(国司の官庁)は名草郡直川保にあった。国衙の所在地を国府、または府中と云い和歌山市府中はその名残。宝亀元年、 <b>大伴孔子古</b> 、 <b>粉河寺を開基</b> (粉河寺縁起・89)。この年、唐僧・為光上人が紀伊国名草郡 <b>紀三井寺を開創</b> する(89)。この年、沙門信行が那賀郡豊田村(打田町)に福琳寺を開基する(福琳寺文書・打田町史料編一)。
AD	771	辛亥	2年		2年	62歳		50歳		<b>紀嫁姫</b> (父・紀諸人、母・不明。施貴皇子の妃。光仁天皇・難波内親王(?-773)の母)、771年、皇太后を追贈される(70)。
AD	772	壬子	3年	時	3年	63歳		51歳		前太政大臣 <b>弓削道鏡</b> 、薨(70)。
AD	773	癸丑	4年		4年	64歳	佐伯真魚			俗姓・ <b>佐伯真魚</b> (後の <b>空海</b> )、 <b>讃岐で誕生</b> (佐伯氏は大伴氏の裔)。和氣清麻呂が伊都郡梓田村萩原に八幡神を勧請して宝来山神社を創建する(和歌山縣伊都郡誌)。
AD	774	甲寅	5年	代	5年	65歳	2歳	53歳		この年、紀伊国日高郡が朝廷に塩三斗を貢ぐ(平城京跡出土木簡・和歌山県史古代史料一)。
AD	775	乙卯	6年		6年	66歳	3歳	54歳		10月、 <b>吉備真備</b> 、没。83歳(70)。
AD	776	丙辰	7年		7年	67歳	4歳	55歳		1月、多治比真人三上が南海道使となる(89)。
AD	777	丁巳	8年		8年	68歳	5歳	56歳		3月13日、紀伊国名草郡の人、 <b>紀直麻呂</b> ら二十八人に神直を、直の諸弟ら二十三人に紀名草直を、直秋人ら百九人に紀忌垣直の姓を賜る(70,89)。
AD	778	戊午	9年		9年	69歳	6歳	57歳		
AD	779	己未	10年		10年	70歳	7歳	58歳		
AD	780	庚申	11年		11年	71歳	8歳	59歳		
AD	781	辛酉	天応		50 桓武	45歳	9歳	60歳		1月1日、「 <b>天應</b> 」に改元する。4月3日、山部親王が即位する(第50代・桓武天皇)。この年、富士山が噴火(70)。
AD	782	壬戌	延暦		2年	46歳	10歳	61歳		8月19日、「 <b>延暦</b> 」に改元する。
AD	783	癸亥	2年		3年	47歳	11歳	62歳		この年、大伴船主(孔子古の子)が紀伊国粉河寺の鎮守として那賀郡上丹生谷村の丹生明神社から丹生都比売神を勧請する(89)。
AD	784	甲子	3年		4年	48歳	12歳	63歳		造長岡宮史 <b>紀船守</b> 、都を移すため山城国乙訓郡長岡村を視察。1月11日、桓武天皇が長岡京に移る(70)。

AD	785	乙丑	4年	5年	49歳	13歳	64歳没		7月17日、 <b>最澄</b> が比叡山に庵をかまえ12年間の山ごもりの修行に入る。 <b>淡海三船</b> 、没 <sup>70)</sup> 。
AD	786	丙寅	5年	6年	50歳	14歳		貞元	9月7日、神野親王、誕生(後の第52代天皇の嵯峨天皇) <sup>70)</sup> 。
AD	787	丁卯	6年	7年	51歳	15歳		3年	
AD	788	戊辰	7年	8年	52歳	16歳		4年	7月6日、 <b>紀古佐美</b> が征東大使に任ぜられる <sup>70)</sup> 。
AD	789	己巳	8年	9年	53歳	17歳		5年	3月、諸国から集まった兵が多賀城に集結する。6月3日、征東将軍・ <b>紀古佐美</b> の軍が胆沢地方の頭領・阿互流為(あてるい)の部隊に遭い敗退する。9月8日、紀古佐美が <b>敗北して帰京</b> 、9月19日、詰問される <sup>70)</sup> 。
AD	790	庚午	9年	10年	54歳	18歳		6年	5月8日、外従八位上・ <b>紀直五百友</b> を以て <b>紀伊国造</b> となす <sup>70)</sup> 。
AD	791	辛未	10年	11年	55歳	19歳		7年	
AD	792	壬申	11年	12年	56歳	20歳		8年	1月23日、山背国の四十町の土地を大納言紀船守に賜った。紀船守62歳没(延暦壬申十一(792)年四月二日、贈正三位右大臣) <sup>106)</sup> 。
AD	793	癸酉	12年	13年	57歳	21歳		9年	遷都の為、正月15日、左大弁 <b>紀古佐美</b> らを派遣して山背国葛野郡宇太村を視察させた。2月21日、征夷副使となった <b>坂上田村麻呂</b> が天皇に辞見する <sup>106)</sup> 。

[◀ Back](#)